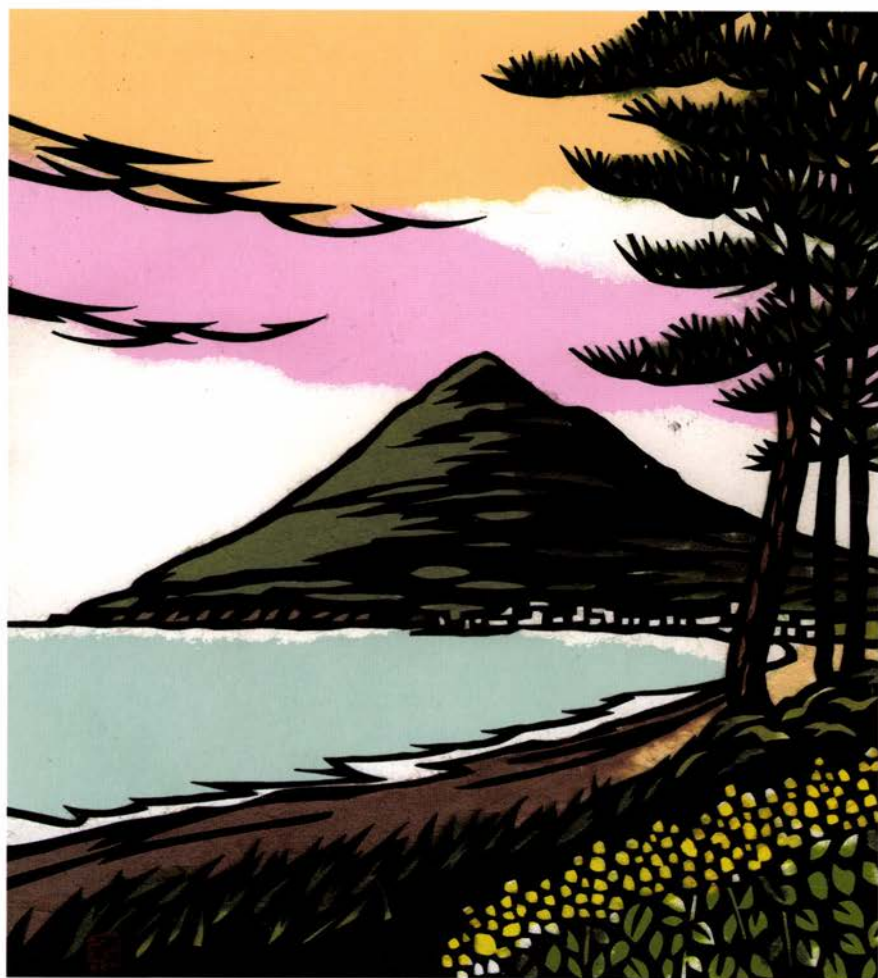


川柳塔

創刊大正十三年 通卷一〇六六号
平成二十八年三月一日発行（毎月一日発行）
昭和二十八年三月一日発行（毎月一日発行）



日川協加盟

No.1066

三月号

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あらゆる印刷物の事なら、まずお電話を……。
あなたの思いをかたちにします。

美 研 ア ー ト

〒530-0022 大阪市北区浪花町9番4号

TEL (06) 6372-1178

FAX (06) 6372-1196

E-mail : bikenart@ea.mbn.or.jp

信頼され、社会に役立つ製品を作る

高級封筒専門メーカー



コーキ封筒株式会社

本社 富田林市若松町東3丁目7番8号 〒584-0023

TEL 0721-25-7210 FAX 0721-25-9484

東京営業所 東京都中央区日本橋本石町4丁目5番8号 〒103-0021

(日本橋川村ビル4F)

TEL 03-5255-5158 FAX 03-5255-5159

<http://www.koki-envelope.com>

昭和の川柳百人一句展から きり絵展

小島 蘭 幸

「俳風柳多留が刊行されて二五〇年の節目、不思議な巡り合わせを感じる。人間の生々しい本音を表現する川柳の魅力を多くの人に知ってもらえばありがたい」。これは、昨年の7月4日の山陽新聞に自選自筆「現代川柳百人一句集」として紹介された記事の中の、大野風柳先生の言葉です。この記事をきっかけに、幻の句集として「現代川柳百人一句集」が再び脚光を浴びることになったのです。

そもそもは、山陽新聞柳壇の選者の一人、芳賀博子さんが墨作二郎氏より譲り受けて、新聞に紹介されたのが始まりです。その博子さんから、今、神戸文学館で「昭和の川柳百人一句展」が開催されますとお便りを頂きましたので、2月2日に行ってきました。

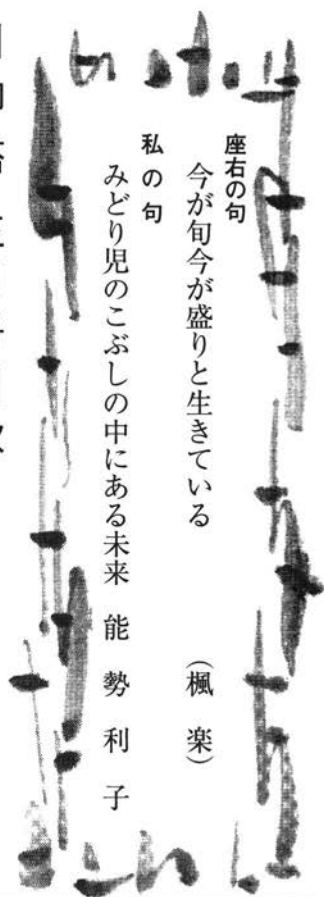
百人の色紙を一度に観賞出来ることは、素晴らし

いを通り越して正に圧巻でした。百人の川柳作家の直筆のあたたかさ、昭和の時代背景に見える逞しさ、深さ。そして何よりも作家の生まれ育った環境をほのぼのと感じる事が出来ました。百人の色紙には、作品に合わせて、小野為郎氏が一枚一枚心を込めて絵を描かれています。為郎氏の絵はシンプルですが深いのです。為郎氏の絵を見ながら観賞すると、作品が一段と深くあたたかくなるのです。不思議です。

こおろぎのように泣けたら涅槃かな 薫風
蟹の目に二つの冬の海がある 風柳

薫風先生の色紙にはこおろぎと鮮やかな緑、風柳先生の色紙には美しい蟹の絵が描かれています。二つの目もしっかりと描いておられます。「現代川柳百人一句集」は昭和56年風柳先生の柳都川柳社から発行されました。昭和の川柳百人一句展は神戸文学館（水曜休館）で3月13日まで開催されます。

2月3日、楓楽、たもつ両相談役と一緒に川柳塔表紙のきり絵でお馴染みの、前田尋きり絵展を観賞する事が出来ました。きり絵の色彩の美の中で前田先生としばらく談笑することが出来ました。とても心地の良い時間でした。



座右の句

今が旬今が盛りと生きている

(楓 楽)

私の句

みどり児のこぶしの中にある未来 能勢利子

川柳塔 三月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「開開岳」

■巻頭言 昭和の川柳百人一句展からきり絵展……………小島 蘭 幸……………(1)

八角弁当……………西出 楓 楽……………(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸選……………(4)

自選集……………(44)

温故知新……………(47)

川柳塔の川柳讃歌⁽³⁵⁾……………木津川 計……………(48)

新川柳鑑賞⁽⁴⁹⁾……………麻生 路 郎……………(49)

水煙抄……………川上大輪選……………(50)

橘高薫風句抄……………(51)

誹風柳多留一二篇研究 33……………(72)

愛染帖……………新家完司選……………(74)

檸檬抄「愛 着」……………三浦強一・長浜美籠共選……………(78)

英語 de Senryu⁽⁵¹⁾……………吉村侑久代……………(81)

八角弁当

西出 楓 楽

瘦身瘦軀で晩年は酸素ボンベを引きながら、川柳塔のみならず川柳界のため活躍された橘高薫風先生が、七九歳で力尽きたのは平成一七(二〇〇五)年四月二四日。早いもので九一年になる。

先生のお墓は、大阪市天王寺区城南寺町の「全慶院」にある。全慶院は川柳塔本社、毎月本社句会が開かれるアウイナ大阪と同じ区内で、先生が近くから川柳塔を見守って下さっていると思わずにおられない。

全慶院は元和三(一六一七)年、廣蓮大誉上人が開山した由緒あるお寺である。大阪城南の方向に当り、太閤さんが有事に備えてお寺を集めた所で、周辺は軒並みお寺といっても過言でないほどに連なっている。

その中で規模は大きくないが、落ち着いた佇まいのお寺で、幕末・明治の学者である佐々木春夫の碑、落語家の初代桂

一路集〔通う〕

内藤憲彦選

(82)

初歩教室「單純」

上垣キヨミ選

(83)

川柳塔鑑賞

山口光久

(84)

水煙抄鑑賞

水野黒兎

(86)

民族の詩歌⁽⁴⁵⁾

緒方美津子

(88)

追悼 山崎君子さんを悼む

三好專平

(89)

追悼 西内朋月大兄に捧ぐ

奥田みつ子

(90)

インスピレーション・ナビ 印象吟

澤井敏治

(91)

せりりゅう飛行船⁽⁶³⁾

大西泰世

(92)

第40回全日本川柳2016年愛媛大会案内

新家完司

(94)

二月本社句会

岩崎眞里子

(96)

句会燦燦

各地柳壇(佳句地十選/堀 正和・山岡富美子)

(101)

三月各地句会案内

柳界展望

(104)

柳界展望

■編集後記(ひとこと/川崎ひかり)

(116)

座右の句

なわとびに入っておいで出てお行き

(118)

私の句

娘も嫁ぎあなたの傘でひと休み

辻村洋子

座右の句

朱夏・まつお

(118)

文枝・桂小文枝の墓所がある。その一角の、年代を経た橘高家のお墓に、先生はご先祖と一緒に眠っておられる。

ちなみに、全慶院は我が家から徒歩二〇分にある近鉄百貨店の、ほぼ中ほどに位置する。だから道すがら時折手ぶらで、気楽にお参りすることになっている。

さて前置きが長くなったが、本題に入ろう。過日、近鉄百貨店で水了軒の「八角弁当」を見つけた。この老舗は何年か前に倒産したが、その後立ち直ったのだろうか。八角形の折りに入り一七種類のおかずがちまちまと入った幕の内弁当は、美食家の先生のお気に入りだった。

亡くなる数年前、川柳仲間三、四人で豊中市のご自宅を訪ねた時、お土産に持参した。普段から食が細くて周囲をやきもきさせた先生だが、一時間以上もかけてすっかり平らげられたのを思い出した。

早速一折りを求め帰りに墓前にお供えた。帰宅してお下がりやを、かつての先生の様にゆっくり味わった。すると、どこからか「あんさん、ええ句を作りなはれや」という先生の声が聞こえた。



小島蘭幸選

米子市 竹村紀の治

ジャンボくじ外れて羊年仕舞う
カミさんの味には遠い干鰯煮る
元旦のあずき雑煮に責められる
目の前で確認されるお年玉
相好を崩すところにあるお酒
船溜り昭和を生きた船眠る

鳥取市 両川無限

ズル休みした日誰とも遊べない
父逝つてもう弱虫でいられない
胸元をえぐる女の変化球
紅一点ふわり空気を裏返えす
泥遊び好きで陶芸家になった
にんげんを脱いで五感を遊ばせる

弘前市 福士慕情

ちちははの元へ傘寿の姉が逝く
三人の子に看取られてゆく浄土
声掛けに返事しそうな花魁

お別れの涙遺影に笑われる
姉弟の絆を分かつ雪しきり
弥陀の掌に雪花ふわり舞い落ちる

和歌山市 楠見章子

ライバルの絵馬も並んでおめでとう
鼻ピアスにささつと席を譲られて
蠟梅の香る小径を日に三度
弱虫返上孫サツカーを好きになり
ほがらかな人が音頭をとつてます
派手な赤夫に着せるこれも愛

鳥取市 森山盛桜

一心に前に向かって行く縫い目
懐メロを歌うと僅か血が騒ぐ
日の丸という真円が頼りない
すきま風なんて昔は無視をした
百均の値段適正だと思ふ
輝かぬまま修造をめくるだけ

倉吉市

牧野芳光

こんなにやくの物足りなさとお優しいさと

どつちかけの頭の中と僕の部屋

ハイハイと言った事もなく過ぎる

百点でなければ軌道には乗れぬ

雷鳴がドボルザークに乗ってくる

いい加減諦めなよとカラス鳴く

高槻市

初代正彦

こましゃくれた孫が癖まで真似てくる

本音吐きすつと肩凝り消えました

探るより真正面から訊いてみる

先みえぬ世間手探りして生きる

追い風に恵まれ脇が甘くなり

鹿寄せのホルンも奈良の冬景色

鳥取市

岸本宏章

免許証返納バスの客になる

マイナンバー記憶はたぶん無理だろう

紅白のムードに演歌そぐわない

露天風呂猿も湯冷めをするだろう

趣味多忙骨身惜しんだことはない

戦場の手柄はいらぬ自衛隊

鳥取市

岸本孝子

初春は陽の色さえも華やいで

どの賀状見ても幸せそうな猿

おせちより寿司に手が出る孫の箸

趣味はしごと健康寿命延びそう

お互いが突つ支い棒で無事に暮れ

国民が国を支えるボランティア

弘前市

高瀬霜石

生きているつもり予定を書き入れる

自慢話の相槌はまあ難しい

飴玉をくれるおばちゃんおばあちゃん

感想を問われピカソに似てますな

万歩計付けると歩幅広くなる

笑ったり泣いたりいそがしい酒だ

桜井市

安土理恵

ひとり歩き何かが見えるかも知れぬ

早咲きへ無理をするなよあせるなよ

酔うまでは折り目正しい女です

キリストと飲んで懺悔をしよう

親らしい物も持たせず娘を帰す

この人の妻で終るのですねわたし

和歌山市

木本朱夏

白いギター弾くには年を取りすぎた

母の忌が巡る踊っていられない

花一輪欠かさぬのは文机

ははに遇う浅い眠りの中で逢う

逢うたびに痩せてゆくのは母の影

咳きこめばははの気配のする夜更け

尼崎市 山田耕治

黒猫の目に射貫かれた夜の道

冬の満月見ている人はありますか

紫が好きな仏にセージ剪る

雪よりも詩的氷雨が降っている

何と言う字を必要にされている

はっこりもいいが文学でできますか

出雲市 竹治 ちかし

まだ遊びたいのに今日も陽が沈む

美しく包み思い出持ち歩く

ケンケンパー想い出残る里の路

恋をしてより美しくなった女

聞く方はそうは思わぬ武勇伝

ご臨終みんな仏の顔で逝く

岡山市 永見心咲

老いらくの恋に変速ギア入れる

エジプトの夫と時間差初日の出

ライトアップ木々もストレス性胃炎

遊子なほ残月に行くネットカフェ

順不同他界の席は花万朵

それからの風は弱者を楯にして

大阪市 栃尾奏子

女三代見守って祖母の雛

フルーツパフェきつと裏切るのは苺

去るんだねここが楽園とも知らず

桜満開泣きたくなるの何故ですか
悲しいと人は宇宙に独りです

もう泣かぬ決めて私は羽化をする

檀原市 居谷真理子

その見栄が君を貧しく見せている

からっ風空き缶だったのね私

海鼠コリコリ海の悲しみ囁んでいる

腐りながら生まれる深い深い森

掘って掘る翼も鱗も持たぬから

便箋の折り目キリリと来た手紙

香芝市 大内朝子

びよこびよこと春の芽吹きを見る枯野

淀みから抜けて羽撃く未来地図

父母偲ぶ夕日殊更あつたかい

めくじらを立ててた頃が恥ずかしい

チャネルを変えて苦境を乗り越える

気持よう浮き世離れのワンカップ

三田市 堀正和

祝日がこんなにもあるカレンダー

初氷踏んで楽しいどんど焼き

いらつしやい自動で蓋も開くトイレ

時時はオウンゴールもして元氣

車椅子一度試乗をしておこう

今日もまたいい日だったと酒が言う

札幌市 小沢 淳

葬式のローン如何に電話切る
老いなりのシナリオ客のど肝抜き
酒二合サブリメントでよく眠れ
カミオカンデ頭脳支えた町工場
通りゃんせ男八十駄馬の足

札幌市 三浦 強一

植山行き増便となる高齢化
上流も下流も同じ十二桁
十二桁寿限無寿限無に嗤われる
部分麻酔ブスブスと刺す音を聴く
悪妻に詠んでばかりですみません

青森県 松山 芳生

難聴でよかった罵声がやわらかい
黙っていられない命あるうちに
片方の腎臓ホルマリンにねむる
正直がすぎて歪な楕円形
合鍵の錆が気になる二枚舌

弘前市 浅田 隆樹

炊飯の水を多めに身と思う
葬儀には孫一同の花欲しい
年金の額に見合ったしめ飾り
爽やかな朝新雪のよい香り
保冷剤だらけ我が家の冷蔵庫

弘前市 稲見 則彦

日捲りの格言重くのしかかる
死者生者輪になり踊る七回忌
雪寄せはプラス思考と心得る
地吹雪は桜便りを聞いて去る
福寿草春一番のテープ切る

弘前市 岡本 花匠

雪止みて天下一品雪景色
雪掻いて今朝も元氣と通路開け
心配な杖にまつわる亡母の風
友の賀状卒寿間近に苦笑い
とろろ飯妻は笑顔の幸福日

弘前市 今 愁女

豪雪はしんど降らねば物足りぬ
少雪にイベント変える自治もあり
お神酒の残り楽しむことを知らされる
申年に北限の猿大人しい
津軽には七草よりもかいの汁

弘前市 須郷 井蛙

七転び八起きの倍で今がある
デイサービス昔のようによくもてる
猫さんに腰痛体操教えられ
8時間ぐっすり眠れた幸がある
幸せな日本お米どうするの

弘前市 高橋 洋子

井戸水を飲んだ昭和が風化する
結果オーライ神も仏も幻に
隅っこで風を避けてる意気地無し
ふる里を出るも残るも迷い道
あと一人自分が入る墓掃除

黒石市 相馬 一花

ブレゼント着いたと明るい孫の声
市役所でんやわんやのマイナンバー
大震災死ぬも生きるも紙一重
転倒のエクササイズをする老女
再婚は太い熟女に決めている

さいたま市 星野 育子

暖冬を喜んでばかりもおれず
冬日和バスの空席ほっこりと
寢床から明けの明星見て目覚め
アリとキリギリスに見る幸福論
普通というあやふやとした線引き

東京都 川本 真理子

寒がりの亡父 犬小屋に目張りする
しみじみと歩く入院前の友
矜持とは 辞書で引いても難しく
この冬はしきりに家鳴り胸に沁み
ぼくはもう流されてない泳いでる

横浜市 菊地 政勝

ブランデー一滴落し至福の茶
持病など忘れるほどの遊び好き
過ぎ去った世界へ戻す同期会
ハミングの妻へ何かを期待する
断捨離をしたのを忘れ探しもの

富山市 島 ひかる

ピンチから気力が湧いてくる不思議
嫌なこと忘れて渡る丸木橋
自分の歳中心に見る死亡欄
谷底へ落す勇気を持たぬ愛
地域とのつながりがあり子は育つ

可児市 板山 まみ子

思うこと少し違ってきた仲間
降らず泣き降り過ぎて泣く雪と生き
地産地消米に魚に旨い酒
夢追った人の多くが知る挫折
現実を知りすぎ夢は持てぬまま

愛知県 早川 遯行

断捨離が進み黄泉路へ加速する
才覚はあっても運は味方せず
忙しい時に真の句が生まれ
中国の暴走誰も止められず
不発弾抱いて飲み干すコップ酒

犬山市 金子 美千代

魔法瓶こたつ我が家はまだ昭和

冷蔵庫使いきる年末行事

街中が美しくなるお正月

有り難いと言っておられぬ暖かさ

舵取りが方向音痴日本丸

犬山市 関 本 かつ子

清楚さが遠退いてゆくお振袖

あの人の賀状で買える二割引

乾盃の音頭夫も春の声

ご近所の姿が見えぬお正月

バアちゃんが生きてる内よ三ヶ日

京都市 清 水 英 旺

探り足手探りで明日も生きるのか

年賀状欠札と決め喪失感

独居する友の笑顔に安堵する

眠らせるわけにはゆかぬ重い過去

運命という車から降りられぬ

京都市 西 村 益 子

家族旅行一人正月風邪に泣く

掃除おせちなんにも無しのお正月

きのうも今日も鍋に残りのおでんなり

身の丈に合った生活年金者

身の程を知って無駄口六分目

京都市 榎 本 宏 子

ばあちゃんの新ニューファッションにするセンス

大好きな兄ちゃんのお宝もの

動かせば迷い子になる財布

合鍵を返し自由を手に入れる

年金と友を減らして喜寿迎え

京都市 三 宅 満 子

ころろと笑い上戸が明日嫁ぐ

悪さする日本の森のスギヒノキ

眺めてるだけなら雨も雪もええ

卵あれば月末ピンチ乗り切れる

おでん種取り合いたした子父になる

長岡京市 山 田 葉 子

違う景色にきつと出会える坂登る

やつと手に入れた自由がほろ苦い

歳を経て繋ぐ絆はゆるくする

ドクターの指示正月は守れない

海外に出かける勇気なくしてる

八幡市 今 井 万 紗 子

ばあちゃんも女子会とやら春うらら

ネギ刻むついでに愚痴も切り刻む

笑ってる間にへこんだわたし解けていく

卵レシビ何とかなるさ妻は留守

泣かんとくもすぐ桜咲きはこる

大阪府 桑 田 ゆきの

花の苗植えて育てる楽しさよ
疎まれているを承知の介護室
妻笑顔一家を包む温い風
荒波を越えた晩年ダム静か
老いの愚痴ほどほどに聞く日向ぼこ

大阪府 野 田 栄 呼

高齢化へ爆進してるそのひとり
好物が並んでいます夕餉膳
シクラメン愛に応えて二冬咲く
もったいないいまだ戦後が離れない
川柳で心の健康保つて

大阪府 米 澤 俣 子

豊かさに馴れて工夫が消えてゆく
ありがとう増えて互いの身を案じ
赤ん坊の百面相は見て飽きず
ペットじゃないよボクは立派な介助犬
聞く方にまわって旨いお茶にする

大阪府 池 上 清 治

児童劇澄ましてこなす女房役
金魚鉢ネオンテトラの澄んだ青
演奏会ひとときわ澄んだバイオリン
ビリーでパス春の入学皆一緒
吉野山混まずに楽し早い春

大阪府 井 丸 昌 紀

古い殻破ったはずが殻の中
かつこ良く老いるためには金が要る
いびつな国と気付かぬ振りで暮らす
ふぞろいの林檎揃うと仲間割れ
骨壺に畳んだはずの嘘が漏れ

大阪府 内 田 志 津 子

羊から猿に継がれる和の未来
色褪せた70年も九条も
あいうえお朝のリハビリ絶対調
ありがたい叱咤激励長女次女
秋の森草木に魔法かけられる

大阪府 宇 都 満 知 子

名字が変わる嬉しかったなその昔
温もりと笑顔みやげに子が集う
楽しろよ素直に聞ける子の言葉
孫を抱く私のころ無垢になる
お化粧をしたけど今日は冬ごもり

大阪府 江 島 谷 勝 弘

飢える子がいるのに私肥えている
要領悪いが長生きしています
この頃はエスカレーターお友達
七十五日すぎれば日本よいところ
空爆をすればするほどテロが増え

大阪市 榎 本 日 の 出

ハグだけで心の傷も元通り
たつぷりと聞いた小言が残らない
負けん気をもらう敵から味方から
母さんが静かになつて治まった
すばらしい明日があるので逝けません

大阪市 榎 本 舞 夢

穏やかな元旦穏やかに暮れる
初句会大盛会で恙なく
見守り隊すんで七草粥する
街中は商売繁盛福娘
成人式孫の晴着と出かけます

大阪市 大 川 桃 花

残業は絶対しない頑固者
毒舌の女将にもある泣き所
公園の孤食へ鳩がとり囲む
年二回打音検査に行く歯医者
プラスアルファあるから通う美容院

大阪市 奥 村 五 月

泥船に笑う事なく五十年
気が付けばアチコチ体錆だらけ
水爆でまた遠くなる北の国
車内でもスマホ走らす赤い爪
居酒屋で三猿なんてしてられぬ

大阪市 笠 嶋 恵 美

忙しい息子来たけど十五分
マイナバーおぼえられない難儀やな
エジプトに行った気で見える王妃展
ささやかに集う正月三回忌
三回忌中華料理でにぎやかに

大阪市 川 端 一 步

知らぬこと何でも聞いて楽に生き
断捨離の古書にごめんと手を合わす
多喜二から信三からも学ぶこと
笑い皺だんだん増えて丸くなる
失敗の話にみんな口を出す

大阪市 熊 代 菜 月

老いのグチまだまだ続く昼下り
あれそれで通じる友が二人居る
ゴメンネの代わりコーヒーそつと出す
妻の背の丸さに気づくフルムーン
影ばうし連れて明日も夢さがし

大阪市 古 今 堂 蕉 子

反論を聞きたく小さな鈴を振る
トンネルを出たらトンネルという齡
夢中になったのは私振つたのもわたし
警察手帳一度じっくり見たいもの
花言葉の気持ちも知らないで

大阪市 小谷 集 一

年末の入院今年の厄払い
絶食五日重湯がくれた深い味
人恋し病院で読む年賀状
丹田になんとかなると言い聞かす
胸底の一番奥にあるものしも

大阪市 近藤 正

沖繩はみんなで決めてやりたいの
十八歳政治うごかす鍵にぎる
外国語飛び交っている天守閣
見限られ株価暴落さるの年
若者の世直しパワー幕開けだ

大阪市 坂 裕之

新しい年は遣りたいことだらけ
遠慮せず得意なことを遣ってみる
あわてずに真つ直ぐ行けとアドバイス
注意した孫に失敗正される
愚痴つても良くなることは何もない

大阪市 佐藤 忠昭

中八に厳しい人は最中好き
テニオハに厳しい人は丸い酒
読み込み句禁止駄目だと殺生な
外来語七五調には語呂悪い
カタカナ語文字数多く字余りに

大阪市 田浦 實

苦手な人さける特権老いにより
冥土への旅は最後の任務です
オンとオフてきばき決めて老いに喝
仏の笑み心和ます中宮寺
新年が奪い取つてく持ち時間

大阪市 谷口 義

お変りはございませんか露の臺
陰干しをしていたように老いてゆき
入道雲整形はしておりません
あたり前のように立っているのは味方です
こけそうでこけないゆらりゆらりです

大阪市 津村 志華子

正直に生きて生涯無位無冠
上品に話すと舌がもつれだす
盆梅は父の精魂秘めている
根性を磨く至難の技である
ふる里の味ほんわかと粥に梅

大阪市 津守 なぎさ

風あげに興じる子等にある未来
夢に出る君はいつでも超元氣
元氣そうパワーを連れてくる賀状
温泉で感謝感謝のお正月
お年玉子供がくれる逞しさ

大阪市 寺井弘子

ざらざらも艶やかになる老いの恋

いくさの血平和へ折り深くなる

青いまま未来に残す空と海

ワンテンポ遅れた音でついて行く

どの色に染まるか呱呱の声あげる

大阪市 寺本実

ヘルパーに悪いと励むダイエツト

子育てにリセットボタンありません

決めてから同意求める妻がいる

水爆はあるが配れる米はない

マイナンバー他人のサイフをのぞきこむ

大阪市 原田すみ子

風邪やら何やら去年引き摺ってる

一年をかたちで見せる孫ひとつ

柏手が上手に打てていい気分

紅白も座って見てる気になれず

待ち人も来るらし小吉も手頃

大阪市 板東倫子

新米と新茶が正月のおもてなし

我が身には別に不要のマイナンバー

新成人夢ありそうで無さそうで

黙っては居るが嬉しい年賀状

何をしてたのかな戦後の七十年

大阪市 平嶋美智子

初日の出高く上がってから拝む

気がつけばテレビ我鳴っていた夜半

大声に心が動きついて行く

すばみたくなく川柳にしがみつく

ばあちゃんも年玉ほしいなあ孫よ

大阪市 伏見雅明

実弾で戦争ごっこ死の誘い

うしろ暗いところあるのか愛想良い

ヤドカリは自分に合った家見つけ

予算枠広げて妻と食べ歩き

故郷に客扱いで迎えられ

大阪市 藤田武人

ランドセル重くて靴が履けません

行き帰り僕ひとり占め無人駅

自分史の新たなページ踏んで春

耳かきのふわふわ眠る妻の膝

一人旅ひと駅ごとに物語

大阪市 藤原千恵子

検診日私にとつて一大事

たつぷりと布団を乾して除夜の鐘

名も解らぬ花の蕾が丸くなる

何故だろう一般参賀に胸潤む

お喋りを鍋の具にしてお正月

大阪市 升成 好

あくせくのあなたに欲しいのは笑顔
輪の中の真ん中辺に居る安堵
石庭に心の迷い問う正座
そびえ立つ妻はわが家のハルカスだ
妻の愚痴いつもノイズと限らない

大阪市 松尾 柳右子

暖房に頼り新聞読んでいる
三月を元気に迎え八十路過ぎ
ウォークの八十路元気に未来みる
孫子来て楽しく語る新年だ
青天の続く大阪良い所

大阪市 山本 加お里

今盛り楽しくいこう冥土まで
七転び八起きでまたも踏ん張れた
寒い暑い生きているってすばらしい
宣伝に踊らされては飲むサブリ
介護ロボ使える時代来てほしい

大阪市 吉内 タカ子

これからは無き青春を取り戻す
柳友の心戴き趣味宝
猿知恵を借りて木登り鍛え抜く
初みくじ明るい言葉心に抱く
生かされる日々を楽しく無駄はぶく

大阪市 若本 安代

余韻まだ歩き続けるコンサート
迎春の準備整え蹴躓く
筋書きに師走骨折書いて無い
三ヶ日なんにも出来ずなにもせず
松明けて膝のお皿に鱗二本

堺市 齋藤 さくら

年賀状あて名手書きと決めている
まだ動く手足に感謝初詣で
ダイエット三が日だけ止めておく
婆ちゃんも年玉貰い弾んでる
ドラマより箱根駅伝釘付けに

堺市 奥 時雄

ワイン専門になってしまった酒の友
椅子席で和み難いねクラス会
テロよりも怖い原発後遺症
脈をとる医者はみんなの目を集め
脳味噌の移植できないほうがいい

堺市 柿花 和夫

先達を悪者にしてはしご酒
ペット屋で目が合ってからうちの犬
爆買いに呆れながらも羨やんで
議員の居眠り太い警策欲しくなる
予報士がイケメンだから信じます

堺市 加島 由一

初日の出拝んだあたりもう桜
新成人みんなきれいでたくましい
なんとなく買ってしまった恵方巻き
いわし焼く金子みずゝを口ずさむ
旅にでも出よう女難の相がある

堺市 源田 八千代

その昔惚れた弱みで介護する
三人に二度ずつ出会う不思議な日
体力を維持する為のリハビリだ
おひとり様転ばんように気を付ける
おひとり様生活リズム崩さない

堺市 澤井 敏治

節目年傘寿と喜寿のお赤飯
トラウマになってしまった震度3
啓蟄にまたも目覚める放射能
天網恢恢汚染はいつか暴かれる
真面目人間バイキンマンに憧れる

堺市 遠山 唯教

寄り添っていると心があたたまる
身の回りこなして生きる自負があり
やりくりのなか穏やかに暮らしたい
もてあます庭を剪定して褒める
拍子木をたたく夜警の背が丸い

堺市 内藤 憲彦

お互いに素のままだが良い定年後
挑戦と今年も同じお書き初め
輪の中にひとりは欲しい天邪鬼
本当の鬼は平気な顔で居る
総活躍と言うが懷まだ寒い

堺市 村上 玄也

朝食の催促はせぬ日曜日
浴びるほど飲んだ酒には味がない
ちびりちびり飲むから分かる酒の味
被害者までブライバシーが曝される
アルバムに国民服を着てる父

堺市 矢倉 五月

腕まくり昔ほどには捗らず
せかせかとするまい今日は指定席
話相手に飢えていた日の長電話
やんわりとお言葉ですがと返された
同窓会毎年お独り様が増え

池田市 栗田 久子

お雑煮をいただいてこそお正月
元日の日暮れ月日は早そうだ
健やかな明日を信じて祝う屠蘇
やすらごうわたしらしさの年始め
自分との戦い健康を誓う

和泉市 横山捷也

貝塚市 石田ひろ子

妻という喧嘩相手のいる温さ
王手飛車孫に打たれた初勝負
出直しの一步ギヤーを入れ替える
珍しく今日忘れ物なさそうだ
欲捨ててみたが方向定まらぬ

茨木市 島田誠一

胸突き八丁最後の坂を楽しまん
球ひとつ甘くて天と地に分かれ
アメリカのリズムで踊る疲労感
防戦に怯まぬ妻の二枚腰
赤ひげに専門は無い過疎の村

茨木市 藤井正雄

気の弱い分だけ酒に強い人
話し込む囲炉裏に地酒夜が長い
先方に都合を合わす弱み持つ
二つ三つ用事を溜めて出る炬燵
ワンルームせめて豪華に蘭の鉢

大阪狭山市 矢野梓

八十路坂年相応に羽撃こう
今日生きる事を大事になずな粥
マニユアルで詫びて伝わらない誠意
医者が問う一言毎に葉増え
新鮮な野菜いただき二人鍋

愚痴こぼすわたし叱咤するわたし
前向きが好きで挫折にも馴れた
まだまだとも思うやつぱりとも思う
一週間纏め朝ドラ嫁と見る
鳥の声聞きたく赤い実を残す

河内長野市 植村喜代

海が遠くなり里心も遠くなる
外人が来て日本中観光地
クリスマスもお正月もない子供達
親切はうれしい歩けなくなつて
辛くても食べる物だけお正月

河内長野市 大島ともこ

いい子ねと頭を撫でてくれた亡母
肩書き取れ仕切り直しの身と心
大事な物落とした道を辿る今
さて今日は何処で何して過ごそうか
来世も末っ子の席譲れない

河内長野市 梶原弘光

自由っていい朝まで生テレビ
日曜の図書館いつもと違う顔
仲違いお国訛でヨリ戻す
下り坂しつかり足下を照らす
掴み合うケンカ久しくしていない

河内長野市 木見谷 孝代

初詣済ませみんなで墓参り
動かなきゃ正月気分抜けきれず
脳にさす油どこにも売ってない
お互いを許し合うのがうまくなる
友の喪へ寒中見舞白椿

河内長野市 黒岩 靖博

退け際を美学で飾り子に託す
諍いは柳に風と受け流す
うち外と諸刃の顔を持つ仮面
懺悔して洗い流せる程の罪
メタボ腹共に仲良くフルムーン

河内長野市 坂上 淳司

従兄忍ぶ川柳塔の合祀祭
四季問わず割れて痛そうワイフの手
フロメシネル止めて立派な主夫目指す
役員のオウンゴールに揺れるFIFA
名前見て男女わかった昭和の子

河内長野市 谷 久美子

手抜きした皺寄せ暮の大掃除
孫育ち一桁多いお年玉
こつこつが苦手私のか八
ネクタイを外し気楽な無精髭
風止んで今日の私は日本晴

河内長野市 辻村 ヒロ

指体操スマホ相手に老いを討つ
生き方を追求してる五七五
雨音にショパン重ねたコンサート
ワイシャツが出番無くなり寂しがる
汽車ぼつぽ何時も貴方が居てくれる

河内長野市 藤塚 克三

貧血も血の気多いと医者笑う
風呂と湯豆腐妻に電話の冬の駅
惚けかけか悩みが消える知らぬ間に
猫に鈴亭主に名札放し飼い
自由社会意外あれこれ管理され

河内長野市 松岡 篤

老けまつせ見ざる聞かざる言わざるじゃ
三箇日政治の空は青かった
若者よスマホ相手に立ち飲みか
カーナビと喧嘩をしても始まらず
人手減り機械と会話させられて

河内長野市 村上 直樹

まだ動く柱時計に身を重ね
動けるうちは一隅照らすボランティア
ばたばたするなはずれ闇魔が連れに来る
本音と本音ぶつかり合って仲が良い
日に一度芽吹かなくとも善の種

河内長野市 山岡 富美子

父の書庫わたしは海を持っている

テロに核いまそこにある導火線

年金の揺れが激しいゴムボート

燥いでもけつまずいても消費税

粉雪がはらはらと舞い寄せ鍋に

河内長野市 山室 光弘

年金をやがては背負う人がない

嫁が来ず姑気分味わえず

耐えているけなげな新芽雪の中

すつきりと片付け過ぎて物探し

何よりの救いは錢で済むことや

岸和田市 岩佐 ダン吉

誤解した私が悪いのでしょうか

だんだんと道見えてくる急がねば

損得から少し離れて見ませんか

ひとつだと決めた険しい道になる

どうせなら一番前を歩きたい

岸和田市 雪本 珠子

いたわりを身にしみて聞く万歩計

愛猫はわたしのベストパートナー

へそくりが同居しているキーケース

大切にすぎた賞味期限切れ

輝いて素敵に年を重ねたい

四條畷市 吉岡 修

脳トレも今更やけどやってみる

一票が選挙の度に悩んでる

もったいないまだ雑巾になる檻樓を

黙祷のあとはもっぱら飲んでいる

了見が狭いと猫が捨てぜりふ

吹田市 太田 昭

明日生きるその活力を蓄える

通販で命も買える時が来る

母の呼ぶ鈴で今夜も寝つかれず

四人揃うとつい残業がしたくなり

語り部の昔話が囲まれる

吹田市 大谷 篤子

追越してまた追いこされたどり着く

手の皸に楽しい日々の重さ知る

反論はすまい静かに通りすぎ

気を取り直すコツは出来てます

笑ったら許す気持が湧いてきた

吹田市 木下 敏子

門松も日の丸も立て申の春

褒められた猿はにこにこ頭掻く

一万歩歩きましたと初詣で

注連縄に今年の夢と春の夢

輪の中で凄く人気の猿の芸

吹田市 須磨活恵

へまをして目からウロコが取れた鬼

寝て起きて三食食べて幸とする

ひと言の優しさ心満ちて来る

生きている限り煩惱も柵も

体力は落ちてても気力は前向きに

吹田市 野下之男

先生も職場結婚育休暇

テレビでも判らぬ言葉辞書をひき

双子です皆に見られる仲の良さ

アイデアをいつも忘れぬ総理です

われ勝ちに若い選手が伸びてくる

吹田市 山本希久子

前傾の姿勢で冬を乗り切ろう

からだの声に耳傾けて昼を寝る

ワレモノ注意夫婦茶碗もばあちゃんも

玄冬へ川柳ひとつ手にのこり

紅一点混じり空気が甘くなる

高石市 浅野房子

初詣でもう無理でした四方拝

幼き日の幸せ今も胸にある

百人一首ひとり復習しています

マイナンプーもうあきらめた出さんところ

松の内そんな言葉も消えました

高槻市 井上照子

大正を背に負い卒寿の春が来る

夢の中走りまわっている私

人生の夢まだまだと意地を張る

歳聞いて驚いて観る芸達者

不自由でやっぱり歳を自覚する

高槻市 指宿千枝子

行く年に来る年に見る過去未来

階段や坂にも負けじ初詣で

お年賀の自筆に溢るお人柄

脳トレに欠かせぬ作句せせせせ

ジャンボくじ何かいいことありそう

高槻市 片山かずお

やる気ほど体が動かない悲哀

熱心が過ぎて厳しくなる言葉

遠慮なく時間を食べる探し物

揺れる頭が座席に並ぶ終電車

パソコンに軽くあしらわれる後期

高槻市 島田千鶴子

連れ糸やつと解けた十二月

秋色のままで新年明けました

自分史をつなぎ合わせる古写真

佗助の切ないほどの優しさよ

木枯しの吹くこともなく寒の入り

高槻市 杉 本 義 昭

高槻市 原 洋 志

苦勞した分だけ線が太くなる
自慢した時もあつたね力瘤
妻が繼ぐ味噌汁母のオリジナル
金銭が絡むと記憶力もどる
スカートを踏まれて前へ進めない

高槻市 左右田 泰 雄

カラッポの頭は軽い音がする
ちやっかりが板についてるつまみ食い
立てば腰歩けばひざの痛さかな
飲み込みの早い男の勘ちがい
湯上りのほてりをさます青葉風

高槻市 富 田 美 義

ささやかな自慢十指がよく動く
点滴の成果ころもリズムミカル
三寒四温おんなが威張る雛飾る
カネ残し波乱万丈逝きました
苦も楽も妻のリードで生きてきた

高槻市 富 田 保 子

老夫婦今が幸せ星月夜
人生のイロハを学ぶ縄のれん
カラオケは胸の痛みに吐くところ
頬紅もマニキュアもぬりよく動く
いいニュース増やせば視聴率が

挨拶の言葉が冬の風となる
大根の穴が冬へと続いている
歩道橋どこに触れても冬の音
早々の風邪に去年のクスリ飲む
黙とうへ冷たい雨が降りやまず

高槻市 安 田 忠 子

目覚めれば生きる悦び初日の出
赤一つ身に着け弾む申の年
たつぷりと一年嬉しカレンダー
名も忘れかけた人から来る賀状
年賀状向後止めると五通来る

豊中市 池 田 純 子

屠蘇を飲む杯に我家の歴史あり
お手入れを済ませ振り袖孫の代
七草の粥がほんのり胃を休め
年をとり短氣と頑固がつちんこ
普段着のままで迎える六十歳

豊中市 江 見 見 清

朝練の自転車類染める少女
結末がわかり退席者が続く
八ッ目の癖はどなたにも内緒
使われたその後を案じてるドレス
自分史で言いきかせてる疼く退去

豊中市 藤井則彦

ケータイもスマホも持たぬ心地良さ
まだ二十本あるぞと磨く愛しい歯
マンネリの色が染み込む自己過信
へんてこな発想が生むヒット作
いざという時に動いてこそこのボス

豊中市 松尾美智代

反省するお猿さんには負けられぬ
日本酒をおいしく思うお正月
0度でも怯まず歩くスニーカー
明日の朝必ず来ると疑わず
振り返ると許してほしい事ばかり

豊中市 松村里江

初詣五百羅漢に会いに行く
ズケズケと言う嫁ですが頼り甲斐
道連れが出来てやすやす万歩計
みっちりと行儀作法は祖母ゆずり
枯れても女紅一刷毛の身だしなみ

豊中市 水野黒兎

足音が弾むあの子は受かったな
ふる里としみじみ思うところ芋
湯巡りの下駄ちぐはぐもまた旅情
健脚を誇るが喘ぐ奥の院
ゴム毯は弾み世間へ子ら巣立つ

富田林市 片岡智恵子

老いすすむ悔しい事の多からん
庭の芝刈り腰痛に苦しむ意地か
亡夫のいた頃のきれいな芝の彩
檸檬の黄 身のすみずみが洗われる
好きな事さしておけばと言う息子

富田林市 関よしみ

気に入りの筆一本で白椿
下萌えが持ち上げてくる力石
芹を摘む辺りで踊る春の風
ときめきをチョコとワインで練っている
赦すこと知って花びらがひらひらり

富田林市 中井アキ

火柱を抱いてた頃は強かった
態勢を守りに変えるのも一手
空は青今日は良い事ありそうだ
聞こえない振りして大事は避けている
杖なしで散歩お日様に感謝

富田林市 中崎深雪

梅の花よ寒中見舞いありがとう
リハビリの足元照らす水仙花
私には冷たいペインクリニック
健康こそ宝とやっと知りました
ひたすらにお迎えを待つ午前二時

富田林市 中村 恵

寝屋川市 森 茜

乾いた心に真心よく響く
かすみ草バラの誇りを支えてる
本当の自分を生きる冬最中
自尊心だけが成長して困る
昨日の自分を自分で乗り越える

富田林市 肥山 一文

自分史のメインテーマは負けおし
酒の席つい引き受けた重い役
前向きに生きて立派に終りたい
お前さん昔なじみに呼ばれたい
席ゆずり心豊かに満たされる

富田林市 山野 寿之

冬の底蹴飛ばすでかい春の音
全開の窓いっぱい青い風
目や鼻を擦りにきた春の風
反省に希望加えて去年今年
鮮明な視力白内障手術

寝屋川市 平松 かすみ

ひなあられポリポリ何時もいい笑顔(89歳)
マイナンバーどんなメリットありますか
ハードルがだんだん高くなる老後
リモコンを並べて今日が始まった
断捨離で子等のハードル下げてやり

山眠り天狗パワ―を溜めている
枯蟪蛄亡父の威嚇に似て不動
渡したい襷が一步届かない
負い目ある記憶にふっと叩かれる
水雨降る闇なんのそのミケの恋

寝屋川市 富山 ルイ子

今年また頼むと贈る福袋
金柑が黄色く椿色を添え
無理をしないと決めていたのに貼り薬
歩けます立つて歩けるお正月
明日の朝を祈りながらで床に入る

羽曳野市 安芸田 泰子

春寒く落花か雪か梅の道
初曾孫抱けた幸せ初日の出
妄想を掻き立てる如雪が舞う
お正月過ぎれば元の一人ぼち
空白の時間を探る二日酔い

羽曳野市 宇都宮 ちづる

優しさに触れてひと時丸くなる
丸餅に拘る雑煮亡母の遺旨
海外に住む娘に送る守り札
通話ゼロなのに携帯持つ夫
叱ったか覚ええない娘に叱られる

枚方市 海老池 洋

年の暮れ主夫の買い過ぎ買い忘れ
年賀状猿百態でおめでとう

マイナンバー覚えるなんてとても無理
独り住まい誰はばからぬ咳払い
放棄され自然に還る千枚田

枚方市 小林 わこ

酔つて来た本音ポロポロ落ちてきた
他人なんです優しくできるのが不思議
大勢の輸血の御蔭生きている
そっくりの他人いるって面白い
相席になり楽しさもう予想外

枚方市 伊達 郁夫

年金の救命胴衣に穴が開く
ネギ刻む母は弁解などしない
夕焼けに溶けてしまった僕の影
涙腺の緩い男にまた惚れる
母からの形見が似合う秋景色

枚方市 丹後屋 肇

妻ならではの手弁当を嘸み締める
愛着でてかてか光る土器の壺
ライバルを亡くして肩が抜け落ちる
罇のある夫婦茶碗で済ます昼
一句抜けてビールを髭にする

枚方市 寺川 弘一

格差とは運がよい人悪い人
疑問符をいつも心に隠し味
得意の日失意の日にも先ずお酒
哲学は1+1の答えから
幸せは通り過ぎてからわかる

羽曳野市 徳山 みつこ

まつさらな今年は虹色に染める
笹鳴きに聞き惚れながら上り坂
イケメンのドクター脈拍を上げる
お蔭さまほんやりしてる暇がない
荒野荒波難民の列絶えず

羽曳野市 永田 章司

カーナビに案内されて知らぬ土地
リストラも妻の笑顔に救われる
テロ組織ガンとよく似る症状だ
レイアウト妻にまかせた台所
手作りのおせち我が家の自慢です

羽曳野市 藤原 大子

世間話笑って聞いて知恵もらう
下向いた日も大切なページ
ポーカーフエイスできれば楽になることも
思いつきり心を割って仲間おり
大根炊く匂いが家路急がせる

羽曳野市 三好專平

独裁はキリストまでも誑かし

一億総活躍月火水木金金金

おかずより薬の多いわが夕餉

公園の砂場にのこる子らの夢

盤上を修羅場と化して王を詰め

羽曳野市 吉村久仁雄

人間を続けて募る好奇心

カーナビの道なき道を選んで行く

人肌爛がいいと妻にはよう言わず

しつかり遊ぶと仕事したくなる

大大吉もう大吉で喜べず

東大阪市 北村賢子

成人式母の思いのいかばかり

指折って待った娘が明日帰る

別別の行く先あって恙無し

口癖は痛いイタイとドッコイシヨ

一年は早くて老いの日は長い

東大阪市 佐々木満作

伊勢参り今年の運は吉と出た

後期迎え先祖に謝意の手を合わす

九条の傘に甘えている日本

筆圧が衰え文字が踊ってる

ラグビーの街で出会ったトライ君

藤井寺市 伊藤アヤ子

お年玉の遣り繰りに知恵しぼり出す

暖冬にタートルネック温くすぎる

年賀状確め合ってうれしいな

きれいだよ成人式の孫娘

年輪の数だけしわも深くなる

藤井寺市 太田扶美代

お喋りで軽い憂鬱消している

子育ても夫育ても済んで今

水仙活けて今日の独りを持て余す

犬小屋に正月飾り忘れない

グラビアの豪華にほど遠いお洒落

藤井寺市 鴨谷瑠美子

春はあけぼのこの人生もすばらしい

夢に見た街現実に見当らぬ

約束が重くて飛べぬ冬の蝶

橋のないシナリオだった淋しいね

人を許すテンポのなんとゆるやかな

藤井寺市 鈴木いさお

あの日から僕は十二桁になった

友の死へ夜の明けるまで泣いてやる

死んだふりして雪辱を狙ってる

口数の少ない人にあるオーラ

頼りない男が好きなのもおんな

矢印の通り来たのに行き止まり
台本の通りに此処は鬼は外
軸足が決まらず五体不満足
まだ主婦の顔する白い割烹着
親友は一人でいいと思うとき

藤井寺市 高田 美代子

神苑に神猿まさる舎設え民守る

藤井寺市 田付 絹枝

猿石の全身キラキラお賽銭
神輿まで猿の装飾楽しそう

山王祭神輿の猿も飛んで出る
三猿が揃って雑煮美味いこと

藤井寺市 津田 シルク

晴着みせに万の神を梯子する

好きなだけお呑みなさいと三ヶ日

脱皮して親の知らない友が増え

人の知恵に街へ出て来た猿笑う

玉手箱開けた記憶のない白髪

藤井寺市 吉田 喜代子

捜し物一個発見二個無くす

マイナンバーこんなに数が多くては

申年に気温は跳ねる株眠る

常連に素通りされて閑古鳥

終活を見事設計友が居る

奇麗な手だな何の苦勞も知らぬ手だ
玄関で靴揃える子揃えぬ子
子の機嫌良い日を選び用頼む
一日中目が離せない孫の守り
どの子の絵にもチューリップ咲く幼稚園

藤井寺市 若松 雅枝

ひとり酒寂聴法話ききながら
来世は母になりたし子沢山

箕面市 酒井 紀華

バラの棘に記憶をたどる認知症

終章はピンクのドレスひとり旅

わたくしの波瀾万丈まだつづく

箕面市 広島 巴子

神様もてんでこまいのお正月

正月の雲は懐かし奴形

孫走る追って息切れ歳自覚

穏やかに回る地球を人壊す

カルチャアの宝庫で楽しクラス会

箕面市 出口 セツ子

お節も旅行も無いが無事初日

退院の主人と見てる初日の出

渋滞をテレビで見てる三が日

三万より無くして欲しい消費税

アベノミクスの恩恵縁の無い庶民

八尾市 内海 幸生

無理しても笑顔作ればやがて春
生きてるかそれだけで足る友の筆
書き順を違えた文字が達筆で
喘息の咳を見兼ねた他人の手
自問自答仏像見つめ小半日

八尾市 高杉 千歩

マイペース動く手足が有難い
おめでとうござる九十の年新た
毎日が終活痛いところあって当り前
無一物時代も耐えて九十年
健康寿命過ぎていますの前頭葉

八尾市 寺川 はじむ

景気よい話の落ちを待つて聞く
負けようが熱が冷めない得なトラ
ドリカムの熱唱増埒なかに居る
トンボリの蟹手招きで春を呼ぶ
戦と平和語る陛下の目が熱い

八尾市 宮崎 シマ子

今年の計炬燵と一緒に考える
新日記嬉しく困る温暖化
冬バラを画かない内にしおれてる
難点は老いても妻のソプラノ調
娘の決心親はたじろくばかりなり

八尾市 村上 ミツ子

骨折をしなかっただけ儲けもの
若くなるなんてことない去年今年
食べて寝て脳もお休み三が日
青信号渡り切れない老いの足
お尻たたくより背中を押してやる

八尾市 山根 妙子

指揮棒も踊り第九で年の暮れ
元日はワルツとウインフィルに暮れ
天皇の慈愛あふれるご会见
甘口の吟醸に合う一の重
小さき客嬉し疲れし三ヶ日

兵庫県 福原 悦子

紅葉も少し離れて秋の贅
焦げ飯が好きでやつぱり婆ちゃん児
秋深しふらりと足向くのは枯野
心まで童謡浸る楽しいよ
時めきのピンクを色どる女です

神戸市 井上 じろう

木漏れ日を受けて歩いた恋の道
折れやすい心にはっぱかけている
御馳走を目で食べている人もいる
カラフルな日傘の下にキュートな娘
曇天にステッキ代わり洋傘を

神戸市 上田 和宏

駅伝をたつぷりと見た三が日

買ったけど置場に困る福袋

魔法ですヨイショで上がる重い腰

動物園駝鳥の餌を鳩が盗る

柿挽いでカラスがカアと啼く気分

神戸市 奥澤 洋次郎

経済成長さえた果ての落椿

各々に引かない意地を感じてる

前向きでなけりやならない大会句

税金をバラマキ票の束を買う

これからへの思いを胸に初日の出

神戸市 白川 淑子

一冊との出会い古書店の片すみ

モーニング珈琲に集う自由人

未来より今日一日が命懸け

電飾の町でロボットの行進

止まったら二度と動かぬボンコツ車

神戸市 能勢 利子

おひなさま出そうか迷い目をつぶる

梅桜順序忘れず咲くかしら

明るいと言われるけれど根は暗い

クロスワード辞書を引いたらあかんな

震災の時役立ったのは小銭

神戸市 松井 文香

団欒の笑顔今年も良い予感

初孫の巫女の御奉仕そつと見る

お守りを三ツ買います孫が巫女

快調でテクテク三社初詣で

おめでとう笑顔で交す初句会

神戸市 山口 美穂

ひとりという自由に不自由つきまとう

失敗をひとりで笑い馬鹿だねと

正月もここまでという小豆粥

誕生日めでたいとする八十路坂

亡父母へ今日も一日ありがとう

神戸市 山崎 武彦

ウウマンボ掛け声だけはまだ負けぬ

天狗にはなつてないかと鏡見る

ロボットと阿吽している十年後

長い文二枚目からは火のページ

踊りの輪抜けると後期過ぎていた

明石市 梶谷 和郎

浄土へはいくつくぐるか善の門

優柔な夫だひとふり塩を振る

告白のページで発火する一途

嫌な客帰り空気を入れ替える

雪しんしん今年も聞こう除夜の鐘

芦屋市 黒田 能子

コースから外れぬように鈴鳴らす
集団ですねるとデモになつてくる
もう今はうす味でいい間柄
おせっかいの骨折り損が止められぬ
思い切り涙流して忘れます

芦屋市 竹山 千賀子

柔らかな口調で正面突いてくる
百歳の酸いも甘いも吸った皺
何にでも挑戦好きな太い指
甘えたい背にファスナーのドレス着る
猫背伸び真似て私もストレッツ

尼崎市 市坪 武臣

空気なら我慢できます我が故郷
千年杉耐えて踏ん張る底力
ゆるキャラの妻が必死にペダルこぐ
忘れない記憶を繋ぐルミナリエ
都大路にタスキを繋ぐチームの和

尼崎市 加川 靖鬼

天国は一杯らしい徳を積み
近頃は胸を診てない聴診器
五郎丸の指雑念を拭い去る
ぐつぐつと鰯大根で聞く本音
どん底を這うた痛みは知っている

尼崎市 長浜 美籠

耳遠くなつて顔つき丸くなる
一人かいノラがガラス戸越しに見る
丁寧な爪を磨いた初仕事
貯えた鬚泣き虫の影は無い
変り身の早さ時流の波にのる

尼崎市 春城 年代

「冬景色」唄えば幼い日かもどる
干し柿をばあさまとする縁側で
酒まんじゅう食べて酒倉の溝
伏見人形稲荷人形ふるさとは
秋まつり氏神様の裏で逢う

尼崎市 藤井 宏造

大晦日二つは欲しい冷蔵庫
三が日例年通り酒浸り
何がおいしいのかわからない蕎麦湯
喫煙室の掃除愛煙家にたのむ
冬晴れに友の計報がやつて来た

尼崎市 藤岡 りこ

春はそこおみくじは吉受験生
タイプ違つてこそその夫婦で五十年
料理出ておしゃべり止まぬクラス会
無意識に覗いてみたくなる小窓
地の利が良くて我が家は無料宿泊所

加西市 金川宣子

バースデーカードも兼ねた年賀状
うれしな背なの赤ちゃんニツと笑み
リバウンド自分に甘いダイエツト
見て聴いて話したくなる噂好き
紙一枚本音掴めぬアンケート

川西市 大坪一徳

尊敬の出来る上司は当りくじ
亀になりパワハラ上司やり過ごす
これという才は無けれど運はある
古稀記念ゴルフクラブを買い替える
良し悪しがはつきりしない世に生きる

川西市 山口不動

目が覚めて五体点検異常なし
ああ友よ娘癌だと便りくる
ささやかな夫婦のデートひつまむし
五百年生きてきた杉今朝触る
齒を磨き朝ドラ見てる老い二人

篠山市 酒井健二

駅頭で靴ひも締める入社式
生き残り賭けて若者こき使う
執着は無いと言つてドック入り
ジム通い作り笑いが出迎える
黙つてるしゃべると脳が露呈する

篠山市 酒井真由

病棟に灯りがとる雪しまく
擦り傷が男の勲章だった頃
がやがやと来てワイワイと三ヶ日
ご存知か粋なお金の使い方
喝采を浴びて喜劇の幕が開く

三田市 足立つな子

年越しの準備万端年の功
念入りに大掃除して申の春
暮れからの疲れがどつと七草日
快食で冥土の誘い追っ払う
少し地味サファイアが合う歳になり

三田市 石原歳子

元旦に間違えて呼ぶ子の名前
新年のスタートまるで春のよう
正月も終りひとりの元通り
目立たないパセリのような人が好き
暖冬も指先痛い春を待つ

三田市 上垣キヨミ

幸せの家族笑っている賀状
年頭の計は老春謳歌する
お見舞に大安の日を確かめる
孫自慢DNAを疑わぬ
柳友の計報に老いの背が凍る

三田市 尾崎 一子

皆揃い目出度い顔で屠蘇に酔う
年賀状持つてコタツを一人じめ
みなおいでお利口さんにお年玉
よく遊びよく学ぶ子の未来地図
しなやかに時代の波に乗る長寿

三田市 北野 哲男

子守唄聞かず育つてうす情け
起伏ありゴール無いのが趣味の道
成人式眩しくなつて孫帰る
新しい部品が増えて来る体
爺さんもスマホを買つてから無言

三田市 久保田 千代

私を変える一步が踏み出せぬ
戦中派わたしも古くなりました
健康が宝何にも欲しくくない
ひた向きに曆重ねて今日の幸
ことごとく思い出母に辿り着く

三田市 野口 晶子

日記帳折り目に残る青春賦
死神の甘いささやきちよつと揺れ
小さな罪リセットですね除夜の鐘
平成生まれか細さ悟り男塾
センター終え級友みんな偉く見え

三田市 福田 好文

古稀の春長生き競う子犬飼う
自慢話されるとすぐに眠くなる
母に似た口調で妻に叱られる
忍の字を悟れば楽々夫婦坂
老いた目が本を段々遠くする

宝塚市 田中 章子

温暖化つつじ狂つて咲くお寺
嘘ひとつ許してくれる紅をひく
いつ電話しても亡母さん家に居た
ケータイのあなたほんとはどこにいる
バックミラー手を振る孫を確かめる

西宮市 秋元 てる

あれやこれより取り敢えず日銀券
若作り面映いけど元氣出る
色分けの好きなお人が居て困る
頑張ろう老いには老いの絵が書ける
成り行きはどうあれ私はわたしの絵

西宮市 足立 茂

振替えにした元旦の休肝日
重箱の角をつついて孤立する
振り返れば幸せだった上り坂
圏外でメールが亡母に届かない
営業の呼吸覚える焼き鳥屋

西宮市 緒方 美津子

さざんかの武者ぶるいして雪の朝
父からの棚田の米はもう来ない
千円の散髪好きなうちの人
病院で患者さまとはこそばゆい
凶のみくじたたんで誓う一歩前

西宮市 片山 忠

緑黄野菜妻の監視で食べる朝
心から笑った写真ありません
ねこ舌の男でピンチにも弱い
成人をちゃんと歩けと突き放す
毒舌も聞いてもらってこそなんぼ

西宮市 亀岡 哲子

ひいばあちゃんも手振りで踊る車椅子
坂の上バリアフリーの家が建つ
二階から降りて仏とシェアルーム
禁止区域もぐらも猫も子供産む
屁理屈を捏ねて閻魔を煙に巻く

西宮市 西口 いわゑ

華やいで女性ばかりの新春の宴
好いことも数々あった過ぎし日々
冬木立すつくと天をひとりじめ
身の丈に過ぎた願望それもよし
生き方は下手でいいんだ天の声

西宮市 福島 弘子

替え難い手触り馴染む万年筆
通行料かけてもうどん讃岐まで
澤さんの花道飾るVシユート
誇らしい元素の名付けする日本
新幹線青函トンネル通る春

西脇市 七反田 順子

ふつふつと日長になっていく心地良さ
心の旅想い出と会う演奏会
山頂だわが街広い四万人
年賀状体調くずす友もいて
孫が来る近況聞けるお正月

姫路市 古川 奮水

清水寺 安は流石に効思う
元旦か輝く光り飛行雲
怠け顔さらりと流す朝の風呂
新年の恒例朝湯後祝杯
有りの儘話して呉れる孫の口

奈良県 安福 和夫

短縮の文芸深く果てしなく
常日頃広角レンズ身に埋めて
古希過ぎて酒やはやきの駄句ばかり
酒の句が多くてヤング寄り付かず
自作詠みドヤ顔見せた友偲ぶ

奈良県 谷川 憲

吐く息が白く連なり寒稽古
初夢は宝船から宇宙観る
平凡な暮らし彩る旬の菜
胸底に悔恨のトゲ痕がある
喜寿まぢか意欲に体ついて来ん

奈良県 中原 比呂志

マイナンバーやがて号令かかるかも
温室で育ちイエスノー言えず咲く
柔らかな食で握力ない男性
ルールなき商魂追って来る電話
長話そこに隠れていたヒント

奈良県 渡辺 富子

会いたいのは賀状だんだん減っている
涙腺のゆるむ話と鍋囲む
たっぶりの砂糖まぶしてある本音
人生の余白へ咲かす一行詩
ゆったりと夢道連れにひとり旅

奈良市 阿部 紀子

叔母たちは戦中戦後生き抜いた
苔の上真紅の椿の絨毯
文殊院孫の合格祈る絵馬
半世紀ぶり懐かしくハグをする
満開の椿今年も番きて

奈良市 大久保 眞澄

困ったらお猿に知恵を借りに行こ
茶柱に独り笑いをしてしまう
昔の夢は猿に進呈しましたの
ティータイム鯛の匂い残る部屋
散らかして片付けてまた散らかして

奈良市 加門 萌子

外遊が好きでばらまきおともだち
増税の裏か表か三万円
シリア見よ難民を見よいわれそう
賀状欠礼何時に言おうかいいうまいか
バイキングで無くて良かった旅の朝

奈良市 辻内 げんえい

リタイアし夢にチャレンジ申の初春
三猿と無縁の妻に攻められる
入れ歯はめウィッグ着けて今日もいく
リタイアのカウントダウン悔いはない
暖冬予報当たって欲しいと願う歳

奈良市 米田 恭昌

三猿に背き耳たて目を開く
猿真似はよそうぼちぼち自我を出す
策略家ホンネを見せたことがない
座布団舞った徳俵のふんばり
リーダーズダイジェスト僕の青春記

生駒市 飛 永 ふりこ

水トイレ日本の凄さ緻密さを

大声も我が物顔もチャイニーズ

気を張れば風邪もすんなり雲隠れ

ツアーでもおばちゃんごつい気炎吐く

寝言では怒鳴り散らすと言われている

大和郡山市 坊 農 柳 弘

生きたくて虚飾の過去を食べ尽くす

その先の修羅は本音を語らない

身の程を悟る淑女にある未練

手の届く処に夢を遊ばせて

前置きが長くて本音分らない

和歌山市 磯 部 義 雄

猿真似で生きた傘寿がする懺悔

初夢は八十年も実らない

頑張つて生きた証の靴の底

ボジティブに今年も生きる五七五

一步前妻が私の影を踏む

和歌山市 岩 本 美智子

猫と老女共に百歳祝う膳

搗きたての餅喉元を無事通過

余命得て成人式の孫という

八十五歳抜歯の跡に粥の粒

眠れないボーロ一粒またひとつ

和歌山市 上 田 紀 子

二人いて淋しいなんて贅沢ね

仏様に話す良い事悪いこと

ペアのシャツ幸せそうに風に揺れ

何不足ないけど明日が不透明

趣味三味家事もこなして手を抜かず

和歌山市 喜 田 准 一

明日の夢抱いて超え行く峠坂

遠回りしても大事な話合い

ストレスを溜めて腹より目が据わる

お互いの溝を埋めてく話し合い

失恋を重ねて出来た人の幅

和歌山市 坂 部 紀久子

仕来りをさばつたままで年明ける

来る筈の賀状が来ないどうしよう

娘が去んで湯のたぎる音むなしくて

何もかも自動私は食べて寝て

もう一度冒險しようか置ごたつ

和歌山市 武 本 碧

ゆるゆると流れゆく半端な時間

どじ踏まぬ人に少うし距離を置く

スランプをするうと抜けて朝が来る

モノクロの日々が顔出す鳩時計

人生のラストは神の思し召し

和歌山市 玉置当代

なるようになるときさやく初春の風
年重ねまだ三猿に習うこと
寂しさを月に嘆いてひとり棲む
会いたいと言つてた友が逝きはつた
おかしいぞスマホに鍵を掛けている

和歌山市 土屋起世子

賽銭をはずんで春の風を呼ぶ
里の家祭りの金魚置いて去る
素っぴんの団欒みんなよく笑う
良い事が続いてネジを締め直す
向い風家族を庇う父だった

和歌山市 福井菜摘

一期一会風と命の詩うたう
双方を立ててピエロになっている
新しい風を掴んで子ら巣立ち
父の傘出る少年の好奇心
母の忌よばつりぼつりと梅の咲く

和歌山市 福本英子

野良猫にお守りされてる昨日今日
慣れてきて餌が遅いとノックされ
窓越しの縁側猫の坐る位置
ほとぼりが冷めると猫も寄って来ぬ
今遇った人の名前が出てこない

和歌山市 古久保和子

あわてん坊の土筆ニュースになりました
灯台への道に水仙が似合う
私を私が好きな自撮り棒
よく笑う人の隣は心地よい
亡母の呉れた余り毛糸のちゃんちゃんこ

和歌山市 堀富美子

気負つても子の手の平に乗せられる
年女風が私を持ち上げる
通院をしつつ今年も翔ぶつもり
気力なお重ねる歳を数えない
熱燭で亡夫と祝杯差向い

和歌山市 松尾和香

百歳の生き様凄いい笑い皺
家事手伝い続く暮しも惚け予防
遣る気出る趣味に生かされ気楽な身
眠る前楽しいことを数えてる
九条を変えぬ暮しを守り抜く

和歌山市 松原寿子

苦も楽も積んで人生切り抜ける
なる程ねのんびりなんて赦されず
やとと出た本音両手に揃い取る
女独り今後のくらし立て直す
気分転換寿命が延びるかも知れぬ

岩出市 藤原 ほか

紀の川市 北山 絹子

今年こそキラキラ生きて歩きたい
赤まるをつけて出逢う日待ち侘びる

ライバルが怪しい魅力持っている
魂を揺する地の音天の音

祝杯をあげて互いに響き合う

マイナバー覚えなくてもいいですか
セピア色になったその日の胸騒ぎ

バラダイスだと信じたい黄泉の国

この鏡素顔の方が好きらしい

ピョンピョンと身軽にかわす猿となる

海南市 小谷 小雪

紀の川市 楠原 富香

十指寄せ水一滴を零さない

歳月が煮込む我が家の温い味

月光を両手に受けたまま歩く

夕焼けが包んでくれる今日の罪

恋の手はまだ燃え尽きていませんか

過去の傷水に流して歩が揃う

沼の中希望の種はきつとある

長寿の森で記憶の糸を繋いでる

メガネかけ指紋の渦を確かめる

ふるりの母とつながる星月夜

海南市 堂上 泰女

紀の川市 辻内 次根

残照を第九の歌が盛り上げる

ジャンボ籤外れよかった惜しかった

ハミングを誘うピンクのステッカー

ひとり寝の設定温度強にする

不完全燃焼愛着が残る

寝返りをうつても明日へ変われない

夫と二人で一人前に越す老後

時雨降る鼻の付け根の皺二本

真央ちゃんの動画で弾む年の暮れ

頑なにまだ吉本が笑えない

紀の川市 宇野 幹子

田辺市 岡本 昇

鉤括弧掴んだ愛は逃がさない

今年こそ手を取り合ってフルムーン

証明書風に預けてひとり旅

今年こそマスターしたい塩加減

向き合えば闇の中から射す光

今年こそ妻の手料理褒めてやる

ぶきつちよな指で誠の介護する

今年こそ揉んでやりたい妻の肩

ひらひらと無縁墓にも春の蝶

今年こそ控え目にする酒タバコ

橋本市 石田隆彦

競うように食後の葉並べだす
恥かいて世の常識を身につける
こつそりと罪悪感で吸う煙草
森の頂上に天下取りのロマン
子は宝がんばりましょう若夫婦

鳥取県 石谷美恵子

赤い実をそつとだいに抱く万年青
逢うだけで心のなごむ友である
継ぐつがぬ父を泣かせた罪一つ
予約しておこう浄土の句座の席
花びらの一枚なぜか沈まない

鳥取県 岩崎和子

お正月客一人無く雪もない
風揚げる子供の声も聞えない
ふるさとは北海道の雪便り
三ヶ日早くも過ぎて相撲見る
スイッチオンサッカーをする若い足

鳥取県 斉尾くにこ

三が日お陽さまであたたまる
お返事は和菓子みたいなめらかさ
きみ入れて混ぜるお好み焼きだもの
急がないので乗っている山陰線
選評の大きな拍手あびている

鳥取県 竹信照彦

三猿の両目大きく開けて見る
耳栓も外して蟻の小言聞く
耳をそばだてて辺野古の音を聞く
申年に山家の猿も物申す
進化した人間らしい猿になる

鳥取県 鳥越鬼一

梅開花吉兆と観る初詣で
初夢はサルと一緒に露天風呂
水木さん妖怪神社の守り神
若人よ意思を固めて投票を
古稀迎えわが憲法は老いたるや

鳥取県 西谷悦子

青空がピタミン剤で心晴れ
申年はわたしの年よ花咲かそ
古稀の花自分の色に咲かそうか
不揃いの花を育てる母である
美しく花咲く家族母の位置

鳥取県 細田裕花

ゴージャスなプランへ財布クシャミする
封をして後悔どつと押し寄せる
バランスのとれた三角動かない
あったかいこたつにみかん冬の幸
神様の声がちつとも聞こえない

鳥取県 松川行男

棘隠し世間の風も年を越す

罪一つ消しては点る和ローソク

火のページ素手ではぐった愛読者

一步前トイレでなくて生きる道

終活の会話がはずむ友も消え

鳥取市 倉益一瑤

自分史へたっぷり化粧しておこう

赤を着て背中に羽根が生えて来た

ストローを噛んでご破算すると決め

年金の家計簿赤い舌を出す

終演は椿の花が散るように

鳥取県 山下節子

復興のライフラインは先ず水だ

嫁の座に根づいて家の主となる

洪々と受けた検診寿命延び

レ・ミゼラブル罪の重さを学ばせる

胸の内しるす日記の火のページ

鳥取市 鈴木一弘

優良可それぞれあつて卒業生

風雪に耐えて竹林たくましく

違憲だめ次世代できぬ恩送り

次世代に決してならぬ恩送り

卒寿海大波小波を泳ぎきり

鳥取市 池澤大鯨

温暖化行きつく先を見ずにすむ

待つ者がふるさとに居るリクルート

酒の勢い心を裸さらけ出す

親譲りの晴れ着を着て母を捨て

式服とスーツ余生に残しておく

鳥取市 田中憧子

愚痴らずに何でもこなす介護の手

寝付く頃母が何時と聞いてくる

母の目になって伝える花の色

休めない運命に耐える砂時計

庭の物摘んで三草の粥を煮る

鳥取市 加藤茶人

良い事があるとわが家は混ぜ御飯

気前良く賠償税はたんと取り

楯突いた事は忘れて尻尾振る

酒女その挙げ句に下の世話

特養の世話にボケても社長です

鳥取市 棚田大

定速で運転するも抜かれちゃう

サンタさん何人いるの孫が問う

平和憲法俺の心を引き締める

ベットまで交通指導じつと見る

胸キュンの体験だけは隠しとく

鳥取市 谷口 回春子

咳一つすれば亭主はガバと起き
棘を抜き円くなれよと慈母の声
無駄口に時どき本音乗せてみる
赤ちゃんの温もりそつと棘を抜く
一生に一度の願い今日もまた

鳥取市 中村 金祥

孫の句を捻れば心広くなる
デュエットを歌えば夫婦はにかみ屋
夢は捨て目標一つ立ち向かう
亡父植えた果樹に笑顔の実が稔る
傷癒えてこけた理由は帳消しだ

鳥取市 永原 昌鼓

好奇心生きる力の糧となる
色々と苦勞あったか海老の背な
大好きなお方浄土で待っている
夫は逝くグッドバイとも言わないで
虚しさを笑顔で隠し一人住む

鳥取市 夏目 一粹

ノックする前に笑顔のリハースル
探しもの時間かけても見つからぬ
人間がけだもの道を歩いてる
人のエゴ鳥になれたらなと思う
緊張をすると人間だと思ふ

鳥取市 西川 和子

お元日今日も厨が離さない
年賀状友は元気でいると云う
痺れ切らして聞く説教は見に入らぬ
幻を追い掛けながら年を喰い
儲け下手自給自足の畑を打つ

鳥取市 春木 圭一郎

あつさりと言おう事情にかかわらず
腰軽に気づいた時に手を打つか
真心をこめて親切届けたい
控え目な態度に英知やつてくる
悔いのない生き方今もこれから

鳥取市 平尾 菜美

共存を励むくりやの嫁姑
好奇心時つ耳を借り受ける
ときめいた未来をつなぐ胸がない
逝くおりは裸断捨離揺るぎなく
老老の介護談義に明け暮れる

鳥取市 福西 茶子

棘のある言葉哀しいヒトになる
噛みついて差し歯二本の根が割れた
屁理屈の上手さ脳細胞の壊死
過去の罪山ほどあった人を看る
カラオケは食べて手拍子とるところ

鳥取市 前田 楓花

咲かぬ花案じて水をやりすぎた
たつぷりの愛をもらった紅いバラ
本当のライバルの名は証さない
どうしようもなく心臓を研ぐ
折り合いのつかぬ私の体脂肪

鳥取市 山下 凱柳

三猿と一緒に生きる年男
今年こそと後何年は言えるかな
四世代揃いにぎやかお正月
御来光仰ぎ今年の決意する
没という洗礼浴びる自信作

鳥取市 吉田 孔美子

トイレは一つでもあなたには成れない
中国を喰えぬ役人の怠惰
今更に疎む思いの墓の数
風呂出来てるか海釣は大仕事
風呂介護七人すればくったくた

鳥取市 吉田 弘子

嘆く人あるに暖冬味方です
何もない真冬の田んぼレンゲ咲く
枯菊に感謝しながら冬ごもり
加齢臭あぁ人並に来たようだ
安の字に不平不満の匂いする

倉吉市 猪川 由美子

年賀状に心ほっこり髪が伸び
貧困の文字が紙面によく躍る
合区へと知らぬ候補でピンと来ぬ
五輪へと頭丸めて本気見せ
追いかけるとアホを見るから止めにする

倉吉市 山中 康子

にこにこと神がお在すか出来た人
今昔の心配りがずれてきた
挨拶を欠かさなかった両隣
お互いに痛いところは同じ個所
天取れば名乗る気持が湧いてくる

米子市 後藤 宏之

みてもらうときは先生医者の方
ころころとネオンにまかせはしご酒
ラッキーもアンラッキーも紙一重
口数の重い軽いで人を見る
刃を研いで闘う相手すぐそばに

米子市 後藤 美恵子

雪なくて喜怒哀楽の年が明け
心込めやがてゆく墓清め初め
頑固の血流れる親子よく揉める
お互いを飾る付き合いくたびれる
クラス会校歌うたえば血が騒ぐ

米子市 中原 章子

松江市 石橋 芳山

充実感あつて回復早くなる
同居にも通用しないこと多い
お金あるうちは家族も見捨てまい
探し物呪文唱えてうろうろと
知事さんのジョーク全国版になる

米子市 成田 雨奇

のどの餅飲み込むべきか吐くべきか
賽銭がまずは今年の払い初め
子の電話また仕送りの催促か
お悔やみも祝いも運ぶ郵便屋
響き合う二人の芸で盛りあがる

米子市 吉田 陽子

合区され消え入りそうな県に住む
パソコンに挨拶をするお正月
トレードマーク何もないのが落ち着ける
さりげなく仕込む夫に独居術
昭和メドレー紙風船と盛り上がる

島根県 伊藤 寿美

継ぎ接ぎの臓器ドナーにもうなれぬ
ケアハウスの下見に行った新春独り
家族葬でいいと息子に言っておく
目の届く距離だ黙って見ていよう
七十年「火垂るの墓」の作家逝く

艶つばさいっぱい秘めてジャズ喫茶
施錠解除してくれませうか栗の毬
土砂降りの雨が魚になれと言う
うふふってパズルを置いていった風
この地球梅干しの種桃の種

松江市 小川 注湖

下駄並ぶ同じ宿印露天風呂
平和願う世界に続く空眺め
角を出す妖怪家におります
ようやくに出来た覚悟がまた揺れる
喜びも失意も側に温い酒

松江市 川本 畔

カレンダーもうあの事は起らない
纏いつく首の辺りのごあいさつ
タクシীর膝は女でいる女
針一本失くした事がつき纏う
顔上げて少し歩こう水たまり

松江市 藤井 寿代

アドバンテージから始まった今年
春の陽を尺取虫の間から
幸せはひっそりと足元に咲く
バラードになったら逢いに行くつもり
あっち向いてホイなんて気軽な生き方

松江市 松本 知恵子

二階から初日を拝むめでたさよ
元旦に雁が音きいた縁起良さ
馴じめないマイナンバーという化身
CDの小説を聞く冬籠り
何故だろう共に文芸目指したに

松江市 松本文子

突然の別れ哀しみは無口（兄の死）
見たい聞きたい言いたい私猿でなし
ぺしゃんこの心フーフー吹いている
世話になるホームかそつと見て通る
貧乏神も神さまである大切に

出雲市 伊藤 玲子

喪が明けて世間の波に乗ってみる
階段の手すり応援歌を唄う
さあ歩くいたわり合って前向いて
「ただいま」の声にさくらが咲いている
春彼岸ただ微笑んでいる遺影

出雲市 岸 桂子

花に水花は感謝の色で咲く
スタイルは抜群ながら出雲弁
胸の中化石となった人を恋う
子をほめる親馬鹿でいい子をほめる
旅館から見る漁火は暮しの灯

出雲市 小白金 房子

初もうで手押し車と朝を踏む
朝夕の恩謝戴く水の音
先代をまつる祥月灯に座る（百年）
年始客囲むみかんがよく喋る
藍染の匂い文化の灯に生きる

雲南市 松本 昌

新聞に載る話題あり過疎の町
異論正論避難訓練高齢者
さみしさと悲しみ限界集落だ
生野菜プラス青汁生きる知恵
認知症ならず生きたい事例聞く

岡山県 池田 たか子

冬木立わたしを晒す十七音
添書の一人ひとりと話する
ホーム建ち鬼さん泣いた路地おぼろ
ふと目覚め夫の無呼吸指を折る
新年の抱負ばあんとしゃぼん玉

岡山県 田中 恵

気晴らしにそこらうろろして帰る
あたたかい手のひらが好きにぎり飯
落葉踏む百まで生きる音がする
名が出ないお互いさまと許し合う
変りばえはないが手作り食べている



岡山市 工藤 千代子

広島市 岸 本 清

寄り添ってみよう立ち上がってみよう
振り返る事はしないでもう寝よう

ブライドは最後に捨てるつもりです

缶コーヒーがゴロン現実を逃けたがる

マッサンからあさへふる里が変わる

岡山市 丹下 凱 夫

元旦や臍のあたりを搔いている

いただきます七草粥の浅みどり

暇だから飲むだけ飲んで寝るとする

初日に向かって木刀振っている

見て聞いて言うて覚悟を決めている

岡山市 前田 恵美子

避けられぬ坂はチャンスと風が言う

母さんが坂道押してくれている

ゴミ屋敷ならぬ程度に掃除する

家庭教師来る日階段掃除の日

未熟児が二十八履く申の春

笠岡市 藤井 智 史

深々と頭を下げてサラバ恋

婚活にどっと疲れて明日仕事

婚活の敵は親友だと思う

思い出と遊びお金は遺さない

君が好きどのポジションも受け入れる

笑顔には理論理屈はいりません
長老にしかめっ面はいませんね
ベッドから一緒に落下抱き枕
自打球を当てては悔やみ自省する
一言で嬉しがったり悩んだり

竹原市 石原 淑 子

ぐるっと瀬戸春の光と露天風呂

フルコース人生街道面白い

大切に心を人をこの星を

孫の弾く少し音痴の春ピアノ

柳多留全集もらったおとしだま

竹原市 岩本 笑 子

三ヶ日子の病棟の静か過ぎ

お雑煮が食べたい元日の付き添いよ

見つからないように付き添い食べている

六階の夕陽が涙誘うなり

大晦日元日続くナースコール

府中市 藤岡 ヒデコ

目を閉じてゆっくり記憶巻きもどす

蛇行した流れも生きて来た証

価値観の違いに○や×は無い

時代とスマホの外は見えていない

妹に褒めてもらった一人旅

宇部市 平田実男

西予市 黒田茂代

生水が飲める日本が素晴らしい

ピンク色のしょう油料理に夢がある

敬語など使わぬほうへある絆

好きなケーキ欲しいと思わなくなった

肩の荷は少うしあったほうがいい

籠城は損と悟った空腹感

後釜が笑い噛み殺してる通夜

効果はきつとあると信じてスクワット

年寄りと思うと老けが急ビッチ

股関節癒えたのはわたしの努力

東かがわ市 川崎ひかり

高知市 小川てるみ

句読点打つたび眼鏡度が進む

董たんぼば咲いて師走は春モード

ファールブルの世界へ誘う虫メガネ

酒お餅ぼっちゃり皺に効いてくる

イケメンの自信過剰なサンングラス

守秘義務を叩き込まれていた職場

言い訳を模索しながら拭くメガネ

久方ぶり仏と話して帰る

メガネ入れ今日の不条理閉じこめる

戦へのあぶない橋が横たわる

松山市 古手川光

唐津市 坂本蜂朗

入院もゆっくり出来ぬ年の暮れ

受験とは違う古典が面白い

寒い日はカイロが僕にへばり付く

子に向かうように物言う妻になる

秒針の余命を刻む音を聴く

実直を今日も演じる自己嫌悪

せつかちででんでん虫に喰われる

父逝った歳に入院する不安

宮司の子受験日きつと辛かるう

黄信号余命と酒を見較べる

大洲市 中居善信

唐津市 山口高明

CTもMRIもして暮れる

縄文の土器掘り当てた果報もの

箍締めて無くても水はもう漏らん

親の庇護いる少年に選挙権

お茶飲んで笑える人は一人居る

助成金迄るに五人徒党くみ

冗談の言えるお医者が出来ちゃった

組閣どう変えても起きぬつむじ風

地球儀の戦火嘆いているリンゴ

分校の児童はいじめなど知らぬ

(岩切康子さん、森山文切さん、福原悦子さん、牧淵富喜子さんは47頁にあります)

自選集

小島蘭幸

都倉求芽

師の句碑と孫とツーショットがいいね
誰も歩いていない町並みが美しい
牡蠣まつり酒まつり我がふるさとよ
自筆とは嬉しいものよ師のはがき
父の墓前に立つ一面の雪である

津守柳伸

土橋螢

初旅の余韻今年も頑張るぞ
半襟を掛けて夢追う除夜の鐘
お年玉出さぬ八十路の締め括り
風物詩消えてスマホの三箇日
キナ臭い夜明けへ鼻がむず痒い

遠山可住

西出楓楽

責任はないじいちゃん子ばあちゃん子
ばあちゃんのご馳走はまだ戦時中
卒寿のあとは忘れて盆が来る
古希からの風何色に染めようか
過疎二人お地藏さんを見る夕陽

いつまでも戦後と言える国であれ
チャンネル棒放りっぱなしのお正月
洗濯ものないかお日さま笑う空
夜小用仕舞よろしくすり足で
喪の葉書 去年は年賀だったのに
生かされて生きる男の黒い影
健康寿命を父母に感謝
乱世を見送っている曼珠沙華
天地人愛燦々と雪が舞う
葬送の曲はゆっくり海ゆかば
タイトルは無題わたしの一代記
仏飯にちよつぱり愚痴を盛ておく
一億総活躍せめて川柳で
人は人自分は自分風の街
長生きと書いて怖いとルビを振る

仁部四郎

弥生ちゃんもう三つです他所の孫
例年の春三月に恋を捨て

人事課に務めたことはなかったな

三月の晦日生まれの運不運

お早目にお花見後期高齢者

林瑞枝

白砂青松の笑顔を零し合う

いい湯だな猿はほんわか露天風呂

過ぎし日の歎び今日も肌をさす

神様の壺は見えない修羅を越え

音大を出て来た孫の歌が好き

前たもつ

もう一回り生きる気にさす年男

よい所あれば他人が見てくれる

平凡に昨日と違う日を送る

せめてもののち光らせ生きてゆく

一つだけ断捨離出来ぬものがある

政岡日枝子

早々と二月凍てつく日に生まれ

可愛気はなく笑窪だけ愛でられて

くろ太郎と父は戯れて呼んでた

ヨチヨチと歩いたらしい八ヶ月

それが今杖をほしがる足である

三宅保州

エルトゥールル号がとりもつ相互扶助
ホップステップまでは順調だったのに

プライドをくすぐりに来るアンケート

心ならずも何度頭を下げたやら

イナバウアーしているような寺の屋根

宮西弥生

元日の空いっぱいへ背のびする

生きているうちが花だと水ごくり

一本の釘が支える福は内

福は内逃げた鬼の眼またきれい

ふるさとに嬉しい遺産の富士がある

八木千代

春はそこなのになじの雪マーク

筋肉の力は落ちてきたけれど

ふくらみの消えた胸にも周波数

凍てる日もあるけど熱いペンケース

残された力 おろそかにはしない

岡川洋々

散骨の賛否で夫婦かみ合わせぬ

年金の海で私の夢が死ぬ

ジャンケンで国境線を引き直す

再稼動 土下座位じゃ認めない

どなたにもカルテの数じゃ負けてない

齊藤 劭

信念をつらぬき通す冬の葦
絶妙な引力でした落ち椿
真冬日のハウス母は話好き
救急車どこまで行くの猛吹雪
そしてまた新芽を抱いている雪野

新家完司

ミルフィーユはうまいタコヤキもうまい
演歌ジャズ学校唱歌みんな好き
あやふやな希望が浮いている酒場
あと十年飲んで歌って騒ぎたし
ホップ・ステップ・ジャンプして寿老人

選選選選選選選選

場 9:00
会 13:00
-(大ホール)
掛3016-1
66-82-0848
南西へ徒歩5分
品・お弁当)
します
心咲 選
究作 選
春江 選
勇三 選
博子 選
一石 選
蘭幸 選
しめの 選

1:30 開
 境改善センタ
 日郡矢掛町矢
 TEL 08
 井原線矢掛駅
 発表誌・記念
 事はご辞退致
 永見
 高杉
 渡辺
 高木
 狩谷
 前田
 小島
 紫

作春勇狩一幸題

[illegible]

き
ころ
費
題と選

と
と
会
兼

と き 5月7日(土) 開場 9:00
投句締切 11:30 開会 13:00
ところ 矢掛町農村環境改善センター(大ホール)
岡山県小田郡矢掛町矢掛3016-1

TEL 0866-82-0848

矢掛町役場南側・井原線矢掛駅より南西へ徒歩5分

会 費 2000円(発表誌・記念品・お弁当)

※ ご祝儀等はご辞退致します
 葬儀 永代 追善

兼題乙選者

選江作充初渡高

選三三勇木之高

「狩」 狩谷 博子 選

「一」 前田 一石 選

「幸」 小島 蘭 幸 選
「座」 小島 蘭 幸 選

出 句 各題2句

出 司 各 題 乙 司
尔度投勾續切 4月30日 (土)

欠席投句の方は、投句用紙またはA4程度の

用紙に各題2句と、郵便番号・住所・氏名・電

話番号を明記の上、投句料(1000円/定額小

為替)を添え下記宛にお送りください

投句先 〒714-1222 岡山県小田郡矢掛町西川田2556
田中 道博 室

田中 道博 宛
問合せ先 牛掛川柳会 紫しめの TEL 090-7136-8807

用中 恵 TEL 0866-82-1256

主 催 矢掛川柳会

川柳塔

(つづき)

熊本県 岩 切 康 子

引出しの時計太字で再稼動
夫の元氣有難く立つ台所
塩分が怖くて自分で鯖絞める
初詣で土産は亀のストラップ
持ち回り夕方やっと会うポスト

沖縄県 森 山 文 切

札束のおもちで頬を撫でてみる
重圧が入る財布に買い替える
真夜中に突如鳴り始めるおもち
カカカカ爪がスマホを叩き出す
傾いたままで信号機は変わる

(前月分) 神戸市 福 原 悦 子

秋明菊風も無いのに揺れている
さざんかが散歩道で私呼ぶ
乱世を静かに見送る曼珠沙華
豊作の汗をいたわる子の版画
銀色の道をいざなう冬の蝶

(前月分) 西宮市 牧 渕 富喜子

生かされているな夕日真赤に落ちてゆく
ふと気付く雀めっきり減っている
座ったままのラジオ体操今日もする
帰るまでテロに会わない様祈る
窓ふきの老いに暖冬ありがたい

温故知新

『高杉鬼遊川柳句集』から

バス停の一人このごろ見なくなり
遠い渚と軍靴の音が押しよせる
中流のワインの酔いはさめやすし
することがなくて寝ている訳でない
糸瓜忌や子に遺すもの何もなし
鬼の目にまだ涙あるい伎芸天
八尾ナカタ鬼の館に蛙鳴く
珈琲の中の一人がレモンティー
保険屋に何を今さら死生観
鬼遊庵二月の鬼よみんな来い
多喜二忌や骨の髄まで二月なり
意気消沈かんと煮にコロがない
晴耕雨読 年金おりの日を数え
天地無用あの世へ送る白い箱
七月に会える人あり雲の峰
八月を夾竹桃は忘れない
不器用に生きればもっと楽なのに

川柳塔の

川柳讃歌

⑬

木津川 計

めでためでたで初春の陽を浴びる

小川 てるみ

てるみさん、よかったですねえ。慶びごとや嬉しいことが重なったのでしょうか。こうなったらへ目出度目出度の若松様よ、「花笠音頭」の末広がります。なにしろ「枝も栄えて葉も茂る」のですから今年はいいことづくめ間違いなし。それに山形のこの民謡はへ米のなる木で作りし草鞋踏めば小判の跡がつく、ときましたから金運まで約束してくれて。僕も貴女にあやかりたい気分です。

湧くからに流るるからに春の水（漱石）

体調も伝える手書き年賀状

古手川 光

「アンデルセンの少女のように夢を見ることのできるマツチを僕はまだ二、三本持っている」と91歳で書いた詩人杉山平一さんも晩年は書く字が小さくなり、しかも右へ右へ流れた。博識で訳知りの桂米朝さんも漢字を忘

れただけでなく、サインする三文字が大中小になっていった。年齢も体調も手書きに表れるのだ。今号木下敏子さんも「元氣だと墨滲ませて書く賀状」とも。光さんも手書きの文字から肌の温みも冷たさをも察知される。

喪中ハガキに賀状は呉れと書いてある

池上 清治

仏法は死後49日間を中院とし、その法要をもつて満中陰、成仏し得たと考えたが、なお1年は服喪すべしとした。が僕は従わず、両親の喪中も普通に暮し、賀状は出すし、頂きもした。仏教以前の言霊をむしろよしとした故だ。朝日歌壇でどなたかも詠んだ。「言霊を信じてわれは賀状記す穏やかであれ個人も国も」「賀状を呉れ」というのなら喪中葉書の必要もなからうに。で清治さんはどうされたか。まさか、めでためでたと書きも出来ず。はつきりと名前が言える大丈夫

西村 益子

知性の塊だった小林秀雄でさえ認知症を自覚していた。65歳の頃、近親者に語ったという。人間ははけるのがいちばん恐ろしい。今まで同じ人に同じ話を二度することはなかったのだが、この頃はそれも怪しくなった。だから、この話は前に話したことがあるかね、と不安なときは必ず確かめることにしている」

と。小林は尿毒症で逝去、81歳だった。老いたら誰でも体力は衰え、はける。益子さん、名前をはつきり言えたら大丈夫、正常です。

父さんに勝つて母さん孫に負け

熊代 菜月

通説に従えば、通称八百長の八百屋の長兵衛は相撲の年寄り・伊勢ノ海五太夫と碁仲間だった。が、商いのために実力は上ながらわざと負けてやるのである。八百長相撲もインチキ試合もこれを語源とする。この句の母さんもまた八百長しているのであるが、おとなの世界とは訳が違う。「母さんは勝つても負けても立ってゆき」で子や孫のために自分を殺す。菜月さん、お孫さんが大将です。

人間の哀れ服を着て靴履いて

居谷 真理子

サモアの島の酋長ツイアビが1915年、西欧を初めて訪れ、島民に報告した。それが「パバラギ（白人）」と題して出版された。

パバラギは服を着るからからだに光が入らない。だからそのからだは暗いジャングルに咲く花のように青白いのだ。パバラギは靴をはくから厭な臭いがする。パバラギは牛の皮で自分の愚かさをかくそうとするのだらう。

真理子さん、自然人に比べ人間の哀れです。

（上方芸能）発行人

新川柳鑑賞 (49)

麻生 路郎

大阪銭湯

下駄に鍵衣類も鍵に気が疲れ

(無 鬼)

都会ではウツカリすると物が無くなる。銭湯のなやみは下駄がなくなる。衣類がなくなる。一々弁償しては商売にならぬ。そのため番人をおけば人件費が高つく。そこへ生まれたのが下駄函のカギ、衣類入れのカギ、雨が降れば傘入れのカギとなったのである。都会人にとってはそのためにゆつたりと湯に浸ることが出来るのであるが、馴れない人にとっては気が疲れるかも知れない。一つの発見である。

ガス風呂の見積るだけは見積らせ

(省 三)

家庭に風呂のあるということが、サラーマンの念願だ。しかし、風呂を焚く者の身になって見ると、かなり辛い。折角風呂がありながらついでに焚かないで銭湯へ行くことになる。行くとなると面倒だ。殊に遅

く帰った時などには行く気がしない。今日も行けない。いっそ、ガス風呂にしたらという気になる。

「不経済でしよう」と妻はもうガス代が気になる。

「ウン大したこともあるまいが、差し詰め設備費が要るさ」と夫の方は設備費について考える。

「まあ見積るだけ見積らせて見よう。それからの事だ」という穿ちの句である。

門札を見なおす程の庭が見え

(六 花)

ホントに見たままでは何んの変哲もないスケッチのようであるが、ジツとかみしめるとなかなか味のある句である。人を訪ねたりしている際に、住宅街などで、この句のように、一体誰の家かしらと門札を見直すことがままあるものである。

インテリの無力を知った大掃除

(雅 堂)

大掃除にスタイルだけは一人前だが、さして箆箆を運び出すとなるとヒョロつく。畳も手伝ってもらわないと運べない。つくづくとインテリの無力さを知ったのである。大掃除の日に「映画でも見に行つてらっしゃい」と追い出されてホツといきをつく

のがこの種のインテリである。

山の中に建てても庭を造りたく

(一 雨)

人間というものは雄大な自然に恵まれた山の中に家を建てても、自分の庭というものをもちたがるものである。

猫の額のような庭でもいい、自分の庭と名のつく庭が欲しいのである。

そうした心理を一個の人間からつかみ出したのがこの句である。

何をたく煙か我家見えはじめ

(旭 童)

そろそろ黄昏れて来たので家路をたどる農人の姿が思われる。

僅かに自分の家が見え、その家の棟から、何を炊く煙かしらんがゆらゆらと煙が立ちのぼっているのが見え、何んとなく身内に温かさを感じたのである。田園風景の叙情詩として捨てがたい。

嫌な隣だが風除けの位置にあり

(一 飄)

一寸奇抜なネライの句である。「嫌な隣だが」と云って置いて、あとを思いもよらぬ「風除けの位置」にあると、自分に有利な観方に転換した技巧は素晴らしい。技巧の句もこれほど鮮やかにやればいい。



川上大輪選

岡山県 紫

しめの

それからの余白を埋める色がない
手のひらを転がるように行く月日
人生のピースが一つずつ欠ける

倉吉市 中村

毅

マフラーを水道管に巻いて冬
子に遺す墓も名前も無いわたし
たればと叶わぬ夢を見続ける
わたくしを慕ってくれる猫がいる
妻の留守チンして食べる他人井
場違いなところで口角止まってる

松山市 郷田みや

声かけて欲しい視線が交又する
このままでいいはずがない凭れ癖
哲学書しまって卵かけご飯

和解したしるしリングの皮を剥く
夕焼けを見損なっても明日は来る
贅沢な一日だった白い壁

瀬戸内市 東横ますみ

許されて多弁になったゆで玉子
軸足がぶれて世間を狭くする
勢いのままに走った夏の章

辛口の評が闘志に火を付ける
根も葉もないなのに噂の芽が伸びる
三箇日終わって神はひと休み
母が逝く父の分まで生き抜いて
頑固さも元気に生きる術ですよ
暖冬で害虫どもがおらが春

大阪市 平井美智子

一張羅で歩けば肩に鳩のフン
善人の振りで肩凝り偏頭痛
反撃を企てているプチトマト
高笑いしながらはぐらかす野心
腕捲りした手をそっと引つ込める
お多福の面で乗り切る諸事雑事

香芝市 山下 純子

皮下脂肪防寒着にはなりません
いいかげん慣れてほしいよ使い方
定年後三食昼寝ありつけず

氷上の王子に見とれ家事手抜き
空白を悩んでうめる日記帳

午前午後けじめをつける昼ごはん

松山市 柳田 かおる

類を呼ぶ同じ匂いのする群れだ

感動のドラマが起きたロスタイム
カラカラとところの中に石ひとつ

原点に戻る座右の銘をもつ

確信へ念を押されてあやふやに
たかが趣味されど恋でもするように

神戸市 玄 番 美恵子

下手な字も賀状だけはと墨を磨る
痛い痒い言って今年も無事終る

一年の想い奏でる除夜の鐘

ボス猿に従う子等の毛繕い
波に乗る天狗が足を踏み外す

大丈夫七草全部言えました

弘前市 吉川 ひとし

背広着る機会が減って来た老後
妻の留守晩酌までは間が持たぬ

挫折した夢を孫から聞かれても

薄くなる昭和の白髪まだ伸びる
猛吹雪眉間のシワが伸び縮み
町内の交差点にも揉め事が

松山市 栗田 忠士

主役にはなれぬ裏方ならなれる
私の生き方ですとカスミソウ

頑固一徹きつと正直者だろう
欲少し削って肩を軽くする

字余りも字足らずもある人生路
矢も盾もたまらず歌う反戦歌

米子市 永井 三津子

ごめんねに胸へささった棘がとれ
来世では亡夫の手ずつと離さない

ラストダンス踊りきりたいこの身体
脈乱れ恋か病気が胸もキュン

孫の顔見れば全てが緩み出す
人類が地球の悲鳴シカトする

堺市 梅木 澄空

たびごとに吞めぬ私が運転手
冠婚葬祭近所付き合い脆くなり

ラッシュ時の腕は下げずに組んでおく
世間体いつも気にする僕が嫌

雑音に耳を傾け路迷う
お遍路も今はせかせかバスツアー

札幌市 斉藤 宏子

男鹿市 伊藤 のぶよし

身のほどを忘れて浮いた深海魚
デパートの春を先取りする黄蝶
輪唱へ少女時代の風が吹く
長電話居眠り半分生返事
スカートの裾を離さぬ甘えっ子

登別市 小林 碧水

この飴は勿論自分で買ったもの
冬という長い童話を読んでいる
まだあるよ吹雪と喧嘩する元氣
余りでる答え許さぬ寒の月
皮下脂肪あふれる僕と難民と

弘前市 高森 一呑

観音様に僕の声が届かない
風の糸ぶつんと切れて黄泉の旅
さようなら唯有難うありがとう
涙枯れ茫然と火葬場の煙
生き様は観瀾山が見届けた

塩竈市 木田 比呂朗

ワイバーの雪の軽さで春を知る
定年後シフトダウンで備えたが
晩学もアイドリングのままで過ぎ
健診の通知車検のように来る
中庸が好きで飛躍に腰が抜け

義理だるか愛着だろかまた迷う
デジカメにカシヤツと紅を盗ませる
朝帰り知ったことかと恋の猫
三猿を真似る氣でいる尻尾跡
点々と路傍の花のいい余白

八王子市 川名 洋子

レシートがつまらぬことを暴き出す
恋人のようにスマホを愛でている
大根の白さテロ等許さない
アクセルを外して余生ゆるり行く
しがらみを断ち切りふわり雲の上

横浜市 川島 良子

得たものの大きさ失ったものの尊さ
喧嘩したあの日の日記文字も拗ね
テキパキとこなし只今夢の中
雪割草咲いたらキミに逢えますか
下流老人にならぬ保険はないですか

横浜市 巖田 かず枝

張り切ると腰の痛みが三日後に
飲み会の時はどっこも痛くない
音読に孫の絵本が丁度良い
通学路子等の手足の長いこと
覚えてるつもりで行って買い忘れ

横浜市 長 島 亜希子

良い年になりそう温いお正月
ゲームだから一か八かの賭をする
推薦文ちよつと創作混せて書く
口だけでも達者でいいよ親がいて
知らぬ間に坂で足腰鍛えられ

大阪府 小 栢 こずえ

責任もないがお金も無い暮し
友逝くと良いことばかり思い出す
老いとも気持は若い心持ち
誰にでも無料で届く陽の恵み
自分史にあれこれ打った句読点

大阪府 神 野 千恵子

喧嘩好ききつと正直なんだろう
手は元氣くちびる寒しスマホ族
よもやま話しているような今日の雲
明らかになればなるほど迷う過去
東京五輪不祥事競う前哨戦

大阪府 高 木 道 子

四季雑感介護施設は晴れマーク
歳時記に誤作動おこすエルニーニョ
ここだけの話に誓う二枚舌
御挨拶叶えず賀状行き戻る
かめ虫の駐屯さがす大掃除

大阪市 大 治 重 信

飲ませると社長になった気で威張る
熱燗で一本だけと縄暖簾
ちと足りぬ足りないままで年を越す
元妻が生き生きしてた喫茶店
ポケットの財布は空で花名刺

大阪市 柴 本 ばつは

面倒なことに東大パスしたぞ
脳回路右往左往としています
定年後三角巾の似合う父
任されて男子厨房腕まくり
男子厨房調味料がすぐに減る

大阪市 高 杉 力

まだ肉が美味いぞ前期高齢者
海に来てもう砂浜は走れない
水族館クラゲになりたいと思う
同僚に出張土産指定され
舟をこぐ奴が出てきてお開きに

大阪市 田 中 ゆみ子

初日の出さあ歩かねば走らねば
見て聞いてはつきり言うて嫌われる
大凶に俄然やる気になる神籤
説教の途中眠たくなってくる
耳鳴りは軍靴の響きかもしれぬ

大阪市 松田 聰

ライバルと敵は全く違うもの
淋しさをまぎらわす為汗流す
本当の辛さ涙が出てこない
歴史は鏡今こそが学ぶ時
頼りない右も左も平和主義

大阪市 横山 里子

マスクして隠す素顔も本性も
クレーマーうちにもいます娘は厳し
家計簿の数字の裏にあるドラマ
淋しさは夢の名残が消えぬから
つくづくと病んで一人のふがいなさ

堺市 羽田野 洋介

覚えてろ浴びた非難は倍返し
自分のことへんてこだなと思う時
いい刺激少しぐらいのシヨックなら
近いうちもうどのくらい経ったかな
ご指導をなんて上辺は慎ましく

堺市 大和 峯二

孫の顔見るたび平和末永く
川柳と歩んでひらくわが余生
人肌の温もり欲しいこの政治
目指すことあって元気を友とする
せちがらい世になつていくマイナンパー

池田市 上山 堅坊

糞虫かと思うドレスが闊歩する
飢える民へ知らん振りする独裁者
飲もうかと誘う気配はピンと来る
旅疲れ癒してくれた津軽三味
今日の疲れリセットしよう縄のれん

河内長野市 穂口 正子

子守唄お国訛りが切なくて
朝夕に母を案じてラブコール
迷い道追っていたのは母の背
病人に説教してる見舞客
一年が早い負けずに老いていく

貝塚市 吉道 あかね

七草を過ぎてスイッチオンにする
そこそこの七十点のいい夫婦
スッピンに自信がなくてするマスク
おしゃれより軽くて楽な靴選ぶ
口紅はピンクを選ぶ春隣

富田林市 小出 修三

納豆と卵で今日も頑張れる
注射打つ前からしがみつかれてる
好きだった人から貰う大欠伸
出入口妻が坐って通せんぼ
エンジンが掛かりメークを慌てさせ

寝屋川市 岡本 勲

痛いところつかれて萎えたとうそう心
会議より意見よく出る縄ノレン
福袋気にしつつ聞く除夜の鐘
反省を威勢にかえた酒二合
酒が出てやっと本音にたどりつく

羽曳野市 磯本 洋一

新酒飲む春の香漬けた祖母の業
明るさが見えず近づく消費税
ポケットのルーベがテレビ決めている
枝豆の塩味祖母を継いでいる
古稀の会葬はそのまま持ち続け

箕面市 大浦 初音

とりあえず目の前のことかたづけ
ご飯粒残さず食べる戦中派
前世は猫だったのか魚好き
不自由になって自由のありがたさ
人生の長い道のり無駄はない

箕面市 中山 春代

断捨離に疲れて花を買ってくる
手に温い野点の茶碗梅まつり
部屋毎に百円店の老眼鏡
七十年遺影の父は二等兵
三月の川原が光る菜花の黄

八尾市 前田 紀雄

18歳日本の行方睨んでる
孫と囲碁お屠蘇気分につけ込まれ
掛布団温もり秘めて小宇宙
注連縄を飾る日本のルーティン
三猿にならず天辺鷺掴み

神戸市 山根 弘子

のびる芽を摘んでしまった悪の道
日本の未来をうれう戦中派
鶯も愛の小枝で春を待つ
返信がのびのびになる年の暮
もやもやの空気を切ったブーメラン

篠山市 佐々木 勇

三次会なんて贅沢させませぬ
金よりも汗を流した人が好き
生涯の汗は金より重かるう
つまらない事ではないかビール掛け
寄せ鍋を囲んだ人の顔がいい

三田市 上田 ひとみ

やわらかなあなたの言葉リフレイン
ありがとう私のことを見てくれて
もう少し暴れてみたい春の夜
いらだちの行先さがしペン握る
変わっていくことを恐れたりしない

三田市 九村 義徳

過疎の村心を繋ぐ赤バイク
廃校のブランコ風に揺れている
日曜の朝は時計も朝寝する
ライバルに弱気は見せぬサングラス
正月の挨拶回り孫多忙

三田市 森 本 みね子

口ずさむ母に習った童うた
まだあると財布覗けば底が見え
生きているその幸せを忘れてる
落ち込んだ隙へ朗報勇気沸く
休日も夫の介護が温かい

宝塚市 太 田 としお

古いのか同性婚は馴染めない
新聞に総理を誉める記事が無い
七難を上手に隠す笑い顔
男より女が忙し年の暮れ
天才は時には馬鹿をするもんだ

宝塚市 丸 山 孔 一

銀杏の殻が隠したエメラルド
孫も無く小犬に衣着せ撫でる
拝観に土足厳禁じゃあ止める
雪の中白川郷に音沈む
マイナンバー要らん言うのにやると言う

和歌山市 北 原 昭 枝

お互いに妥協している胸の奥
そのうちと期待している花咲く日
やわらかな物腰にある落し穴
草花に触れて元気な指の先
若き日の恋の痛みが残る指

和歌山市 倉 橋 悦 子

相槌を打って同罪だと言われ
風景の中のドラマを詩に生かす
モノクロの冬押し出して花便り
神の鈴たくさん振って福貰う
いたずらを叱らず見てる民主主義

紀の川市 山 東 日出男

辻褄がびつたり合ってバレた嘘
現実と夢の狭間にある振り子
大宇宙もとは小さな点だった
愚かさの極み破壊を繰り返す
ミケランジェロ ピエタにかける心意気

鳥取県 下 田 茂登子

色々とあった夫婦で墓は別
裏切った罪は封印したまんま
ゆず湯にかぼちゃ百歳までも期待かけ
どんぐりも色々意見持っている
錢ぜにぜいで暮れております十二月

鳥取市 田 中 天 翔

塩加減漬け物育児難しい

どうせならプラス思考で生きてゆく

朝が来て恨み辛みはもう忘れ

重い荷は勝手に下ろし古希の春

三猿は三日坊主に終りそう

出雲市 黒 目 英 男

のんびりと風も変わって春を待つ

大器目ざし牛の歩みを続けてる

明日がある例えば今日が悪くても

今年こそ笑顔溢れる一年に

大手振り加工食品仲間入り

米子市 野 川 宣 子

重い方から順になくなる形見分け

親切に中身教える福袋

福袋手当り次第つかむ奴

祝成人晴れ着姿は皆美人

お天気は背中押されて初詣

米子市 見 山 温 子

クラス会馴染の顔が消えている

悪い事いい事あって年を越す

日向ぼっこ猫は上手に移動する

空き家にも神棚まつり留守たのむ

通院のランチ楽しむ老い二人

米子市 森 脇 麗

わくわくのハートを燃やす初暦

火のページ二十の恋は忘れまじ

耀きを失い薔薇の孤独感

凄い夢なくて変らず紅を引く

捨てられずモノ減らぬただ黄昏る

雲南市 菅 田 かつ子

長生きをしたいと思う楽しい日

明日への小さな夢ならまだ持てる

髪染めて来たのに誰も見てくれず

アルバムを開けば亡母の笑い顔

引き出しに春を待ってる花の種

岡山市 高 岡 茂 子

気がつけば背は追いこされ声変り

変化球投げてみようか反抗期

一両電車疲れた心いやす窓

韓ドラの時間に電話おことわり

注文は五歳若くと美容院

岡山市 伊 藤 寿 子

長らえて一步踏みだす除夜の鐘

生い立ちを見守りながら散る枯れ葉

激動の昭和を生きた笑い皺

梅一輪咲いてところを癒される

願いごと枝に結んで春を待つ

岡山市 藤成操江

みかん剥く炬燵の至福ひとりじめ

春の陽を浴びて今年と向い合う

身の丈に合わせて作る予定表

弾むもの求めてバスに乗ってみる

理想には遠いがふわり現在地

瀬戸内市 片島秀月

今が旬今が花だと咲いて見せ

笑いあい心の棘が溶けていく

やりくりの上手な妻が肥えている

妻指図男料理の祭り寿司

天と地に重なる僕の影法師

瀬戸内市 宮宅比佐恵

翔べる日も翔べぬ日もあり老いを知る

戦中の心が無駄を許さない

背伸びしてみても私はわたしです

逝くときの笑顔一つは持っている

温い風もらい動けぬ現在地

尾道市 日谷寛

芽吹け芽吹けと三月の風に会う

少しふくれて身を正す影法師

菱餅の角に鋭気が秘めてある

親の恩囁みしめながら雛納め

寄り添って堰を越え行く流し雛

竹原市 若年幸子

雪しんしんグリムメルヘン積らせる

コップ酒男の涙飲み込んで

ルージュ買い少し華やぐ喜寿の春

返事来ぬ友の賀状へ思い馳せ

三猿も核には反旗翻す

三原市 鴨田昭紀

ほどほどに心配かける親孝行

約束や予定は何もない余生

めきめきと嘘が上手になるヒヨコ

ちぎれ雲ころろ変わりを繰り返す

伏せていた過去を日記がみな喋る

三次市 伊藤寿子

いつの間にベシヤバイと化す風呂鏡

心だけ不思議と歳を取りません

ケータイへ元気かと来る君の声

ガン手術やせたと君の細い声

生きてたらそれだけで良いそれだけで

山口市 中前幸子

裸木へ愛の行方を問うてみる

言い過ぎを軽くないなしている器

こころの襷を埋めつくす名残雪

千夜一夜の話尽きない絵ローソク

アングルを変えたと牙になるカメラ

宇部市 高山 清子

声出して笑う仲間が居て楽し

何かしていいないと何かに急かされる

傷ついて人の痛みが理解出来

一歩出る勇氣と一歩退く勇氣

惚けぬうち書いておかねば遺言書

防府市 坂本 加代

集まれば小さな音も世に響く

笑顔が見たいただそれだけでボランティア

煮詰まった日常水を足さない

遠回り辿り着くかな恋ひとつ

一休みすると知恵の輪回り出す

松山市 神野 きつこ

書き順も音訓読みも薄れゆく

寒空に猫も誰かを待っている

バカの壁外してジャンプしてみよう

ストレスがDNAを狂わせる

どん底を知って優しくなってる

大洲市 花岡 順子

ヤジロベエまだ進退を決められぬ

飛びたくてなるべく荷物軽くする

頑張ってみても出来ないことが増え

初仕事少し気合が入りすぎ

モットーは明日でいいこと今日やらぬ

西予市 西田 美恵子

美しい誤解を恋は繰り返す

男一匹どなた様とも手は接がぬ

燃え尽きてみたいと火種風を呼ぶ

許し続けた母の小さな背が丸い

あれこれは言うまい子には子の暮し

福岡県 本田 さくら

道の駅なんてこの街似合わない

お年玉これなという三歳児

三ヶ日すぎたゴミ出し山ができ

一杯のコーヒーが生む恋一つ

基地いらぬジュゴン珊瑚を泣かすまい

北九州市 小松 紀子

すぎたことくよくよしても意味がない

コーヒーでお昼の菓子がしゃべり出す

愛犬にも老いの兆し共に生き

頭腰悪いがそれなりに元気

健康が一番だよね病みあがり

佐賀県 真島 久美子

揺れているのか待っているのか分からない

狙われているから笑うことにする

友人の関係菜の花が咲いた

空っぽになったら君を取り戻す

手の内を明かして春を急がせる

札幌市 富永恵子

なくさめの言葉を探す雪の窓
ひと言でジョークの笑いショートする
吹っ切った嵐のようなスケジュール
会えば又しどろもどろの愚痴になる

弘前市 工藤京子

外に目を向けて出会えた無二の友
お坐りが出来て始まる押し相撲
おすわけリングもあればダイコンも
黄の好きな子の弁当に卵焼き

つくば市 嶋本 喬

大晦日第九の後は除夜の鐘
冷凍のおせち本気で主婦代り
食べたのに七草の名がそろわない
定年後旅三昧の夢潰え

東京都 高岡弥生

三が日ずっとお客で家の中
お正月楽しめるのは若いうち
除夜の鐘聞かずに布団入ります
買い換えた期待はずれの炊飯器

伊勢原市 小田幸子

初日の出先だけのぞくヒアシンス
全とつかえしたいな暮れの大掃除
飼いだの足音で知る母の位置
知らなかった花芽を持っていたなんて

佐渡市 高野不二

ページめくるともう忘れてる読書
イルミネーション見に行く用事考える
昨年の日記同じ事が書いてある
賞味期限見て満腹に今日もなる

静岡市 渡辺芳子

部屋に咲くすみれと一緒に生きている
いろいろなくすりのんでもこの体調
自筆なき賀状むなしき年始め
感謝する十日続いた青空に

豊橋市 藤田千休

彼女より先に酔ってる下心
野鳥には弓を向けないキューピッド
条例で芋も焼かせぬ世話をやく
カップルを見て見ぬふりのパトロール

江南市 脇田雅美

助け合いウサギとカメラが歩を合わす
おしゃれして三面鏡をヨイショする
門扉に枯葉吸い殻吹きだまる
時々を褒めてもらって生きている

大阪府 畑中節子

初春や湯の香木の香の舞う湯もみ
句を友に一人居の窓日なたほこ
太陽に干した布団で夢広げ
老梅に添う若松の初いいうし

大阪市 磯島 福貴子

逝きたいなピンピンコロリ惜しまれて
みの虫が枯木にぶらり冬ごもり
老いの身に多機能家電手に負えぬ
孫二歳花嫁姿見るまでは

大阪市 梅里 南天

本ばかり買つて時代に乗り遅れ
年賀状ボツリボツリといなくなり
今回も違反者講習眠りつつ
残飯の山を夕陽が舐めている

大阪市 田中 廣子

地獄見た足肩折れて気絶する
親切な看護師さんに手を合わす
しつかりと食べてリハビリ頑張るぞ
リハビリで目立たぬようにあまえてる

大阪市 橋本 典子

風誘う梅の蕾に心舞う
生きる糧見失いそな暇な日日
三箇日てんでこ舞いで過ぎ去った
夢さえもロマンチックな恋は無く

大阪市 平賀 国和

一晩で気分一新去年今年
願うのは普通の暮らし平和な世
雑念を捨てよと論す初みくじ
三猿の逆で生きたい新時代

大阪市 前川 善之

人生の無駄が見えてるスヌーピー
幸せは独り占めでは許されぬ
高齢者年金有るから頑張れる
国債で日本崩壊きつと来る

大阪市 宮村 満寿恵

廻り寿し皿の高さにあきれ果て
正月だ体重計は嘘つかぬ
良い友だ笑いじょうごで福をくれ
ポケットに悩みをしまい春迎え

大阪市 吉田 知之

文句言い自分のことは知らぬ顔
生き甲斐も色々あつて相互扶助
賀状やめ朋友だけに句の便り
学者でも宇宙の終り分らない

堺市 山崎 早苗

ふと思う割引券は得なのか
友と会う三十年を飛び越える
コロッケがコロッケの味涙ぐむ
治療終え新たな一歩胸をはる

泉大津市 助川 和美

危ないと体験しても再稼働
今川焼買って釣り銭暖かい
小春日が嬉し漬物樽洗う
山茶花咲く朝な夕な庭掃除

交野市 田岡久幸

無事で只生きてるだけで合格点
何となくその気にならぬマイナンバー
いいことも物のはずみの出来心
まあいいか仕方がないと選択肢

河内長野市 森田廣子
お別れも出会いも縁とかみしめる
緊張と緩和見舞いの行き帰り
入院がご縁となつて老いの春
見舞客ブランド品で身を包み

河内長野市 渡邊修
孫の手が届かぬ所がかゆくなる
名札無くナースうろつく見舞客
新春をすべてメールの怠慢家
七草に残るお節のちらし

高槻市 三谷白黒
大掃除一年ぶりに出て来たよ
何しよう退屈過ぎるお正月
一年の誓いはいつも繰り返す
下手くそで止めないところが立派です

豊中市 荒木郁子
食事会何かと妻はよく出かけ
バイキング女ばかりで気炎あげ
温泉とカニに釣られたバス旅行
さりげなく病院通いおしやれして

豊中市 荒巻夢

花びら餅母よ召しませ初春に
少年の初々しさを喉仏
隙あれば尻割り入れる気力あり
挑戦は常に楽しい命燃ゆ

豊中市 貝塚正子
お酒にも書いて下さい副作用
さいならと軽く言つたが泣いている
楽隠居家にはじつとしていない
花形の楽屋は蘭の見本市

豊中市 上出修
我が悩み除夜の鐘では足りません
シャッターが一層街を寒くする
その話もうええやろと目が語る
ちゃぶ台を囲めばそこはもうサロン

豊中市 源田啓生
年玉を貰う時だけかしこまる
読みたいが部厚い本におしけづく
その内に番号だけで処理される
暖冬と言うが懐冷えたまま

寝屋川市 荒川鈍甲
生きてるぞ叫んでみたくなる初日
キンカンを食べば故郷の庭景色
民主主義七〇歳は伸び盛り
日本が見直されてるデモの列

寝屋川市 大同 美江

温暖で神頼みするスキー場
みぞれ道托鉢僧のわらじ跡
老いてなお敬老会の人気者
入院も頭の中は五七五

寝屋川市 守家 尚世

見て聞いて喋り楽しく呆け防止
三猿で機嫌取ってる年女
左箸筋トレだよと孫の意気
パソコンは苦手手書きの年賀状

羽曳野市 中川 ひろ介

串刺しは何でも旨い宵えびす
一筆に万願こめて安と書く
値下がりにしつかり食べよ鍋野菜
神は赦し愛することを望むはず

羽曳野市 安本 美喜

につぼん中の人の動きを見るテレビ
絶筆となりし友より賀状来る
里帰りモデルのごとき孫の服
重箱のくわい大人になって食べ

枚方市 坂本 ミヨノ

部屋の中ラン狂い咲き香る窓
老人も年越しそばで微笑みて
簡略な服の仕上り誉められる
新春に大吉引いてまた祈る

枚方市 松原 保

有馬の湯チャイナ言葉が乱れ飛ぶ
子や孫に付けを残すぞ再稼働
メモ取らず消えてしまった五七五
まわれ右みんなが回るイエスマン

箕面市 寺井 柳童

初日の出世界に平和先ず祈り
着飾った和服が目立つ初詣で
ハグをした頬がほんのり桜いろ
朝昼晩飽きず雑煮を三ヶ日

八尾市 田邊 浩三

爆買いに景気まかせていいのかな
夏も冬も高い高いと光熱費
芋カボチャばかり食べてた疎開先
女房の洗濯好きに手を合わす

八尾市 山川 寧

孫六人どんどん増えるお年玉
口元にごはんつぶ付けアイラブユー
懐かしの歌謡曲あの日へ還る
野牡丹を目当てに帰る老夫婦

神戸市 井上 忠貞

老いてなお妻のいいなりそれで良い
カナリアが抗夫の命守ってる
そばに居るだけで安心老夫婦
口うるさい女房のヒゲがまた伸びた

神戸市 興 水 弘

笛の穴ふさがれていく悪あがき
呼び込みのテンポに乗って買いすぎる
百均に詳しい爺はカッコイイ
寄り道が好きですヒトが酒がいい

神戸市 近 藤 勝 正

温暖化猿の北限より北へ
申年の恵方に嫌な人が居る
猿知恵とさげすむ人が知恵出さず
きび団子猿は本当に好きなのか

神戸市 富 永 恭 子

うなずいたばかりに眠り浅くなる
臆さずに黒は黒だと言う勇氣
一面の菜花に心横たえる
こんなもんあんなもんとで仲が良い

神戸市 細 川 花 門

演目は税の線引き自公劇
重税に紫煙くゆらせ耐えている
運転手は申お客は酉戌亥
祝い酒五臓六腑に宅配中

尼崎市 清 水 久美子

自らを奮い立たせる大きくさめ
公私共今が旬だと言ひ聞かず
はこべらの花になりたいラフレシア
トラキチに負けずアニキも燃えている

尼崎市 藤 田 雪 菜

お野菜が安い噂でベダル漕ぐ
水遣りの気持ち通じたシクラメン
引き出しの中なつかしの過去がある
雑巾もわたしも今日はリズムカル

伊丹市 平 井 富 夫

子も孫も妻も海外お正月
エルエルと小さな字での婦人服
飲み会の挨拶いいよまずビール
爆買いだ僕も出来るよ百均で

小野市 田 中 辰 夫

大欠伸ネコと俺との大晦日
水色になって朝餉の老い二人
粛肅と古稀を迎える除夜の鐘
辛抱が足らず転職脛かじる

小野市 藤 原 泰 宏

覚え書きしていた暦捨てられず
孫からの電話話が続かない
孫やつと金の値打ちが分かりかけ
大事故が起きなきやつけぬ信号機

川西市 日 野 岡 和 之

福島を忘れた如く再稼働
七草の粥ほのかなり通院日
ふるさとは不戦の誓い彼岸花
晴れの日の御節にこめる心意気

篠山市 藤井 美智子

初日の出今年も願うまず元氣
年賀状書けてる事がありがたい
目覚めてもしばらく温い朝の床
句の種が落ちていないか目を凝らす

三田市 今西 廣子

初恋の彼女も来てる披露宴
耳打ちされて方向が狂い出す
たらたらと生きて生命線二本
銀行でお金拾ったことがある

三田市 宗福 清司

クラス会あつという間に終電車
我が子にはあのタテ揺れを伝えねば
ジャンボくじこりずに買うがそのうちネ
指折りつつゆつくり歩く抜けるよう

三田市 多田 雅尚

御節でも由来を聞けば験担ぎ
おみくじを吉が出るまで引き直す
福袋みんな買うから僕も買う
海外は今ほ恐いと見栄を張る

三田市 辻 開子

お年玉年ごと年金赤字増え
笑顔なら難問らくに解けるかも
三が日終えて老体マイペース
申年は赤の下着で燃えたいな

三田市 東内 美智子

億の遺産相続税に唸る夢
招き猫福も呼んだが鬼も来た
漢字なら得意はいつか辞書片手
漱石の猫の名前はまだないか

宝塚市 井上 風花

下心ありあり見える贈り物
三猿をまねてたまるかこの世相
ところで話をそらす狡い人
路地裏の風景変える雪化粧

西宮市 株元 玲子

新しい年新しい事始めよう
脳細胞まだ枯れないと扱き使う
マイナンバーもらいロボットの気分
みんな手をつなげば地球も長生き

三木市 山口 久子

新春を迎えてわたし九十に
声高く老若男女歌う会
朝日背に健脚競う老夫婦
賑やかで何時も笑顔の家がいい

南あわじ市 萩原 狸月

屋根の上パネル地球のために載せ
レシートに嘘をつかせた政治費
子の笑顔見たくて親も遊園地
底辺に生きて矜持は失わず

奈良市 尾畑 なを江

球根にまじないかけて植えてみた
モンキーがこの一年を飛びまわる
樹の下で笑っています福寿草
この次は晴れてる時に来たいところ

奈良市 高橋 敬子

長い列ちよつと気になるラーメン屋
続くかと迷いに迷う子の月謝
難民の笑い忘れた列続く
八百万の神も楽しむクリスマス

奈良市 高橋 仁志

ノーベル賞続き国中活気づく
三猿も今の世間じゃはやらない
次つぎと記録を破るエルニーニョ
久しぶり友と語った夢の中

和歌山県 森下 よりこ

蓬餅も時々作るもちつき器
何やかやあったが無事にお正月
やれることだけやって迎えたお正月
テレビ見乍ら句作り出来る今日の幸

和歌山県 平田 元三

屋内のながら族なら事故はない
肩書きを取れば気楽になる名刺
年波に記憶の玉が削られる
誇示したい性丸出しのカーチェイス

岩出市 村中 悦男

老眼のかすみを癒す深い空
幸せの花は絆の枝に咲く
遠ざかる過去はドラマで残したい
三猿の教えもよかる年だから

鳥取県 飯野 菖子

骨皮の細い足でも鋏を振る
前向きに歩く私に向かい風
汚染物未来の子等に作らない
小さいが負けじ魂生きています

鳥取県 児玉 規雄

三猿が大切ですよマイナンプー
十一桁やつと憶えりゃ十二桁
一億が活躍出来る場所どこに
地方では老人パワーがものをいう

鳥取県 田口 清帆

つまみ食い多分邪心の第一歩
お世話する人がいるから頑張れる
ありがとう今日も無事にて休みます
ハンドルの遊びぐらいいの下心

鳥取県 橋谷 静江

十七音考えながら楽しんで
猿真似もしてみる今年一年生
客間には自慢の額を並べてる
愛犬の散歩へひざが痛みだす

鳥取市 大前 安子

茶柱へ一病のこと忘れさせ
懷で温めたことは持ち歩く
お正月過ぎて財布も一安堵
薄化粧顔へほんのりのせました

鳥取市 奥田 由美

カニバイキングが痛風発作よびもどす
家具だけの移転で終わる同居案
追いかける鬼とも思う締切り日
新雪に小梅の手形ネコ散歩

鳥取市 近藤 秋星

初売りの買つて見ようか福袋
忘れずに僕に賀状をくれる友
下手な字の僕の賀状を待つ人も
処世術見ざる聞かざる触らざる

鳥取市 坂本 とも湖

化粧落とした妻の寝顔が恐くなり
耳を澄ますと言葉の森が話し掛け
カラス鳴く喪服と銭の準備しな
木をゆするとリングの恋の物語

鳥取市 高原 かおる

理解したつもりなかなとどかない
チョツとしたウワサ詳しく聞いたから
雑音の中で平気な高イビキ
口先と裏腹にある本音だね

鳥取市 津村 律子

初場所は紋付き晴れ着日本髪
お正月飾りなくても餅食べる
厨房を譲りたいのに亭主来ぬ
鬼瓦やさしい顔の大黒様

倉吉市 岡崎 美知江

両の膝笑いばなしで止まらない
派手な服一度気取つて着てみたい
手の平に派手に残つた夢一つ
惚けたつてたつた一人のお母さん

倉吉市 田中 紀美恵

神様にいけずしたので睨まれた
温暖化リズムこわれて四季がない
母強し父はおろおろするばかり
いつの日か宇宙に家を建てたるぞ

倉吉市 堀 かずこ

恋心たち切る勇氣ありますか
好きな人あの時言えばよかったわ
年の瀬が老いと一緒にやつてくる
くやしさを天を仰いで忘れよう

境港市 中井 虎尾

喪中多々年賀葉書が余つちやう
御主人はまだ表札で生きてはる
出陣だ視聴率向け真田丸
尖閣で機関砲持つチャイナ船

米子市 生田和之

テーブルに座れば杖が邪魔をする
今年こそなどと気張らず生きて行く
安買いで育ち安買いで老いる
暖冬に浮かれ大根が太り出す

米子市 田村周子

落ちついた平穏な日を送りたい
温暖化地球の変化あなどれぬ
人生は幸も不幸も巡りくる
暖冬で電気節約ありがたい

松江市 相見柳歩

粘ったらさらに嫌われ続けるし
これからの道は気流に任せるか
温泉の礼はいらない長生きを
ふたりして戻れば怖くないからね

松江市 福岡左余

歳忘れ健脚畑に鋤振う
冬野菜主の自慢に奮い立つ
うちの塀退職金で光ってる
静観と言う医師に向け不安の眼

松江市 山根邦代

申年の手書きの温みおめでとう
好きな事挫けないでと言ひ聞かせ
グループは気心知れた笑顔の輪
挑戦を続ける事が生きる道

安来市 原 煩惱児

ああ故郷故郷と思う朝夕陽
こだわりにこだわり過ぎている頑固
孫のためせっせせっせと吊るし柿
飴玉を噛みつつ老いのパチンコに

倉敷市 安東モモ

年賀状今年最後と書いてあり
終活の友がだんだんふえて来た
高齢者そう呼ばれる日近づいて
今年から自由時間がふえそうだ

玉野市 片岡富子

何事も一度楽すりゃ戻れない
おみくじに励まされ見る日の出かな
物忘れ正月ボケだと良いけれど
絵画展動く歩道があればよい

尾道市 小畑宣之

物忘れこれも個性と居直られ
大晦日湯の花入れて長湯かな
いつまでも猫をかぶっていて欲しい
これからの日本支える老人力

竹原市 土井輝恵

賭け事の好きな夫婦のDNA
サスペンス離婚届けを密と持つ
善玉が超過してますからだ中
松取れて来ない賀状の沙汰捜し

竹原市 六 田 半 徳

この歳じゃ知恵熱が出る期待なく

流れ雲形は似てる亡母の顔

カタカナ語増えて辞典が間に合わず

孫来るぞ部屋の片付け大わらわ

府中市 岸 田 武

第九を唄わないかと誘われる

許されよ寝ころんで聞く除夜の鐘

元日の眉もう妻は引いている

寝て起きてまた退屈なテレビ見る

山口市 増 田 め だ か

お年玉バアバになびく種を蒔く

めずらしく友が一本下げて来る

正月の残り物ですそっと出す

酒好きは父親似だとぐちる母

岩国市 上 村 夢 香

新しい命いただく今朝の幸

未知と遇うときめき秘めてニュース読む

いい人に出会えるような青い空

今頃は寅さんという兄だろう

愛媛県 近 藤 修 二

空白はあなたのために残します

マドンナに賞味期限はありません

半世紀共に過ごした花粉症

静寂が心に響く無人駅

今治市 渡 邊 伊 津 志

強かに葉脈遺す枯葉落ち

老木の吐息を聞いた冬風

溜息を美味しかったと切り換える

過去の傷妻には時効通じない

高知市 三 谷 松 太 郎

エンピツで書いた戯れ言消してます

ピンピンところりは在庫ございません

迎え付き今日も行きます桃源郷

お月さん地球に線が見えますか

唐津市 岩 崎 實

見て聞いてはつきり言える三猿に

書き添えるまでに至らず年賀状

我武者羅も遣る気もどこへ餅一つ

着てる物脱がせて洗う寒の朝

佐賀県 門 井 孝

今年こそ猿まねなしの素直さを

孫受験三社で足りず五社参り

六年生夢の仕上げヘラストラン

マイナバー孫と競り合う暗記力

佐賀市 清 水 園 實

新年も椅子に腰かけ顔を出す

今年こそ歩く門には福来たる

ままならぬ血圧だけが親ゆずり

はるかなり年だけ食べた雑煮餅

唐津市 吉富節子

やがて来るあの世をちよつと覗きたい
補助車押していたのに今押され
ちよつとだけ次第にふえた使い込み
家事多趣味若いですネに多忙なり

熊本市 杉野羅天

異常事態師走暖房入れぬ日々
やわらかい元日の陽を浴びている
心機一転とは思いつつ元日や
アベノミクスすでに格差が止まらない

山鹿市 前田幸子

どん底に苦労重ねて今の幸
お餅つき機械がついてくれました
川柳と仲よく今日は日向ぼ
ばくばくと食べれる今日も感謝です

山鹿市 三谷直男

子をいじめ死なせる親は即死刑
ハラだたい事しか起きぬ日本国
選挙など更に悪人増やすだけ
心なきおもてなしとは詐欺のこと

山鹿市 柳田白沙

サザンカはひとり残らず美形です
暖冬をすなおに受けて待つ椿
この笑顔超飛びつきり福寿草
ご臨終自分で言つて幕を引く

シドニー 坂上 のり子

おせち料理と無縁に生きて半世紀
故郷の雪見つつ極暑にあえぐ今日
脳に良い何かをすると眠い脳
手をつなぐ恋人の手は介護の手

(前月分) 岩国市 上村夢香

受け継いだ平和本気で守らねば
消費税選挙のたびに怯え出す
断捨離についつい時を無駄にする
大掃除計画表は立派です

今日という白いページは何色に

(前月分) 山鹿市 三谷直男

アイラブユー年に百ほど言つて来た
人間でかわいらしいのは子供だけ
タヌキ出た首相と似過ぎでお気の毒
姉が言う少しはまともな句を作れ

第153回 大阪川柳の会

日時 4月5日(火) 午後1時開場・午後2時締切

会場 大阪市北区梅田 駅前第二ビル5階

大阪市立総合生涯学習センター 第一研修室

宿題と選者(各題2句・席題なし)

△「煩悩」桂ひろし △「息」足立千恵子

△「しんごい」江島谷勝弘 △「右」森中恵美子

会費 1000円 欠席投句(切手82円5枚同封)

4月4日到着分まで 会員に限る

〒532-0025 大阪市淀川区新北野1-3-4-706

本田 智彦 宛

橘高薫風句抄

〔橘高薫風川柳句集〕平成十三年発刊

山小屋の一軒を焼く苺の火
礼状は簡略ながら葉書なり
山の湯に鹿の化身のようなひと
酒の酌不美人でよし旅ごころ
遙かなる島従えて句碑の贅
凱旋の甲へうま酒を満たす
政治貧しく庶民の受ける巨斧の跡
出陣のねぶたで君に逢いに行く
眼鏡にも青葉映して旅たのし
竹山を聴くうつむいて顔上げて
顔見世は夫婦第九は違ふひと
ワンスアボンナタイムと孫について行く
将門の気骨やいずこ天高し

今日の旅扉を閉ざしたる朱雀門
大津絵の鬼招じ入れ留守居酒
すすき見て目を濯ぎいる思いあり
騙されるにも狸型狐型
向日葵も国衰えて花小さし
馬で来る妹スポーツカーの姉
繭玉の赤と白とのごとくなり
長年の欲一本の皺となる
こぼしこぼしよばれる古いカステーラ
紫陽花の最後の色に梅雨が明け
仏壇に桃がはにかむ宣介忌
頑なな父の枕の固いこと
母がくる予感やっぱり母がくる
鷗尾放光天平の金昭和の金
柿の木と蔵に西日が美しい
代議士にお願ひされる阿呆らしさ
子の会話聞きながら書く候文

誹風柳多留一二篇研究 33

小栗 清 吾・細井 龍 夫

伊 吹 和 男・山 田 昭 夫

石 川 道 子

清 博 美

264 たびのひぼむすべみかんころげ落

小栗 そのままの句だろう。足袋の紐を結ほうとして、身体を大きく前傾させたために、懐に入れていた蜜柑が転げ落ちたというのであろう。日常よく見る光景を細かく観察した句で、足袋と蜜柑の季節感もあろうか。

ただ、それだけではあまりにも平易なので、何か寓意・故事でもないかと心配になる。強いて考えれば「二十四孝」の「陸績」が橘を落とす話だが、これは挨拶をするときの話であり、足袋の紐では遠すぎると思う。

『画本柳多留』（二篇）に添付の通りの絵があり、少なくとも八島五岳はそれだけの句と考えていたようであるのを頼りに、前述の解としておく。

清 それだけの句でしょう。

265 きつとした買人のふりてすけん也

小栗 急度したのは、①明確な。はっきりした。確実な。しつかりした。②れっきとした。ちゃんとした。③相応の。それ相当の（「江」）。

素見にも一応の見栄がある。いかにも素見！という態度ではなくて、いい妓が居れば揚げぬでもないといった、ちゃんとした遊客の振りで歩き回るのである。

ひとつ買ひするとミセかけ素見也
見立ルよふなふりしてすけんふつ

安九仁 4

清 賛。黒羽二重などを着ての素見か。

266 やうたいをいひく女房いつ付る

小栗 腎虚の句だろう。往診した医者に対して、女房が容態を言いながら「節制しないで困ります」と言い付けているのであるが、問題は言い付ける内容。

①静かに養生しないで、出かけては外で腎水を減らしてきます。

②駄目だと言っても、しつこく私に手を出します。

のいずれであろうか。

「言つつける」の語感からすると①のようでもあるが、柳雨「川柳風俗志」における句の並べ方は②と考えられているようでもある。腎虚ともなればそうそう出歩くことも出来なからうし、「腎虚の傍に美人の女房」はパターンであるので、一応②としておく。

うちかへす病気女房はきへたがり 六 32

細井 ①だろうと思います。

よそでへりますと内義ハいしやへい、 明 六 梅 3

②とは恥ずかしくて言えないかと……。

女房をいたミ入らせていしやかへり 安 六 松 5

伊 吹 どちらとも決めたいが、しいてあげれば②説か。

石川 女房のグチ的つげ口に系統立った分類などないのでは。①も②もあれば、③でも④でも、つけ加えるでしょう。

清 女房に手を出すから面白く、その女房がぬけぬけと話すから面白い。川柳ってそういうものじゃないですか。

267 かま倉のたねのはびこるさつまいも

小栗 薩摩藩・島津氏の祖である島津忠久が源頼朝の子であるという説を、特産の薩摩芋に託して詠んだ句。

島津忠久 鎌倉前期の武将。島津氏の祖。惟宗姓。源頼朝の子で惟宗広言の養子とする説もあるが、近衛家の家司惟宗氏の出身とする説が有力。頼朝に仕え、文治二年薩摩国島津莊地頭となる。(略) (『日本史広辞典』)。

御子孫は西の国でも大あたま
六 4
善の御紋御先祖ハ右馬の頭
一〇八 4

清 賛。

268 せい出してためてもいせやおいのもの

小栗 吝嗇な伊勢屋が精出して金を貯めても、その身上は結局は甥のものになってしまうということ。その訳は、一人息子の二代目

が道楽者で勘当の身となり、跡継ぎがないために、兄弟の子(甥)に譲らざるを得なくなる、というストーリーを考えればいいのであろう。伊勢屋の二代目は、

二代目のいせやへハふはつかつほ

安二義 4

金の番い世やのむす子よしにする 二二 16
と、親父ほど吝嗇ではなくなる。そしてさらに、

三代目いせや身上ほうにふり 寛元桜 2
となる運命である。

ただ、次の句が気になっている。

神代にもいせやハ甥を養子なり 三八 15

これは何であろうか。神話にこれに寓するような話があるだろうか。もし、あるとすれば、場合によっては、主題句はそのパロディということにもなりかねないのだが、まったく思いつかない。乞うご教授。

細井 (三八 15) については調べて見たが不明。残念。

清 小栗氏の疑問句。神話の世界を総点検しなければ解らぬか。

269 きりく／＼つくねやれなど御しんぞう

小栗 きりきりは、事をすみやかにすさま。

さつさと(江)。捏ねるは、たばねる。

御新造が「さつさと捏ねなさい」と命じているというのだが、次の句を頼りに、下女に對して「くずくずしないで、早く髪を結ってしまいなさい」と急かせている光景としておく。

下女がかミはやくつくねて来イといへ

安元満 2

清 どうもそれだけの句らしい。

270 大おんなやつに張良うたわせる

小栗 いわゆる「四面楚歌」の故事を詠んだ句。

漢楚の戦いで漢の劉邦に追い詰められた楚の項羽は、垓下の城壁に立てこもった。これを見た漢の軍師・張良が、取り囲んだ兵隊に楚の国の歌を歌わせたところ、これを聞いた項羽は「漢は既に楚を全部降してしまつたのか。敵軍の中に何と楚の国の人の多いことか」と嘆き、楚軍は総崩れとなる。

主題句は、この話を題材にして、張良はなるべく声の大きな奴に歌わせただろうというのである。

あわれな声でうたへと子房いひ 一三 11
清 賛。

愛染帖

新家 完司 選

(投句) 277名

岡山市 丹下 凱夫

血圧を計ることから年明け

(評) 一年の計は元旦にあり。何はさておき、まず自分の体と向き合うことから始まった新年。今年もつつがなく過ごせようである。

河内長野市 森田ひろこ

仰ぎ見る見舞いの客の鼻太し

(評) ベッドに寝たままで見舞客を迎えたということは、まだ起き上がるのが辛いのだろう。元気な人の顔や声までが煩わしい。

堺市 奥 時雄

子守より難易度高い妻と住む

(評) 赤ん坊なら「おお、よしよし」などとあやしてやればいいのだが。経年強化された連れ合いはそう簡単には操れない。

河内長野市 大島ともこ

ぐうたらは便利グッズの産みの母

(評) 「必要は発明の母」ではあるが、それを端的に言えば「面倒なことはイヤ」もって簡単に「等という「ぐうたら」であろう。

青森県 松山 芳生

青春を刷毛でのばしている老後

(評) 何歳になっても「青春のカケラ」は残っている。老いてなお言動に若さが匂うのは、その残滓から染み出たパワーだろう。

羽曳野市 宇都宮ちづる

自動運転きつと頑固な走り方

(評) 両手を離しても目的地まで走る自動車が開発されている。もちろん、主人の意向より法規を優先する「頑固者」に違いない。

松江市 石橋 芳山

安つぼく輝く見栄の大部分

(評) 体裁を繕いたいのは誰しも同じだが、実力以上に見せたいと思う「見栄」は不自然。そこだけが安つぼく浮き上がってしまう。

大洲市 花岡 順子

返球は喧嘩モードでないボール

(評) 「言葉のキャッチボール」の球種もいろいろ。友好モードや冗談モードはウエルカムだが、喧嘩モードはご勘弁願いたい。

倉吉市 牧野 芳光

カチンカチンカランカランと冬の中

(評) カッキーン！と冷え込んだ日に届くのは耳に痛い尖った音や金属音。「ふわりふわりとろりとろり」の春が待ち遠しい。

寝屋川市 富山ルイ子

歩けるのは当たり前ではないのです

(評) スタスタ歩けるのが「当たり前」なの

は健康なとき。歩けなくなつて初めて、それがいかに「凄いこと」であるのかが分かる。

鳥取市 倉益 一瑤

ケーキを崩すたった一人のクリスマス

和歌山市 松尾 和香

クリスマス孫にもらった腕時計

高槻市 島田千鶴子

連なつた屋根越しに見る初日の出

府中市 岸田 武

初詣スマホより前を向きなさい

大阪市 坂 裕之

出来そうにない願い事絵馬に書く

横浜市 川島 良子

いい年だ笑い転げて三が日

神戸市 近藤 勝正

新年にまたも日記に挑戦す

倉吉市 岡崎美知江

供え餅真空パック神へ詫び

堺市 村上 玄也

生きていることだけ分かる年賀状

大阪市 谷口 義

いい湯だと猿が言ってる年賀状

河内長野市 渡邊 修

三が日過ぎて煮しめの後始末

京都市 三宅 満子

七草も鏡開きもするひとり

大阪府 米澤 俣子

風あげる風の子いない青い空

大阪府 藤田 武人
一瞬でゴミ箱行きのポチ袋

大阪府 高木 道子
正月の贅沢積んだ収集車

枚方市 丹後屋 肇
えべっさんへ一番乗りのアスリート

鳥取県 斉尾くにこ
年齢をたずねられたら二割引き

貝塚市 吉道あかね
マイナス五歳ごまかすようにする努力

大阪府 古今堂蕉子
「なごり雪」歌って少し若返る

松山市 栗田 忠士
朝食をとりながら読む計報欄

豊中市 池田 純子
あくせくとするから呆ける暇がない

七草を食べてさあさあ始業式
しめ飾り中国製と書いてある

札幌市 三浦 強一
ポッキリ死終わり良ければ全てよし

大阪府 平井美智子
減塩の愛が盛られている夕餉

豊中市 藤井 則彦
朗らかな顔したお酒買ってくる

足を組み癖が直らぬまま傘寿
悩んでこそ人の悩みもよく分かる

米子市 生田 和之
メモ帳に横書きで書く五七五

河内長野市 木見谷孝代
意気込んで一句も詠めず昼になる

藤井寺市 津田シルク
川柳はワイドに友が出来る幸

堺市 大和 峯二
川柳と送る人生悔いはなし

神戸市 奥澤洋次郎
三才に入っているよ夢の中

鳥取市 池澤 大鯨
修練をしない癖字で押し通す

瀬戸内市 宮宅比佐恵
七億はどなたの掌かな外れくじ

岡山市 藤成 操江
宝くじ当たる人などいるのかな

広島市 岸本 清
酒恋し窓に明かりが灯る頃

堺市 加島 由一
飲む機会こまめに作る反主流

富田林市 山野 寿之
言い負けた傷をお酒がマッサージ

大阪府 奥村 五月
終電に遅れ屋台でコップ酒

大阪府 栃尾 奏子
素晴らしい平凡を知る島暮らし

宝塚市 太田としお
腹立つが息子は僕に瓜二つ

唐津市 仁部 四郎
偕老のホームへの荷に住所録

羽曳野市 徳山みつこ
柄タイツへ静脈瘤をしまい込む

高槻市 初代 正彦
いいえとは言わずハイハイハイと妻

鳥取市 前田 楓花
棘を抜き丸くなったら逢いに行く

沖縄県 森山 文切
禁煙のマークが傾いて笑う

榎原市 居谷真理子
ハルカスの無粋通天閣の粋

大阪府 高杉 力
外回り同士が集う珈琲屋

神戸市 松井 文香
小吉に力むなかれと諭される

三田市 堀 正和
ひらかなで書いて下さい説明書

和歌山県 森下よりこ
梅の剪定三本が初仕事

弘前市 高瀬 霜石
餅入りの鍋焼きうどんには負ける

三田市 上田ひとみ
フリスもうまく着こなすシニアたち

鳥取市 谷口回春子
手も足も心も縛る恋心

尼崎市 清水久美子
手に入れた途端に飽きたバーゲン品

長野県 丸山 健三
カルシウム不足カリカリ地球人

高知市 小川てるみ

戦争体験語る先人達が逝く

松江市 相見 柳歩

本屋寄る知的な香り浴びたくて

堺市 矢倉 五月

古いのか律儀か脈取る医者が好き

弘前市 福士 慕情

お見舞いに行ってお土産持たされる

桜井市 安土 理恵

折り目正しく直角におじぎする

鳥取県 竹信 照彦

ステーキのレアは嫌いで刺身好き

奈良市 大久保真澄

日本製は丈夫チャイナのお墨付き

池田市 上山 堅坊

横丁のおかみに惚れた秘密基地

防府市 坂本 加代

噂され我聞せずと猫あくび

大阪市 江島谷勝弘

一期一会一万人はいるだろう

奈良県 渡辺 富子

雲眺め今夜のおかず思案する

明石市 桃谷 和郎

同じ蟹なのに呼び名の変わる県

和歌山市 上田 紀子

キリキリ舞いしてたあの頃華だった

東大阪市 佐々木満作
メールでは真の心は伝わらぬ

笠岡市 藤井 智史

脳内のハイウエイ造る趣味を持つ

大阪市 津守 柳伸

欠かせない自己満足の朝バナナ

高槻市 片山かずお

エスカレーター大好きですと僕の膝

松山市 神野きつこ

華やかな友の話に指くわえ

堺市 内藤 憲彦

ピーポーバーポー明日は我が身と道あける

八尾市 村上ミツ子

ありがとうを言いたいひとがたんといる

藤井寺市 鈴木いさお

メモリアルホールは不景気を知らず

海南市 堂上 泰女

レンゲ草ほんのり咲かずエルニーニョ

奈良市 米田 恭昌

俺の子だやっぱり伸びる鼻の下

鳥取県 石谷美恵子

反省は猿に任せてケセラセラ

河内長野市 梶原 弘光

善玉菌だけを増やせと医者無茶

東京都 川本真理子

古鍋の得意料理はまず煮込み

米子市 竹村紀の治

忘年会転んで知った実年齢

藤井寺市 若松 雅枝
逃げ道を考えてから靴を脱ぐ

男鹿市 伊藤のぶよし

スクワット三途の川も跳ぶつもり

豊中市 松尾美智代

私にも名前はあるんですあなた

茨木市 藤井 正雄

無口では損と分かっていて無口

鳥取市 吉田 弘子

口八丁なのに人前では静か

和泉市 横山 捷也

体のネジ緩んで咳が止まらない

大阪市 笠嶋 恵美

「くまのプーさん」老いもほっこりグッズ買う

三田市 村田 博

ウィンドーに映る貴方はどちら様

大阪市 柴本ばつは

賢い主婦とことん探す安い店

三原市 鴨田 昭紀

三年目愛が緩んできた指輪

生駒市 飛永ふりこ

話しかけやすい私のおめでたさ

枚方市 松原 保

安の字は不安安心五分と五分

米子市 後藤美恵子

夫逝って女の暦書き変える

香南市 桑名 孝雄

米寿まで来ればついでの卒寿かな

横浜市 菊地 政勝

新年の手抜きをチンではじめられ
東大阪市 北村 賢子

オンリーユーなどと宣ったのは夫
堺市 澤井 敏治

たこ焼きはおかずお好み焼きはめし
河内長野市 山岡富美子

老人を持て余してゐる長寿国
大阪市 井丸 昌紀

じわじわといびつになってゆく噂
島取市 土橋 螢

歳月を笑い話で語り継ぐ
箕面市 広島 巴子

暖冬に冬眠やめて寺社巡り
弘前市 吉川ひとし

軽トラに乗せられてきた土曜市
東かがわ市 川崎ひかり

歳月や老眼鏡を娘がかける
羽曳野市 中川ひろ介

三世代みんな似ている豆の花
富田林市 中井 アキ

昭和が集いちあきなおみで盛り上がる
三田市 尾崎 一子

寝込みまぬよう猿年にはく赤バンツ
西宮市 片山 忠

年金で食える食えぬとエンドレス
岡山県 田中 恵

和歌山市 喜田 准一

老人が増えてやがては消える町
島取市 山下 節子

合区制渋々ですが仕方なし
紀の川市 宇野 幹子

ドーナツの穴へ吸われてゆく記憶
富田林市 肥山 一文

びしびしと妻の指導を受けて主夫
加西市 金川 宣子

霜柱溶かしてしまふランドセル
今治市 渡邊伊津志

近寄り難い人にも時に春の顔
寝屋川市 森 茜

換気する窓からバツと青い空
大阪市 若本 安代

蠟梅も山茶花さえも咲き急ぐ
田辺市 岡本 昇

我慢することなら負けぬ戦中派
神戸市 能勢 利子

肺活量減って口笛下手になる
河内長野市 藤塚 克三

外人相手早口になる京都弁
高槻市 安田 忠子

異国の缶波にゆられて浜田港
寝屋川市 岡本 勲

我が家には魔除けはいらぬ妻がいる
和歌山市 楠見 章子

八王子市 川名 洋子

張り合つてへそくりの額言つちやつた
四条蔵市 吉岡 修

年金で悩み税金でやけくそ
大阪市 榎本日の出

楽茶碗撫でてひと時ひたつてゐる
宇都市 平田 実男

横断歩道青でも怖い老いの足
芦屋市 竹山千賀子

話の種拾いに犬と散歩する
羽曳野市 永田 章司

簡単にリセット出来ぬ過去の傷
松山市 郷田 みや

エクセルにほどほどという欄はない
奈良市 尾畑なを江

くるみ割る中身の形の摩訶不思議
高槻市 原 洋志

三面記事凍る心で読んでゐる
岡山県 池田たか子

煤払い一番したい脳回路
川西市 山口 不動

デバ地下の人の流れに身をまかせ
大阪市 田中ゆみ子

欠点も使いこなしていけば良い
八尾市 宮崎シマ子

六人姉妹百五・百歳・卒寿が残る
(注) 1月号119頁の「お知らせ」通り、愛染帖の応募数は2句になりました。ご注意下さい。

共選欄

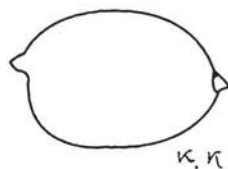
檸檬

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句 375名)



K. K

「愛着」三浦強一選

愛着もあるが溜め込む癖もある
結び終え形見の帯にある重み
戦死した父が遺してくれたペン
タンスには愛着心が詰まってる
足元に付いて離れぬ猫を抱く
愛犬の形見の首輪捨てられず
染みついた汗に愛着ある野良着
札束に愛着黒い傷ふえる
帝釈天行けば団子は欠かせない
貧乏がいつも愛着へと変わる
愛着は人一倍の虎ファン
文箱に声と温もり入れてある
七十年この憲法で生きてきた
シュレッダーにかける未練を抱いて冬
捨てかねて置けば置くほど捨てかねる

神戸市	細川	花門
和歌山市	松原	寿子
登別市	小林	碧水
鳥取県	飯野	葛子
防府市	坂本	加代
京都府	清水	英旺
弘前市	福士	慕情
八尾市	宮西	弥生
姫路市	古川	奮水
鳥取市	夏目	一粋
宇部市	平田	実男
大阪市	藤原千恵子	
三田市	堀	正和
堺市	柿花	和夫
四条畷市	吉岡	修

「愛着」長浜美籠選

半世紀分身でした日記帳
つきあい方知って一病友とする
桐箆箭母の匂いを嗅ぎに行く
目立たないように着ている好きなシャツ
捨て難い足に馴染んだハイヒール
同居するため捨てたものの夢にみる
捨てられぬ若きひばりのプロマイド
お米にも換えず守った衣装箱
ほろほろだけと断捨離出来ぬコンサイス
じいさんと軽トラックは無二の友
寅さんの映画は僕の常備薬
十年も乗ってる愛車身になじむ
いい人に似合う言われた野球帽
捨てられぬ企業戦士のユニホーム
継ぐ人の無い田畑の畦に立つ

箕面市	酒井	紀華
茨木市	島田	誠一
倉吉市	牧野	芳光
鳥取県	渋谷	重利
大阪市	寺井	弘子
富田林市	片岡智恵子	
東かがわ市	川崎ひかり	
八尾市	高杉	千歩
枚方市	寺川	弘一
弘前市	高瀬	霜石
大阪市	田浦	實
三田市	北野	哲男
大阪市	川端	一步
三田市	九村	義徳
和泉市	横山	捷也

退職日机さすつて席を立つ
 低い鼻わたしの顔に似合つてゐる
 養育費決めてこどもの手をにぎる
 リサイクルショップに置いて来た未練
 少しだけ愛着あつて腐れ縁
 駅そばを入場券で食べに行く
 残照へまだ愛着の青い恋
 苦吟知るちびた鉛筆捨てられぬ
 田舎もの言われようとも出雲弁
 愛着の里は汚染のまま枯れる
 愛着と裏腹故郷遠ざかる
 青春を過ごした辞書が捨てられぬ
 旧姓が薄く扉に残る辞書
 晩学に辞書とルーペで極まで
 ひびの入る夫婦茶碗で食べている
 踵だけ張り替えて履くお気に入り
 すり減った靴に刑事の過去がある
 愛着はないがあの時高かった
 お守りになってしまったストラップ
 断捨離の筈も積み込む転宅日
 引き出しの第二ボタンが捨てられぬ
 膝小僧見えるジーンズ宝物
 愛着に押入れ一つ乗つとられ

宝塚市	丸山 孔一
松山市	柳田かおる
唐津市	仁部 四郎
岡山市	永見 心咲
宝塚市	井上 風花
大阪市	佐藤 忠昭
海都市	堂上 泰女
羽曳野市	徳山みつこ
松江市	藤井 寿代
長野県	丸山 健三
河内長野市	梶原 弘光
三原市	鴨田 昭紀
八尾市	山根 妙子
札幌市	小沢 淳
出雲市	竹治ちかし
大阪市	大西 晴雄
大洲市	花岡 順子
西宮市	福島 弘子
高槻市	島田千鶴子
茨木市	島田 誠一
鳥取市	倉益 一瑤
三田市	村田 博
和歌山市	福本 英子

結納も芋焼酎に座がほげけ
 愛用のバター残して粗ゴミに
 金婚へ今や血よりも濃い絆
 自作自演の書一幅を可愛がる
 この鍋で皆な大きくなりました
 愛着のあげくの果てにゴミと住む
 古くなるほど断捨離がむずかしい
 過疎に一人終のすみかと決めている
 捨てかねて置けば置くほど捨てかねる
 七十年この憲法で生きてきた
 田舎もの言われようとも出雲弁
 折に触れ思い出させる人が居る
 今じゃもうこの人抜きで生きられぬ
 今のとこタバコが好きだ命より
 愛着はあるのに髪は薄情な
 未練タラタ動かない影法師
 何時までも始末出来ない子供部屋
 愛着に押入れ一つ乗つとられ
 まな板のへこみに主婦の自負がある
 愛情が邪魔して別れ言いだせぬ
 四十年磨き込んでるおでん鍋
 愛着が強すぎ猪口を離せない
 父からの戦地の便り裏打ち

堺市	加島 由一
神戸市	井上 忠貞
大阪市	升成 好
鳥取市	土橋 螢
登別市	小林 碧水
羽曳野市	吉村久仁雄
日置市	前田 洋子
和歌山県	森下よりこ
四条畷市	吉岡 修
三田市	堀 正和
松江市	藤井 寿代
河内長野市	谷 久美子
三田市	福田 好文
川西市	山口 不動
香南市	桑名 孝雄
尼崎市	藤井 宏造
三田市	尾崎 一子
和歌山市	福本 英子
三田市	上垣キヨミ
岸和田市	雪本 珠子
具塚市	吉道あかね
弘前市	稲見 則彦
八尾市	山根 妙子

愛着の和服箆筒で草臥れる

桐箆筒母の匂いを嗅ぎに行く

色あせてなお現役のピーコート

安眠を誘うパジャマの伸びたゴム

夫婦著亡夫の分が箱にあり

新世帯のどの器にもエピソード

捨てられぬ若きひばりのプロマイド

永久に心へ遺す原節子

サロンパス貼った五体をいとおしむ

愛着を覚えた人の側にいる

じいさんと軽トラックは無二の友

愛着はあるが返した免許証

本よりも愛着のある古書店主

四十年磨き込んでるおでん鍋

遺された梅酒を少し少しずつ

人生の節目刻んだ腕時計

リードオルガン八十年も踏みつけ

故郷へ命洗濯しに帰る

思慕一つ抱いて降り立つ風の駅

秀句

愛着があつて地球を出られない

故郷を向いて並んだ異人墓地

九条に持つ愛着はほんまもん

熊本県 岩切 康子

倉吉市 牧野 芳光

豊中市 池田 純子

大阪市 板尾 奏子

八尾市 宮崎シマ子

藤井寺市 太田扶美代

東かがわ市 川崎ひかり

横浜市 菊地 政勝

紀の川市 宇野 幹子

鳥取市 春木圭一郎

弘前市 高瀬 霜石

鳥取市 岸本 宏章

豊中市 藤井 則彦

貝塚市 吉道あかね

米子市 竹村紀の治

川西市 大坪 一徳

大阪市 柴本ばつは

河内長野市 木見谷孝代

枚方市 海老池 洋

松江市 石橋 芳山

唐津市 山口 高明

香芝市 大内 朝子

養育費決めてこどもの手をにぎる

生きてきた数だけ愛着が増える

返すのはまだ先にする免許証

人生に愛着もあり飲み薬

寂しくて母の形見を身に纏う

愛着が湧くまで君の名を煮込む

細くても低くてもこの顔が好き

噴煙の島でも僕の生まれ里

ベアだった頃を覚えてる湯呑み

愛着は人一倍の虎ファン

ボンコツ車僕に馴染んで手放せぬ

生き様をびしりと咲けと庭の梅

古里に本籍だけは残してる

未練や傘の滴が乾かない

亡父がくれた私の名前とても好き

愛着か生まれ故郷へ足が向く

故郷へ命洗濯しに帰る

いつまでも卓袱台離れない昭和

思慕一つ抱いて降り立つ風の駅

秀句

同郷と知ってから出る国訛り

断ち切れぬ愛着断捨離に悩む

捨てられぬ育児ノートと通信簿

唐津市 仁部 四郎

芦屋市 黒田 能子

可見市 板山まみ子

豊中市 江見 見清

島根県 倉益 一瑤

佐賀県 真島久美子

大阪市 大西 晴雄

唐津市 山口 高明

大阪市 平井美智子

宇都市 平田 実男

弘前市 福士 慕情

富田林市 関 よしみ

鳥取市 児玉 規雄

富田林市 中村 恵

大阪市 磯島福貴子

倉吉市 山中 康子

河内長野市 木見谷孝代

青森県 松山 芳生

枚方市 海老池 洋

福山市 藤後 卓也

堺市 村上 玄也

鳥取市 福西 茶子

英語 de Senryu⑤

麻生路郎句集『旅人』

英訳 吉村 侑久代 Kim HORNE

煉瓦の下のみみずの如く生きるのみ

*I decide to live
just like earthworms
under the bricks*

門出の日 牛へも言葉かけてやり

*the day
of the departure
having words with the cows*

decide 決める live 生きる just like どのように earthworm みみず
under 下で brick 煉瓦 departure 出発 word 言葉 cow 牝牛

〜リバーウィローのため息〜 R.H.ブライスによる川柳の解釈と英訳⑮

ブライス著 SENRYU の Professions (職業) から今回は (旅役者) を取り上げます。

清姫をどこでまかふか旅役者 (當百)

(The strolling player: / "This Kiyohime, —/ Where shall I give her the slip?")

今も昔もアイドルに憧れるのはよくあることです。「とある村で旅芸人が村娘と仲良くなったところ、彼女を家に帰そうとしても、驚いたことに娘はどこにでもついて回ります。芸人は悩みの種になった娘を歌舞伎の登場人物になぞらえて清姫と呼びます。清姫の登場する歌舞伎「道成寺」は、眉目秀麗の若僧、安珍が村長の家に滞在中、村長の娘、清姫が僧に想いを寄せます。僧が逃げるように立ち去っても、娘は蛇に化身して追いかけます。道成寺の大鐘の中に入り、逃げ延びたように見える安珍を蛇になった清姫が焼き殺す」と、ブライスは芝居の筋書きを紹介しています。ブライスの著書 SENRYU は、英語圏をはじめ海外の読者に日本の川柳を紹介することが主な目的なので、演目の内容まで記したのでしょう。恋の情念の燃焼を描いた筋書きは、今の時代にもよくあてはまると思います。しかし昨今の風潮では、旅役者は女性の場合が多いかもしれません。(無垢な男をどこでまかふか思案する女芸人) といったところでしょうか。

作者の西田當白 (1871-1944) は、大正二年番傘川柳社設立の一人。彼の代表句「上醋屋ヘイヘイヘイと逆らわず」が、大阪法善寺横丁の正弁丹吾亭前の句碑に現存しています。當白は岸本水府の師ですが、大正二年路郎・葭乃夫妻の仲人役も務めました。

参考文献: R.H.Blyth, SENRYU (北星堂 1949) p.119.

尾藤三柳編『川柳総合事典』(雄山閣 1984) p.240.

「凄
い」

内 藤 憲 彦 選

(投句 219名)



凄いな妻と褒めて育てる子の未来
凄いな妻にツメ立て向かう猫
スランブも栄養にする芸の虫
ふるさととすく刃部で好きな村
錦織と羽生ゆづると五郎丸
優勝のゴールを決めて澤は去る
満点に近い点数くやしがり
新幹線轟き渡る大いびき
長電話60分は喋れます
乞われれば絶対ノーと言わぬ人
表彰台自分の努力口にせず
辞書を引く眼鏡いらぬと父白寿
平凡の凄さ身にしむ句で残す
縄文杉いくつも世紀越えて立つ
四人の子元気にみんな育てあげ
拗ね上手姉には出来ぬ甘えかた
大根でお腹下した人はない
扇雀の指の先まで女満つ
あれこれと趣味の程度でない凄さ
どか雪もいつか消えると福寿草

京都市	三宅	満子
豊中市	水野	黒兎
和歌山市	武本	碧
堺市	遠山	唯教
大阪市	江島谷	勝弘
三田市	堀	正和
大洲市	花岡	順子
奈良市	大久保	眞澄
松山市	神野	きつこ
羽曳野市	吉村	久二雄
橋本市	石田	隆彦
和歌山市	福井	菜摘
大阪市	笠島	恵美
奈良県	渡辺	富子
大阪市	原田	すみ子
富田林市	中井	アキ
鳥取市	池澤	大鯨
羽曳野市	徳山	みつこ
茨木市	藤井	正雄
海南市	小谷	小雪

島全部沈めてしまう温暖化
物忘れ凄いが飯は忘れない
おばちゃんは凄いい税金まで値切る
古都京都外人客で姦しい
地球の危機よそに戦争するお馬鹿
ビボツパツ凄いい時代に生きている
淑女から猛女に変わる催事場
バイオリン絃が切れてもアンコール
川柳って凄いい人生まで変えた人
凄いいことさりとやってのける人
五千万年金貰うてまだ達者
大五匹連れて散歩のおばあさん

佳 句

七十年ギネスにしよう平和国
「ヨイトマケ」歌の凄さを突きつける
凄いい目で睨み返したのが返事
爆買いはありがたいけど続けてね
悪ガキのまんまで死ねておめでと

人

日本の借金凄いいゼロの数

地

おばちゃんのネットワークは蜘蛛の巣だ

天

熟練の誤差ミクロンのヤスリあと

軸

地図持たぬツバメが軒にちゃんと来る

堺市	澤井	敏治
高槻市	富田	保子
藤井寺市	鈴木	いさお
河内長野市	藤塚	克三
鳥取県	竹信	照彦
出雲市	竹治	かし
豊橋市	藤田	千休
大阪市	柴本	ばつは
貝塚市	石田	ひろ子
堺市	村上	玄也
三田市	北野	哲男
大阪市	古今堂	蕉子
神戸市	上田	和宏
橿原市	居谷	真理子
弘前市	福士	慕情
四条畷市	吉岡	修
弘前市	高瀬	霜石
和泉市	横山	捷也
岡山県	紫	しめの
南あわじ市	萩原	狸月

「通う」

(投句 220名)

上 垣 キヨミ 選



注連縄の稲穂に通う雀の子
ランドセルカタカタ走る通学路
通うものあつて和やか嫁姑
おはようと元気が駆ける通学路
日本語も知らずに通う英会話
往きよりも帰りが笑顔通学路
泣きながらママの手離し幼稚園
釣り上げるまでは日参した夫
帰り道関所のような縄のれん
途中下車しては通った隠れ茶屋
記号社会心が通い難くなる
通いつめ月謝の効果まだ見えぬ
そここのいてキャリーバッグの通り道
カルチャーに通う仲間に歳がない
飯風呂寝る三言で心通う仲
日参し射止めて今は尻の下
ひよいひよいとあの世とこの世通えたら
病む母へ通う明るい顔見せに
血の通う政治が遠くなる不安
身内より心が通う両隣

藤井寺市 田付 絹枝
東京都 川本真理子
高槻市 島田千鶴子
高知市 小川てるみ
高槻市 富田 保子
可見市 板山まみ子
三田市 上田ひとみ
東大阪市 北村 賢子
河内長野市 松岡 篤
河内長野市 黒岩 靖博
神戸市 奥澤洋次郎
神戸市 松井 文香
つくば市 嶋本 喬
唐津市 仁部 四郎
鳥取市 山下 凱柳
河内長野市 大島ともこ
大阪市 笠島 惠美
高槻市 原 洋志
奈良県 渡辺 富子
江南市 脇田 雅美

勉強が好きで大学五年生
そのうちに通勤ロケット宇宙基地
通つても終りと云つてくれぬ医者
通い合う心があつて飛ぶ火花
血の色が濁らぬようにジム通い
雑魚なりに夢を求めて通う道
懲りもせずせつせと通うおけら道
通院のつもりが入院せよと言う
こんなにも狭かったのか里の路
SLでの通勤夏が辛かった
八十を過ぎて通う美容院
畑通い老いの日課で得る元氣

佳 句

この世にも未練残して医者通い
川柳会へ通勤してのおばあちゃん
定年になった途端に医者通い
祖母来ても遊ぶ暇ない塾通い
沖縄と通う心を埋める基地

人

通学カバン化粧ポーチと手鏡と

地

通勤の蟻を吐き出すステーション

天

顔見せに来てくれる私の天使

軸

血が通う介護する人されるひと

宝塚市 太田としお
枚方市 寺川 弘一
三田市 多田 雅尚
橿原市 居谷真理子
藤山市 酒井 健二
和泉市 横山 捷也
三田市 村田 博
神戸市 細川 花門
出雲市 竹治ちかし
鳥取市 岸本 宏章
鳥取市 永原 昌鼓
大阪府 野田 栄呼
三田市 尾崎 一子
大阪市 柴本ばつは
藤井寺市 若松 雅枝
加西市 金川 宣子
河内長野市 藤塚 克三
奈良市 大久保眞澄
札幌市 小沢 淳
藤井寺市 太田扶美代

初歩教室

題一 單純

山口 光久

下の句の役割がいかに重要かは皆さん句会などで体験されたことでしょう。

句会で披露の時、上の句、中の句まで聞いて「自分の句だ、入選した」と思ったその瞬間、下の句が全く違っていた、と。つまり、下の句は一句全体を左右する重要な部分だと思われたでしょう。講評などで、「すわりが悪い」と止め方を言われます。

裏町を行く先生にみなお辞儀 南都

「裏街を行く先生に」。どうしたか? ということを、下の句が續めています。

親不孝した先生に教えられ 南都

親不孝をしている生徒が、体験者である先生に、実感を持って論されている事を、下の句で續めています。

下の句は、座五とも、結句ともいわれ、ひとつの感動を下の句で、がっちり受け止めているのです。

【添削】

原 骨接で單純な事出来ません

(四) 廣子

「骨接ぎ」? それとも「骨折」? 句意から骨折だと思いますが、そうだったら誤字になります。投句前に、確認をする癖を付けましょう。

添 骨折で單純作業すら出来ぬ

原 何事も單純にして失敗し

(山) 久子

添 單純作業だけど体が動かない

原 單純な服の仕上り賞められる

ミヨノ

「賞められる」は褒められるがよいでしょう。少し感情を入れてみましょう。

添 單純な服の縫製にも疲れ

原 單純な事も出来ない後高期

満寿恵

後高期は後期高齢者のことだと思えます。分り易く、単に高齢者でいいです。

添 單純な事も出来ない高齢者

原 單純な機械修理も楽にでき

敏昭

ああ、そうですか、と単に説明に終わってしまいます。川柳は虚と実です。実ばかりだと説明、報告になってしまいます。願望を含めて、心を詠みましょう。

添 單純な機械の修理儘ならず

原 單純に予報を信じ雪つくる

「雪つくる」よく分りません。

勝治

添 單純に予報信じていた不覚

澤

原 單純な仕事ばかりで何十年「何十年」が漠然として、ばやけてきます。はっきりと決まった年月などで表現しましょう。現実味を帯びてきます。

添 單純な仕事ばかりで定年日

原 方向音痴地図は單純でも着けぬ

(東) 美智子

添 單純な地図が読めずに狼狽える

原 日章旗たった一つの赤い丸

忠士

日章旗の説明に終わっています。

添 日章旗赤い丸には深い意味

原 單純に受けとり足元すくわれる

ゆかり

添 單純に受けて足元すくわれる

原 單純な弁当だけどホツとする

(山) 純子

添 單純な弁当だけど愛を盛る

原 携帯ゲーム單純過ぎてつまらない

清司

添 携帯ゲーム思ったよりも複雑で

原 頼り甲斐單純だけれどある夫

里子

句がボツンボツンと切れた感じがしてリズムが良くないです。頼り甲斐を強調しましょう。

添 單純な夫にあった頼り甲斐

原 單純な頭で悩み複雑に

勝正

添 單純な頭で悩み深刻に

原 昨年と同じ反省同じミス

ひろ介

添 昨年と同じ単純ミスばかり
原 鏡見て微笑みの皺数えてる

寧

原 褒められて目標目指し走り出す
添 褒められて気力漲り走り出す

きっこ

言い訳がいつも同じの朝帰り
シンプルに祝う元旦老夫婦

由美

添 正直な鏡だ皺をばつちりと

秋 星

【少しの工夫でよくなる句】

洋 子

ただ走るひたすら走るゴールまで
単純に世界平和を願つて

昭枝

添 一足す一二にはならないのも世間

亜 希子

原 子供向けバズルに苦戦強いられる

ひとし

原 目玉焼きでできてすつかりご満悦

英男

添 単純なことだ決断すだけ

福 貴子

原 単純なミスと手抜きが偽装する

和 之

簡単に武器持つ国となる怖さ
単純な思考回路でまわる舌

のり子

添 単純な計算なら指で済む

こ ずえ

添 単純なミスと手抜きを偽装する

温 子

原 泣いた子があめを見れば笑らしい顔

雪 菜

添 単純な事に精根傾ける

(高) 道 子

添 泣いた子に飴を見れば笑らしい顔

温 子

原 眼にとまり衝動買いがゴミになる

(山) 弘 子

添 単純な悩み殊更深く言う

紀 美恵

原 眼にとまり衝動買いがゴミになる

恵 子

【今月の推せん句】
単純なミス繰り返し老いを知る 川名 洋子

添 初恋は単純だった泡だった

安 子

誉められてハッスルしすぎ膝のアザ

忠 貞

若い氣でいても、単純なミスを繰り返して
いると、ふと自分の歳を考えるものです。

添 餅肌へ突如ブツブツ現れる

開 子

単細胞酒さえあれば上機嫌

(高) 敬 子

老眼鏡外して脳も一休み 畑中 節子

添 単純な発想だけが受けている

重 利

単純なデザイン光る日章旗

風 花

ボーっとしたいものです。脳の活性化にも
なることでしょう。

添 単純な男にあった処世術

律 子

口ポットは人の心が判らない

紀 雄

あれこれ考えないで楽に老い 斉藤 宏子

添 単純な調べに惑う認知症

洋 一

単純な答も相手見て応え

泰 宏

あくせくと働くより、のんびりしたい
老後、楽しみながら老いていくとは誰かが、
望むことでしょう。

添 単純に愚直に生きた卒寿前

ON OFFの単純ミスは恐ろしい

天 翔

【私の句】
単純な男にだってある悩み

川柳塔鑑賞

同人吟 水野 黒兎

— 2月号から

鉄砲は紙ゴム水で充分だ

森山盛桜

紙、ゴム、水で充分。本当の鉄砲は決して人に向けてはならぬ、同感です。しかし子供の頃を思い出せば杉鉄砲も捨て難いですね。細い竹の筒に紙を湿らせて固く丸めたものを込める紙鉄砲、紙の代りに杉の実を込めた杉鉄砲、いずれも撃つと小気味良い音を立て飛んだものです。

トライせず失敗もせず残る悔

柿花和夫

平穩無事をモットーに生きて来たが、ドカンと一発大きな花火を打ち上げてみるべきだったかもと少し自省。いえいえ既に十分大きな花を咲かせているではありませんか。

米を研ぎ今日は宇宙を考える

川本真理子

現実から宇宙へと発想が雄大に飛躍するのが見事。

私もテニス錦織のもテニス

板山まみ子

待った待ったを繰り返すへば将棋も将棋、ライトが守備位置で暇そうに欠伸をしている草野球も野球。羽生の将棋。長島、王のも野球。誰はばかることなく、大いに趣味を楽しみましょう。

三日月に跨り降りてこない猫

楽原道夫

この猫は月よりもっと高い星たちを眺めながら朔太郎の猫のように「おわあ、こんばんは」と話しかけているかもしれない。ご家族のイヤリングかブローチを眺めながらの発想の句か、ともあれメルヘンチック。

坂になると電動自転車ほしい

江島谷勝弘

日頃、車だと気付かないのに、自転車だと何と坂の多い町だと思ひ知るわが町。あえぎながら黙々と自転車を押す。

行かぬのに世界の天気聞く深夜

三宅満子

そうなんです、行きもしないのになぜか聞いてしまうバリやニューヨークの天気予報。ヨーロッパは寒そうだな、パンコクは超暑そうで大変だなと独り言をしている深夜。

雨の日と夜は運転しない主義

村上玄也

数年前から私もまったく同じ主義。夕方の名神で猛烈な雨に遭い、非常に怖い思いをして以来近所でも夜の運転は避けている。みなさまもどうぞご注意ください。

負けないと絶対取れぬ銀メダル

福田好文

川柳の先輩の唐住実氏に

甲子園終に負けない一チーム

という句があります。決勝で負けるという悔しいが貴重な経験、そんな試合の経験者にのみ与えられるのが銀メダル。

少し空気が抜けたボールは手になじむ

穂谷和郎

ボールを例えば職場での人間関係とか連れ添った共白髪の夫婦とかに置き換えてこの句を読むとるほどそうかと納得。

握る手を開くと風はもういない

辻内次根

確かに居たはずの風がいつの間にかもう居ない。ほくを残して何処へ行ってしまったのか。あれほど大切に慈しんだ愛らしい風よ、もう一度ほくの手の中に戻ってきてくれないか。愛する者の不意になくなった孤独感。

老境へ行く毎日が初体験

牧野芳光

老境と言わず人生いつの時もすべてのことが初体験である。作者は老境に至る過程が殊にそんな感じを与えると述懐されているのであろう。老境を初々しくまた元氣よく過ごす好奇心の持主の句。

教えられても力ニやサソリに見えぬ星

片山かずお

同感。何度説明を聞いても、神話を讀んでも星座の名前に納得できた記憶がなく、単なる妄想の所産と思う無粋な私。

留守居での初日は卵かけごはん

江見清

熱々のご飯に卵をぶつけて好みの量の醬油を垂らす。掻き回してハイ出来上がり。なんとも手軽でしかもうまい。

了解と二文字だけの子のメール

堀正和

暖かった冬もついに本格的な寒さを迎えた。この季節の急変に子供は寝具や衣服を十分に対応させているだろうか。などと親は遠くの北の地に赴任している子に長々と手紙かメールを打つ。なかなか返事も来ない。やっとメールがきたと喜んだらなんと「了解」の二文字だけ。

キラキラネームその後の事は考えず

金子美千代

生涯この子たちは自分の名前にルビを振り続けることになるかもしれない。何度も読み方を先生や友達に教えなければならぬことになりはせぬか他人事だが心配。

体調も伝える手書き年賀状

古手川光

例年より細くなった字、丸くなった字、かすれた字、震えた字、それぞれが書いてくれた人の現在の心境や体調を伝えてくれる。

勝利には無心勝ち切るには執心

古今堂蕉子

蕉風先生の句を思わせる対句（対になる言葉の幹旋）の妙を見せる句。

戦前が聞えるビクターのラッパ

松山芳生

大きなラッパと脇に座って聴いている犬の蓄音機。戦前が聞こえるとは絶妙な表現。李香蘭ですか、東海林太郎ですか。昔恋しい銀座の柳の東京行進曲ですか。沙漠に日が落ちてのアラビアの唄ですか。犬も聴いてるビクターレコード。

五郎丸まねて拝んだ初詣で

菊地政勝

大女優原節子と逝つた昭和

米澤俣子

五郎丸のおかげ旧友集い合い

榎本舞夢

原節子悼み昔の恋痛む

山根妙子

ラグビーはわからないけど五郎丸

山本加お里

サヨウナラ節子にゲゲゲ北の湖

海老池洋

五郎丸ボースで寄付の金募る

加藤茶人

五郎丸の今後の一層の活躍を祈り、昭和の大女優原節子の冥福を祈るみなさまの気持ちに詠んだ数句を紹介しました。

水煙抄鑑賞

— 2月号から

緒方 美津子

脇役も気楽でないとかスミ草

横山 里子

主役を殺さぬよう、引き立てるように気をつかう脇役、目立たず、大切な役柄です。赤いバラでなく、カスミ草にスポット。川柳の目でしょうか。

癒やされた義理で出向いた美術館

倉橋 悦子

相手を傷つけず、行つてよかつた美術館。一石二鳥でした。句も生まれました。帰りはルンルンだった事でしよう。

歳忘れ健脚畑に夢を掘る

福岡 左余

こうありたいものです。余生の理想でも。健康を下敷きにして。元気で畑仕事の出来る幸せに感謝です。青空のもと農作業しながら、夢を掘る。堅実で前向きな姿勢を頂きました。

天気予報昭和の下駄はよく当る

吉川 ひとし

テレビの天気予報から思ひおこされたのでしょうか。現在の進歩著しい予報技術に、なつかしい昔の遊びを思ひ出されたのでしょうか。下駄を飛ばして、片足でケンケン。あまりの違いから、面白い一句になりました。

曖昧な言葉になぜかほつとする

神野 千恵子

私もストレスに弱いので、曖昧さに救われています。一呼吸おけますものね。この国の人柄でしょうか、言の葉の柔らかさでしようか。否、思いやりと、とりましよう。

貧乏を世襲したのか兎小屋

藤田 千休

家族いて、笑い声があれば、楽しい兎小屋。年齢と共に、草とりや掃除など、体力が要ります。裏を返せば、兎小屋バンザイ。作句にも心地よい兎小屋に。

東京で花御所柿のPR

近藤 秋星

アンテナショップでしょうか。特産品の柿が光っていたら、嬉しいですね。

斜めから見れば容易に解ける謎

鴨田 昭紀

なるほど、正面からの一本槍でなく、斜めから見ると、光線もきれいに差し込みます。見えないところが見えます。

謎がバツと解けました。嬉しい一瞬が、一句になりました。

説明がなければ庭のただの石

長島 亜希子

目のつけどころに脱帽。

ころがつている石、説明を聞くと、歴史的な石であったり、海底にあったそれであったりと、物言わぬ石が輝き、自己主張します。

賽銭に反比例する願ひ事

児玉 規雄

うふふみんなそうですね。でも神さまは太っ腹。賽銭の額より、自分の足でお参り下さいと、言っておられます。十円玉で家族の安全を願います。

締切が迫ると頭痛ひどくなる

花岡 順子

締切りへ溜め息一つまたひとつ

川島 良子

代弁者として頂きました。

民族の詩歌 (45)

『仰臥漫録』と『乳房喪失』

三好 專平

病に侵されながら、屈することなく詩歌に生きた人は多い。

正岡子規は、明治三十五年（1902）三十四歳、肺結核のため亡くなるが、『病床六尺』と『仰臥漫録』を残している。死の五日前の『六尺』の日記より、その文章のすごさに驚嘆する。

「足あり、仁王の足のごとし。足あり、他人の足のごとし。足あり、盤石のごとし。僅かに指頭を以てこの脚頭に触るれば、天地振動、草木号泣す。」

同じ時に残された『仰臥漫録』の「麻痺劑服用日記より」一文。

・盆栽ノ写真、岐阜三浦某ヨリ。写真数枚

古竹より。光琳百図虚子ヨリ。

・梅影ヨリ澱粉三種（甘藷、里芋、馬鈴薯）ヲ贈リ来ル。」

スケッチが添えられ、俳句散見。



黒キマデ紫深キ葡萄カナ
疾一斗糸瓜ノ水モ間ニ合ハズ

この頃の看病に、左千夫、碧梧桐、秀真、虚子、鼠骨、義郎らが交代であたる。子規の詩いた俳句の種は、多くの文人に引き継がれて、現代日本の代表的文学となった。

死に近きわれに不変の愛誓ふ鎮魂歌は
はやくもひびけり

ふみ子

歌集『乳房喪失』は、中城ふみ子唯一の歌集で、最後の一首。（昭和29・30歳）川端康成はその序文で、「瞬間瞬間の己をとらへて掌の上に載せてみるやうな詩」

と評している。

偏愛せしわれのうへの子つけつけと
母の女性をないがしろにす

帯広に生まれ、二十歳で結婚、一男三女をもうける。わが子七歳。

灼けつくす口づけさへも目をあけて
うけたる我をかなしみ給へ

愛された夫とも離別、癌に侵されたことを知り、故郷の帯広に帰る。

救ひなき裸木と雪の景果てし地点より
われは歩みゆくべし

一口で言えば、愛と死を鮮烈に詠った自己告発の歌である、といわれる。捨て身のエゴイズム。とりわけ魅力に富むのは愛の歌である。

音たかく夜空に花火打ち開きわれは
隈なく奪はれてゐる

馬場あき子は、「女流の歌詠みの中に空氣のように入り込んだ歌人」と言った（『短歌』昭和59）。彼女から多くの関秀作家が育っていく。



追悼

山崎君子さんを悼む

奥田 みつ子

何年か前、花好きの君子さんに365日全部違う花を当てた珍しいカレンダーをお贈りしたことがあり、今度もよかつたら注文するつもりで電話をさし上げましたら、お嬢さんの裕美さんが「母は昏睡状態になりました」との思いがけないお返事にびっくりして、すぐ病院にかけつけました。十日程前にも伺っていたのですが。

十二月十八日のことです。

別に苦しそうな御様子でもなく、ただ昏々と眠り続けておられるのです。翌十九日は教室がありますので、午前の教室を終えて電話しましたら、お亡くなりになったとのお返事、言葉ありません。

一日おいて二十二日(月)に牧師さんのご出席を仰いで、讃美歌に始まる心のもったお葬式が行われました。出席者は事務部長の裕美さん初め、湯川病院理

事長、十年近くつき添ってお世話くださったヘルパーさんの納谷さん、西山さん、君子さんのご希望で、川柳会からは私人が参加させて頂き、その他御近所の信者さん十人ほどいらしただけでした。

祭壇のまん中辺りにピンク地のきれいな布に覆われたお棺が印象的でした。

お棺の両側から窓まで胡蝶蘭をメインに、白とピンクの花々で埋められていました。ずっと前にお見舞いも大人ばかりではというお考えで、秋元てるさんが幼稚園と小学校低学年の曾孫さんを連れてお見舞いして、君子さんがとても喜ばれたお話や、春城年代さんが君子さんをローズ川柳会に誘っておられるお話も耳に入っているのです、私一人お葬式に参列するのが心苦しかったのですが、こうして教会以外でピンクのお棺に讃美歌を歌っていると、君子さんが「みつ子さん、気

にしないで」とおしゃっているようで、素直に歌うことが出来ました。

いつか君子さんから伺ったのですが、君子さんは台湾でお生まれになり、ふるさと台湾へ帰りたいとおしゃっていました。終戦の時はシンガポールから日本へ帰っていらしたとのこと。

地図を見てああ台湾へ帰りたい
今日もまた皆のやさしさ嬉しくて
きず痛む家族みんなの優しさよ
帰ろかね里のみんなに逢いたいね
テレビ止め花を見ているひとときよ
部屋中に花に囲まれ幸せを

一九八六年(大同)

一九八八年(西安)

一九九一年(台湾)

三回ほど川柳塔社主催で希望者を募り中国旅行をしました。君子さん、秋元てるさん、春城年代さん、奥田みつ子の四人とも参加させて頂いたのも、何かの御縁でしょうか。

心から山崎君子さんのご冥福を

お祈り申し上げます。

(享年92歳)



ああ 天なるかな

西内朋月大兄に捧ぐ

澤井敏治

食って寝て飲んでるうちに深海魚
嬌声の輪からはずれて飲んでいる
底冷えに醵酒飲めるありがたさ
長生きの遺伝子もらい不摂生

平成十六年の川柳塔合同句集の自選句である。唄が好きなのではないのにカラオケの席の隅に座って、ちびりちびりとやっておられる。その姿を眼に焼きつけている人は多い。

追悼文を担当することになったと相談すると、多くの方がエピソードを聞かせてくださった。中でも、三国ヶ丘高校の同級・中野健吾さんは、「高校時代は浜寺水練学校の先生をするスポーツマンだった。定年後、川柳を始めた頃は、俺が先生やったんやけどなあ。それがあつと言う間に上達しよつた」と回顧される。

「平成二十年度の「路郎賞」を受賞に際してのことも印象深い。授与式で授与される河内天笑主幹が「雅号を命名した弟

子の成長に涙がとまらなかつた」と言われるし、朋月さんは感激のあまりマイクを通じて「青天霹靂」と感動を迷べられたのは忘れられない」と。

◇本名 西内朋一 ◇誕生：昭和八年十一月六日 ◇堺市出身 ◇神戸外国語大学中国語学科卒 ◇逝去：平成二十七年十一月二十二日 ◇享年八十三

柳暦／

平成十一年 堺川柳会・エイシス堺・および産経学園に入会

平成十三年 川柳塔同人

平成十四年 川柳塔理事

平成十六年 川柳塔常任理事

平成二十年 路郎賞受賞

胃袋がないのに腹が空いてくる

他人から見れば気楽なひとりもの
折るよりほかに手がないから折り
覚めた目で見ている僕が別にいる

いらんこと喋って悔いがまた増える
また、川柳塔さかいにおいては、十年余に亘り監査役に就かれ、最期まで会の発展、新人の育成指導に貢献された。

堺川柳会入会当時を知る榎本日の出さんは、「入会されたときすでに奥様を亡くしておられたし、胃の手術もなさつていた。それにも拘わらず、煙草も酒も止められなかつた」と。

よめはんが死にましてんと軽く言い
五回目の命日独り暮らし馴れ
飲まない辛い話は切り出せず

気兼ねして気兼ねしてでも吸っている
最後まで奥様を胸に抱き、川柳と酒と煙草を愛された大兄の生き様に触れ、追悼といたします。

晩酌のとき役でない独り者

独り身に慣れてしまつた二十年

墓石を磨いて妻と逢つてい

一合の酒でリッチな気分する

缶ビールいのちの弾む音がする

しがらみを切る包丁を買いに行く

肚の虫おさえるための椅子を蹴り

狼と友達になる夜の月

過去未来一緒に茹でているバスタ
百歳を目指して竹を踏んでいる



(投句228名)

春を思わせる陽気が続いたかと思えばいきなりの寒波、大雪に見舞われたりして大変です。

あまりの気候の変動に、身体がなかなか付いて行ってくれません。

そのような中でも「ナビ」は健在、皆様方の発想の素晴らしさは沸騰中。

どの句も十七文字という型に収まっているのが不思議なほど躍動しています。

さあ、今回もどうぞ！

大阪市 内田志津子

雨上がり虹の扉にある宇宙
(評)美しく、また夢いっぱいの世界が目の前に広がります。自然の大きさに負けない感性の拡がりに感銘しました。

東京都 川本真理子
生きていくつもりが生かされていたか

(評)こんなふうに思えるのは、ある程

度人生のベテランになってから。気付いてからの日々の何とないおしいこと。

探しても桃源郷が見当らぬ
三原市 鴨田 昭紀

(評)青い鳥を捜し求めたところ結局それは足元に居た、そんなお話を彷彿させられますね。

なるようになるさ一人の観覧車
青森県 松山 芳生

(評)観覧車に一人つきり、というよりは、自分の意思ひとつで事物を動かすんだと聞き直った清々しさかも。

今日中に明日の電力作らねば
八尾市 新海 信二

(評)明日の仕事や生活に必要な電力を自家発電しなければならぬとしたら、やはり寝ている間などアリマセン。

受けて立つ女に油断などは無い
和歌山市 楠見 章子

(評)何に対して(受けて立つ)にしても、女が一度決意すればそれはそれは手強いものです。

セッセセ退職してもセッセッセ
米子市 生田 和之

(評)ちよつとばかり切なさも漂います。職場でもセッセッセ、家庭でもセッセッセ、表記の違いも気になりました。

リニアならとづくに着いている頃だ
弘前市 稲見 則彦

(評)コマネズミのように必死で足で漕

いでも、あのリニアには悲しいかな適うはずもございません。

休むのは店たたむ日と決めてある
大阪市 坂 裕之

(評)年中無休、そんな商売一筋の様子が見て取れます。仕事に対する自信と愛着は他の追隨を許さないことでしょう。

食べるほど飢餓に追いつけられている
大阪市 平井美智子

(評)現代人の哀れな一面を見せつけられる思いです。いくら満たされても欲望は果てし無く広がるのですから。

今ここで止めたなら夢が壊れそう
和歌山市 土屋起世子

足裏に春を感じて種を蒔く
和泉市 横山 捷也

前四両だけが関空行きでつせ
堺市 大隅 克博

人生の忘れ物有り恋しう
河内長野市 穂口 正子

逢いたくてタイムマシンに乗ってみる
佐賀市 真島久美子

やりくりの手腕で回る台所
大阪市 若本 安代

総活躍外して欲しい高齢者
三田市 堀 正和

ガラボンで私の運を試そうか
倉吉市 山中 康子

ダイエツトあともう五分頑張るか
鳥取市 永原 昌鼓

沈みゆく夕日追いかけて鬼やんま
大阪府 畑中 節子

働いて眠る私の小宇宙
吹田市 山本希久子

丑三つ時までには帰宅するつもり
堺市 澤井 敏治

医者通い一回りして小半日
豊中市 藤井 則彦

輪廻転生生きているのも楽しいやない
松山市 栗田 忠士

案の定走り続ける父の貨車
大阪市 津守 柳伸

真夜中のレッスン明日の勝を取る
茨木市 藤井 正雄

あの世までひたすら走るモルモット
大阪市 江島谷勝弘

きな臭い時勢方舟造ろうか
箕面市 広島 巴子

永遠に男心がわからない
大阪市 石橋 直子

かあさんにあげたかったな日曜日
弘前市 高瀬 霜石

冬の夜は同じ話をくりかえす
鳥取県 斉尾くにこ

名案を思いつくのはいつの事
神戸市 松井 文香

原発の代りに回す発電機
三田市 北野 哲男

がんばりや妻母仕事持つ誇り
大阪市 笠嶋 惠美

ロボットに負けないぼくの時刻表
寝屋川市 森 茜

好奇心まだ健在の傘寿駈け
富田林市 古田 千華

晩酌のためにせつせと仕事する
笠岡市 藤井 智史

マラソンの孤独タイムとの戦い
貝塚市 石田ひろ子

元彼に今彼見られ汗でるわ
鳥取市 山下 凱柳

自分史のところでどこに石を置く
藤井寺市 鴨谷瑠美子

まわれまわれ世界に平和伝えたい
高槻市 島田千鶴子

観覧車二人はきつとキスをする
大阪市 田中ゆみ子

誰かしら地球を遠く回すのは
橋本市 石田 隆彦

トンネルの定期点検手抜きなく
東大阪市 佐々木満作

三叉路で迷う私がもう一人
和歌山市 上田 紀子

この歳でまだ走らせるおつもりか
奈良市 大久保真澄

発想を変えねば前に進めない
香芝市 大内 朝子

温暖化僕の畑も豊作だ
鳥取市 竹信 照彦

北野坂ジャズを歌うかエトランゼ
姫路市 古川 奮水

時効まで逃げようなんて浅ましい
三田市 尾崎 一子

はいはいと乗ってしまったばつかりに
篠山市 酒井 真由

思い出と遊ぶ時間をしばし止め
箕面市 出口セツ子

川柳の奥極めても極めても
三田市 上垣キヨミ

コンビニの深夜営業田舎でも
可見市 板山まみ子

滑稽だねキミ地球は丸いんだ
八尾市 高杉 千歩

山菜を採りに行く夢見ちゃったよ
大阪市 平嶋美智子

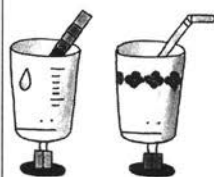
A型が無駄を承知で回りだす
大洲市 花岡 順子

いい汗を掻いて嬉しい友に逢い
吹田市 木下 敏子

婆さんやノルマ下げてはもらえぬか
岡山県 永見 心咲

一人相撲しているような気がするな
河内長野市 大島ともこ

5月号発表 (3月15日締切)



(平本 勝彦 画)

柳箴に2句



幸福ほど長寿

過日、M新聞を手にしていましたら、元大学院教授の白澤卓二さんが執筆されている「100歳への道」というコラムが目にとまりました。副題が「幸福ほど長寿」となっていましたので引き込まれてじっくり読みました。

その内容は、「幸せ」と感じる度合いが多い人ほど長生きであるということ。そのようなことは改めて言われるまでもなく「世間を呪い自分を不幸だと思っている人」よりも「いつも朗らかで愉快に過ごしている人」のほうが健康的で長生きであろうことぐらゐ容易に推定できます。

しかし、白澤氏によると、アバウトな推定ではなく、学術的に証明されつつあるとのこと。すなわち、幸福の度合いが高いほど「右脳の前頭葉にある神経細胞が集まる部分」の体積が大きいことが発見されたとのこと。これは京都大学の佐藤弥博士の研究グループがMRIによって脳の部位別体積を計測して明らかにしたとのこと。

それを読んで自分のことを振り返りました。冷えた身体を風呂で温めているときなど「うーいい気持ち」と感じます。好物を食べたときは「うまいな」と思います。空っぽの腹に酒を流し込んだときも「うー沁みるな」と唸りますが、特別に「しあわせ」とは思っていないかったです。しかし、この「いい気持ち」「うまい」「沁みる」イコール「しあわせ」であることは間違いありません。これからは、「うまいな」「しあわせだな」と思うようにします。

先ほどの「お風呂」や「食事」は身体が感じる幸福感ですが、「こころ」が感じるのとはどのようなものでしょうか。映画の好きな人は名画に浸っているときに「至福のひとつ」でしょう。旅行や演奏会や美術館巡り、友人とのおしゃべりや茶の間の団らん等々すべて「しあわせ」なひとときです。

そして、優れた川柳に出会ったときの「ああ、やっぱり川柳っていいなあ」という感動もまた幸せな一瞬に違いありません。大会などで表彰されるのも嬉しいことでしょうが、作品から得た喜びは深く長くこころに残るものです。

川柳に取り組んでいるということは、そのような「幸せを感じる機会」に恵まれているということ。それを思えば、発表誌や句集などもっと丁寧に読まなければ、と反省です。

このように楽しく身体のためにも良い「川柳」を詠った句については、本欄No.24「川柳を詠った川柳」でたくさんご紹介していますが、次の10句はその続きです。

予想だにしない句想に目を見張る
友の句を味わいヤル気湧いてくる

川柳で磨き倒せば脳に艶

本社会八十代が皆元氣

全没も彼女に会えていい句会

寒くても今日は句会で明日は医者

診察を待つて二十句できました

川柳に織りなす模様わが叫び

川柳に神さんがいて放さない

もしおしめすればおしめの詩を詠む

丹後屋 肇

岩崎 和子

梶原 弘光

富山ルイ子

藤原 泰宏

尾崎 一子

肥山 一文

富田 美義

穂口 正子

生田 和之

第40回 全日本川柳2016年愛媛大会

日時 平成28年6月26日(日) 午前9時30分開場
会場 愛媛県民文化会館サブホール
〒790-0843 松山市道後町2-15-1

交通機関

JR松山駅から南町・県民文化会館前駅まで市内電車15分

主催 一般社団法人 全日本川柳協会

文化庁・愛媛県・愛媛県教育委員会・松山市

後援 松山市教育委員会

宿題 第一部 4月15日締切(当日消印有効)

事前投句 一般(高校生も含む)部門

「野球」竹田 光柳選 「船」仁多見千絵選

「電車」小堀 忠雄選 「遠い」青砥たかこ選

事前投句 ジュニア(小・中学生)部門

「タオル」山本 毅選 「電車」及川竜太郎選

「自由に作る」山倉 洋子選

専用用紙のない方は2×16cmの句箋紙一枚に一句を記入、各題

二句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。

投句料 一、〇〇〇円(定額小為替・現金書留を同封して左記宛に

郵送または郵便振替口座へ送金のこと(当日消印有効)。

小中高生は投句料無料。

投句先 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会 宛

TEL 06(6352)2210 FAX 06(6352)2433

郵便振替口座 009701913575

宿題 第二部(当日投句・11時10分締切)

「迎える」三宅 保州選 「笑」顔 佐藤 孔亮選

「マドンナ」古谷龍太郎選

各題二句、当日配布の句箋に記入。

第二次選者 大野 風柳 久保田半蔵門 平田 朝子

参加費他 四、〇〇〇円(参加費二、〇〇〇円・昼食他二、〇〇〇円)

表 影 (1)文部科学大臣賞 (2)参議院議長賞 (3)川柳大賞

(4)大会賞 (5)ジュニア部門は賞状とメダル

全日本川柳愛媛大会実行委員長 田 辺 進 水

〈表彰式典・前夜祭ご案内〉

◎表彰式典Ⅱ平成28年6月25日(土)午後5時30分

(川柳文字賞・功労者・大会連続参加者・平成柳多留入賞者)

◎前夜祭Ⅱ表彰式典後、同一会場

会場 大和屋本店

JR松山駅からタクシー15分市内電車道後温泉駅から徒歩10分

〒790-0842 松山市道後湯之町20-18

TEL 089(9335) 8880

参加費 八、〇〇〇円(会食・アトラクション)

大会・前夜祭の問い合わせ先

〒791-8084 松山市石風呂町54

田辺 進水方

全日本川柳愛媛大会実行委員会事務局 宛

TEL FAX 089(9553) 3314

4月15日(必着)

郵便振替口座番号 0164016169267

全日本川柳愛媛大会実行委員会 宛

〈宿泊・観光ご案内〉

宿泊(一泊朝食付き、お一人様)

大和屋本店・ホテルパティオ・ドウゴ・松山全日空ホテル別館

ホテルJALシティ松山・松山東急ホテル・国際ホテル松山・東京第ホテル松山

税込み 7,800円・517,800円

観光 A「しまなみ海道一日コース」

6月27日(月) 午前8時〜午後5時30分

参加費 15,900円(最少催行人員20名様)

B「お遍路体験半日コース」

6月25日(土) 午後1時〜午後5時20分

参加費 7,200円(最少催行人員20名様)

C「松山城と子規記念博物館半日コース」

6月25日(土) 午後1時〜午後4時30分

参加費 5,800円(最少催行人員20名様)

※ 集合場所はA、B、Cとも「県民文化会館」

宿泊 観光の申し込み、問い合わせ先

(株)フジトラベルサービスEC団体旅行松山営業部

担当Ⅱ大政・佐々木

TEL 089(947) 8780

本社二月句会

◇二月四日(木)午後一時
アウイーナ大坂

立春とはいえ底冷えのする四日、二月句会
は百二十九名(投句七名)の参加で開催。初
参加は川西市の、大坪一徳氏。

句会に先立ち、十二月に亡くなられた同人
初山隆盛氏に黙祷を捧げた。

今月のお話は、西出楓葉相談役「江戸川柳
で中国の故事を詠む『王昭君』」王昭君は楊
貴妃や西施らと並んで古代中国の四大美人に
数えられている。

三千の似面を書くも金次第

元帝には三千人の側室がいたらしい(紀元前
の事でよくわからない・楓葉談)ので絵師
に似顔絵を描かせたが、この絵師(毛延寿)
金次第で美人に描いたり醜く描いたり・・・

あわれむべし昭君憎むべし絵かき

江戸時代の柳人は教養として、いろんな事を
知っていたらしい。(まっお)

月間賞は、木本朱夏さん(和歌山市)

(司会)蕉子・真理子(協取)五月・寿之

(受付)唯教・孝代(清記)内藤憲彦

席題「炒める」

大内 朝子 選

鬼は外炒めた豆が真つ黒け
ビラフならわつと飛びつく三世代
炒めずに済む焼きそばを食べてます
炒めものみんな駄目だと言うカルテ
炒め直しがいらはできるやろあんだ
炒めものしている時に鳴るチャイム
オツマミは夫が作る炒めもの
もうあかん何度も炒め直したが
父ちゃんは上手に振るぞフライパン
文句言うおとこ炒めてやりましょう
北の国炒めるヤツはおらんのか
食えない議員煮ても焼いても炒めても
残り物刻み炒めた男飯
得意料理野菜炒めと言うた妻
あつさりの愛を炒めて戻す愛
炒めても何も残らぬ古希半ば
脂ぎった妻を強火で炒めてる
涙の出ないよう強火で炒めとく
オリブ油で炒めりやバスも乙な味
大ざっぱに炒めて人気父の鍋
レバニラの始末に困る炒め過ぎ
やきもちも焼いて炒めて焦げついて
血糖値避けて通った炒め物
単身赴任野菜炒めがうまくなる
チャールズは記憶の底の母の味

郁夫 光久 哲男 好宏 能子 耕治 大輪 ばっは 月子 勝弘 和夫 克三 蕉子 寿之 紀雄 進 千代美 克己 たもつ まっお 満知子 唯教 孝代 志津子

炒めたら余計美味しくなった人
さすがベテラン炒めただけで一皿に
生臭い男炒めてみたくなる
妻の留守もやし炒めてダイエツト
それらしく炒めて母さんの手抜き
この辺で炒めなおすか夫婦仲
全没のウツを炒めるフライパン
まかしときフライパンとは深い仲
玉ねぎの炒められてる疲労感
ラブレター炒めて心あたためる
炒め物めつつきり減った子の巣立ち
逆らうから胡椒を少し利かせとく
佳
廃棄品炒めて食ったかも知れぬ
モヤシばかり炒める月末の財布
強火にて炒めイライラまで沈下
炒めるも焼くも覚悟は出来ている
いら立ちの勢い借りて愚痴炒め
人
妻と一緒に炒めてほしい時がある
地
ウツと鬱炒めて鍋はまっ黒け
天
お隣から臭うにんにく通夜の席
軸
ふにやふにやに炒め過ぎてはいけません
則彦 正彦 富美子 万紗子 堅坊 理恵 恭子 蕉子 誠一 葉子 一步 朱夏 ふりこ 寿子 富子 則彦 廣子 哲子

兼題「端」 島田 誠一 選

西の端に明日またねと陽が沈む
全体を見たくて端っこに座る
地方版の端で光つていたニュース
端々に本音が見える薄笑い
目の端に勝手に入ってきたあなた
末端は社長を知らぬ大会社
不発弾言葉の端を尖らせる
遺産分け見知らぬ方が端にいる
安全を端に乗せたかスキーパス
今日もまた聞いた端から忘れ去る
端くれというわたくしの安住地
カタカナ語聞いた端からすぐ忘れ
間違ひのとは半端な知った振り
人間の幅は言葉の端に出る
先端と聞けば手を出す浪費癖
切り捨てて積もる端数がふさぐ道
まん中に座って端が気にかかる
論される言葉の端に愛がある
端役のじゃが芋主役をおびやかす
初っ端はやっぱりビール乾杯だ
居酒屋の常連さんは奥の端
端っこから指示が飛び出す謝罪劇
うたた寝の中途半端にある至福
端に居て母は家族に眼が届く
端っこが好きで出世に遠く居る

雅明 保州 朱夏 裕之 千代美 玄也 廣子 武臣 篤 紀乃 大輪 好洋 たもつ 敏治 久仁雄 ダン吉 唯教 恭弘 勝弘 正雄 憲彦 好子 保州

端端に暗示を伏せて置く袱紗
端的に言ってしまうば済んだのに

耳底の中途半端な言葉尻
だんだんと道路端へと立ち話
端の席中座をしたい顔ばかり
亡父の日記余白の端にありがとう
末席の端の寡黙が仕掛人
エプロンの端に乾かぬシミのあと
端っここの好きな女の寂しがり
巻き鮎の端を狙っているお箸
端っこが折られ履歴書返される
悲しみの切れ端涙の粒になる

佳

窮すれば端の一手を突いておく
糸口を見つけてとけるわだかまり
重箱の隅は問わない肝っ魂
先端のとがり具合で決まる錐
しがらみがスカートの端ふんづける

人

端と端結んで丸くなる絆

地

唇の端ちよつと歪めたのが返事

天

端ない遠い言葉になりました

軸

雑学の端くれ余生光らせる

比呂志 裕之 宣子 宏造 富美子 克三 正雄 理恵 あや子 耕治 真理子 進

兼題「あほらしい」 江見 見清 選

お膳立てしたのはワタシなのに何故
若作りしてもやっぱりおばあさん
おのけ話あそこかいナそうかいナ
延命は拒否病院が稼ぐだけ
夫婦喧嘩止めて牙先向けられる
幸せにする言うた夕にたひねつたる
敏取りクリーム朝に夕にと三年目
お出かけとお帰りチュウをしろと言う
甲子園ボックス席を買えと言う
あほらしいと思えば出来ぬ人の世話
プロポーズ妻のほうからだと思ふ
あほらしいほど生き抜いて風になる
あほやなほ大阪弁のほめことば
人はそれぞれあほらしいけど考える
その上に戒名代も要ると言う
腹へっているのにポチの飯が先
法の目の粗さ謝罪でけりがつき
私の前で終わった整理券
済んだこと弁解はもう止めようね
海月みたいな男と浮遊しています
カニかまぼこで完つて見せない蟹の顔
あほらしいオチに拍手がこそばゆい
嘘かいなほんまや思て聞いたのに
台本の読み合せですか国会
もう止めよう通帳眺め悩むのは

柳子 葉子 廣子 直樹 久美子 蕉子 紀乃 六子 忠昭 寿之 万紗子 直樹 黒兎 みつ子 耕治 六子 狸月 郁夫 葉子 理恵 靖鬼 昌代 蕉子 誠一 哲子

夫の下着黙って洗うあほらしさ 瑠美子

気が付けばドラマに似せたコマーション(安)和 夫

カップ麺置いて愛してますとメモ 五月

参考までに億ションの値を聴いている 靖鬼

ナンバまで歩いてただけというデート かずお

お笑いどうし楽しんでるテレビ たもつ

楽しみに残せば賞味期限切れ 希久子

愚痴聞いて音沙汰なしのあほらしさ(山)妙 子

銀行に金利払わなあかんやて 弘光

あほらしと誰もはやかぬ蟻の列 富子

腕組んで夫と歩く御堂筋(中) 妙

探し物でいちにち暮れた日の動悸 佳

あほらしい悔しい戦死したわが子 宏子

神妙な顔して食べる恵方巻 英夫

お風呂は一緒おてつないで寝ています としお

大好きな酒を並べて寝てしまい 月子

騙されてそやけどやっぱ好きやねん 廣子

人 お月謝が一緒やなんて小の月 淳司

地 所により晴れまたくもり雨でしよう と一な

天 福山さんと間違えられて困ってる としお

軸 弱いのにトラのファンですずっとです

兼題「攻める」 鴨谷瑠美子 選

守っても攻めても妻にかなわない 英旺

攻撃を妻に任せて守備に生き 雅明

攻めを負い辞職甘利氏オマエモカ 賢子

私は本気ですのと言う女 保州

攻められて眠ったふりに死んだふり ゆみ子

攻められて負けるが勝ちもしてみせる(中) 妙

敵もさる者わが弱点を攻めてくる いさお

つめ寄られ大の男のだらしなさ たもつ

溜息で妻は上手に攻めてくる 扶美代

攻め込んで気付けば一人囲まれる 志津子

攻めている間に梯子外される 英夫

攻められているのに腹が減ってきた まつお

根回しをせずに攻めたら負けました 勝弘

チョコレートだれも攻勢かけて来ぬ 一歩

にこにこ笑って済ます攻めもある 一歩

攻めてばかりいるから脇が甘くなる 則彦

核兵器で誰を攻める気なんだろう ダン吉

琴奨菊正攻法を貰いて ひろし

ガブリ寄る攻める気合がチャンス呼ぶ 憲彦

脳の中霧がとんとん攻めてくる ひろ子

圭よりも強いスマッシュ妻が打つ 武彦

バラ贈りシヤネルを贈り ものにする としお

虫すかん男をちよつと攻めてやろ 月子

口げんか僕にも欲しい妻の口 かずお

妻のジャブお陰で打たれ強くなり 淳司

守るのは苦手や攻めて攻めまくる いさお

真夜中の羊千匹攻めてくる 朱夏

猫撫で声で攻めてはみたが妻は無視(中) 妙

攻めるのは苦手私流でよし 楓楽

のんびりしてると老いが攻めてくる 信子

中学生みたいにチョコレート渡す 篤

議員より上手に攻める週刊誌 良子

ちよつと攻めて夫の心覗き見る 理恵

にこにこ核心突いてくる 怖い 英夫

攻められる前に用意の上にぎり 敏治

加齢とや朝昼晩と攻めてくる 黒兎

猫だましこれも相撲の攻める技 佳

羊かんの底の論吉が攻める闇 誠一

攻めていくタイプで血圧やや高め 真理子

攻めて攻めて僕の彼女を振り向かす 舞夢

攻めるのは私で守るのもワタシ 富美子

攻めたつてだめいい男いるらしい 月子

人 攻めるより守ってあげる方が好き 能子

地 につこりと笑顔で攻めてくる不気味 理恵

天 泣きながら攻める泣きながら守る 蘭幸

軸 攻めてくる悲しみ心泣きくじけ

兼題「セツト」 川上 大輪 選

セツトした髪へどしや降り憎い雨
 セツトした目覚まし鳴らずまたふて寝
 ゲームセツト今日は私の定年日
 ゲームセツトよっしゃ明日へと舵を取る
 髪セツトあとは仮面をつけるだけ
 飲み会のセッティングなら任しとき
 使い方判らぬものもあるセツト
 セツト価格ですか并要りません
 自分史にリセツトしたいことばかり
 サンセツト今日一日をありがとう
 今日も無事終えて静かなサンセツト
 定年後セツトで動く父と母
 離婚した夫婦茶碗はもう不要
 成功と努力セツトと信じてる
 お彼岸は墓とセツトで廻る鯨
 セツトしたはずなのにまだ米のまま
 鮎と鯉セツトになって出る効果
 セツトして商品にする夜の顔
 パソコンのセツトアップに小半日
 風呂上り飲む塗るがマイセツト
 セツト未だボーカルフォイス崩さない
 サービスのほろ酔いセツトからハシゴ
 五十年 番で生きられた至福
 阿吽のセツトで威嚇して無言
 セツトよりカトラの方が安く付く

朝子 大子 正雄 宣子 楓 見清 靖鬼 雅明 満作 大子 利子 明子 恵 キヨミ 満知子 光久 狸月 弘光 五月 柳弘 篤 比呂志 久美子

兼題「上等」 小島 蘭幸 選

百科事典セツトは書架の飾り用
 セツトメニュー好きと嫌いが盛つてある
 日の丸の裏にセツトの星条旗
 財産と墓をセツトで子に継がす
 コーヒーセツトお皿ばかりが残つて
 ゲームセツト言わせるもんかまだ傘寿
 時どきはリセツトしたい僕の脳
 木枯しにお一人様の鍋セツト
 足まかせ絵筆セツトが旅の友
 遠出する紙と鉛筆セツトして
 妻と僕セツトであの世所望する
 健康を目指すセツトも粗大ゴミ
 住
 セツトして鮮度を少し上げてみる
 朝食とセツトになった常備薬
 念のため精子と卵子保存する
 夫婦茶碗夫の方がよく欠ける
 一枚づつ鱗リセツトして生きる
 人
 五体満足ちゃんと尻尾も付いてます
 地
 ファイナルセツト人間らしく勝負する
 天
 爆弾をセツトして待つ午前様
 軸
 待ってますパトリオットをセツトして
 すみ子 希久子 誠一 篤 ひろ子 敏治 武彦 耕治 孝代 紀華 万紗子 弥生 洋 遠野 ひろ介 俣子 廣子 ばっは 真理子 楓 楽
 キラリ光る一点豪華主義の石
 上等の肉は入つてないカレー
 買ってきた服の値段は言わぬ妻
 この酒の値段は妻に言つてない
 上等の方も試しに袖通す
 上等の猿から進歩せぬヒト科
 気楽ですボクはやっぱ二等兵
 上等上等と手料理褒めてくれた夫
 ダイヤ身につけると凛とした気分
 ブランドの財布中味が増えません
 ブランド着てこころ貧しくするけんか
 仏壇があるので茶の葉高い方
 負けなはれ負けて上等世を渡る
 日本酒を上等にする河豚のヒレ
 上等のワインが今日を光らせる
 上等の肉で肉じゃがには向かぬ
 ブランドで固めて君は淋しがり
 自分の事は自分でやると言う白寿
 米だけはプチ贅沢な我が家です
 あなたが着ると上等の服になる
 気持良く酔えない上等のお酒
 三十点は三割打者と自己暗示
 上等はまだわたくしの身に合わぬ
 最後かも知れぬ舞いへ胡蝶蘭
 亡母の帯カバンになつて甦る
 英旺 いさお 久仁雄 まつお 郁夫 誠一 勝弘 利子 紀乃 宣子 宏子 真理子 哲子 正彦 良子 克己 扶美代 利子 一徳 能子 ゆみ子 正彦 扶美代 理恵 一步

まごころを書くペン上等じゃないけれど

上等かどうかは死んでから分かる

舶来が上等だった過去がある

上等な恵方巻ほど食べにくい

折角のグリーン車居眠りはしない

核兵器に上等なんてありません

上等を着こなすまっすぐな背骨

人間に生まれただけで上等だ

上等な羊羹札束にもなれる

バラよりも水仙似合う地蔵尊

上等ないちごあなたにだけアーン

九十歳でご飯を食べる洒落を言う

佳

熟練の手に狂い無し町工場

上等な振りして生きるのも辛い

上等な人は外さぬ間合い持つ

絹ワール慈しむもの手で洗う

読み聞かせる日本昔話がある

人

五体満足それで上等ではないか

地

カシミヤのコートをラフに着こなして 紀乃

天

美しく時と添い寝をするワイン 木本 朱夏

軸

上等な酒しか贈らない美学

希久子

ゆみ子

哲男

見清

すみ子

ダン吉

希久子

楓 楽

見清

一歩

恭子

廣子

隆彦

万紗子

妙

美津子

信子

洋

紀乃

木本

朱夏

希久子

ゆみ子

哲男

見清

すみ子

燦 燦 会 句

岩 崎 眞里子

一月句会を読む

新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

玄関のベルに今年の顔で出る

本音だけ詰めてありますゴミ袋

身も心もシャンとなる元旦は、何度迎えても気持ちがいい。

でも頭痛と咳のお年玉を頂いた我が身が、年末年始で膨らんだ

ゴミ袋と重なった。中には嘘偽りの無い諸々が詰まっている。

順風を自力と過信してしまふ

子に甘い母親だった好きだった

泣いて笑って踊りつづけてくれた君

歳を重ねて気付くことがある。これまで元気に過ごせたのは

自分の力だけではなく、慈しみ育んでくれた母や、一緒に泣き

笑ってくれた人達がいたということ。幸せの源流である。

これからの私を指図するクスリ

胸騒ぎこころの鈴が鳴り止まぬ

これから丁寧に打つ句読点

今日も又、飲み薬の確認から始まった。何時頃からだろう、

胸奥の鈴の音が不安を掻き立てる。だから殊更丁寧に、句読点

を打つように、色とりどりの薬を置いていく。明日の方へと。

十二桁拒絶をしても絡みつく

ダツシユ スラツシユ コロン私も暗号に

不安は身の外からもやってくる。マイナンプーなる解説不能

の数字は、戒名引換券にもならない。むしろ「一」／＼「二」

の方が心親しい。これは、人間暗号化の途中かも知れない。

鈴鳴らしシャンシャン修羅を越えてゆく

頂いた命精一杯踊る

胸騒ぎの鈴も十二桁も味方にして、踊るように修羅峠を越え

て行く後ろ姿が思い浮かんだ。精一杯踊るとは、己自身を軽や

わんぱく

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

南大阪川柳会(大阪) 津守 柳伸報

介護士の献身見ると酒減らす 忠 昭
ヘルパーが来る日きちんと紅さして 篤
ヘルパーさんがお帰りなさいと置き手紙 あおい
ゆるきやらがボインで脈が躍ってる 久美子
ゆるきやらがひと息いれたお手洗い 恭 昌
故郷のゆるきや私に似ておかし シマ子
ゆるきやラに入って人間観察中 修
ゆるきやラを見つけた孫の目が熱い 郁 夫
タマ2世あれもゆるきやラだと思ふ 勝 弘
ゆるきやらが背中かゆいと更衣室 和 雄
孫達にとつてゆるきやラ今の僕 実
ゆるきやらへいたずら小僧キックする 克 己
ゆるきやらにもマインナーがいる時代 たもつ
ゆるきやラに似た体型で愛される 楓 楽
口下手はやんわり言えず損をする ルイ子
やんわりとメリハリつけて母論す タカ子
更 紗

踏ん張って手にした椅子は針の山
異次元でふんばっている翁長さん
父さんもふんばる暮れの大掃除
黙々とふんばっている土踏まず
崖っ縁でも九条は生きている
失うもの何も無いからふんばれる
人生の踏ん張り時は今らしい
踏ん張れば私にだって花が咲く
ゴールまで預けず家で看る介護
三〇〇〇日ふんばりました生きました
年寄りは医者薬で生かされて
効いてるか日にち薬のじれったさ
薬より養生食いと妻が言う
愛情は心の傷に効く薬
百薬の長のお世話に今日もなる
衣食住足りて薬を手放せぬ
鼻薬貰うと後で高いツケ
未だかなあ飲んだかなあと葉見る

川柳塔打吹(鳥取)

野口

節子報

膝小僧かかえ半日失語症
傷つき易い膝小僧抱いている
膝を折りお客まちしている駱駝
正座など拷問だよとグチる膝
モンローの膝を見てから半世紀
母の膝少し泣いてもいいですか
恋人のお膝の中で日向ぼこ
ハインネの詩読むと青春にもどる
積んでいる読んでは忘れた開く

歌留多 一步 直子 昌紀 ダン吉 弘委智 国和 廣子 栄子 ばっは 弘泰 東風 武臣 志華子 いさお 弘子 高志 あや子 宣子 宣子 重忠 完司 石花菜 美知江 くにこ 久江 和子

入門書読んでやる気が消えました
気に入った絵本何度も読めと云う
一頁読めば目蓋が重くなる
顔色が悪い何かがありそうだ
後継ぎが嫁入り読みが甘かった
読み書きもせずにくらした曾ばあさん
まだ生きている葬儀のパンフごみ箱へ
心まで読んで萎れた自尊心
不幸だね人の心が読める人
ガタガタと闇夜にしゃべる洗濯機
ガタガタは家も我が身も鼻血出す
古民家の雨戸に心地良い目覚め
沖繩の辺野古がたがた収まらぬ
ガタガタと妻よう喋る口を持つ
ガタガタの辺野古に迷う珊瑚礁
寒い日が孫のお世辞でホットな日
観光の目玉になった雪まつり
寒い日は手抜料理のなべ出番
原発の周り一年中寒い
懐は寒いが二人まだ熱い
東京はふるさとよりも寒いとこ
寒いなあ人の心が見えすぎる

和歌山三幸川柳会 武本

悩み事の一つや二つ生きる張り
打ち明けてからが本音のお付き合い
視界みなかばちゃんに見えてきたゆとり
米櫃の底を見ることない暮らし
戒名も頂き墓も建てました

美ッ千 美恵 貴恵 公恵 美美子 たけ代 久芽代 道子 三津子 照彦 紀美恵 恭子 野蒜 妻 悦子 龍枝 義人 陽之助 芳光 清 重利 節子 碧報 みね 准一 純子 ひろ子

暗闇もゆとりがあれば見えてくる

諦めた時から少しずつ余裕

そのうちに笑ひ話になる苦労

そのうちにゆとりが欲しくなるサイズ

秘すれば愛指の先まで疼き出す

美しい指で噂をかき混ぜる

しなやかに男の骨を抜く小指

無器用な十指家族の愛を編む

げんまんの指が疼いたすっぱかし

憧れへ指の先まで燃えている

約束の好きな小指を持て余す

ブレイキの遊びくらいにあるゆとり

ふくらまし過ぎてゆとり破裂した

一歩引くゆとり余生を弾ませる

今もつてゆとり教育わからない

ゆとりつて気持ちいいと言ひ聞かす

ご健在そのうちきつと呼ばれます

開運はそろそろですか未だですか

ロボットもそのうち恋をするだろう

そのうちに楽をさせると口ばかり

孫が言うそのうちひ孫見られるよ

綾取りの指が遠い日巻き戻す

太陽に翳すと命燃える指

しなやかな指が奏でる手話の声

多作して名句引き出す指五本

幸せを編み出す母の指の先

人を差す指は我が身にユーターン

約束を守れず痛む小指です

街角に見えぬパン屋出来ました

街角の夢売り切れてモノクロに

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

ヒマワリの種足跡へ零そうよ

生かされてひ孫を抱けるありがとう

集落が確かにあった百万遍

若干のボナスでまた生き返る

ちやっかりと擬態で今日も生き延びる

足跡は津波がもって行ったたり

まだ生きている胸は何度も裂けたけど

年輪のどこどこに戦跡

恋敵負けてしつとの目まいする

ガラクタがボンコツになりでも生きる

初恋の影にくらくらする鏡

我武者羅に生きて昭和を駆け抜ける

にてるひと消えた胸の火又もえる

根付くまで添え木しつかり植樹祭

昨日きょう同じ仮面はかぶらない

古里をぎゅぎゅつと詰める握り飯

このくらい泣けば明日も生きられる

私だつて死にたくなつた事がある

燃え尽きる迄は昭和のD51さ

オケラ・僕同じ土俵で生きる仲

くらぐらの歯でも小言はじつと囁む

仕事終え冷えたビールで生きかえる

新課長くらぐら回る椅子を待つ

くらぐらのビリへ惜しみのない拍手

体幹も老いの兆しや目まい症

病み抜けて日向はつこも眩し過ぎ

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

和子

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

堀 正和 選

佳句地十選

(2月号から)

山岡 富美子 選

玄関に座礁している孫の靴

海育ち私は少し塩辛い

しつかりと備蓄しているコントの根

河内弁わが河内では標準語

ジョーカーを使い忘れた十二月

よくしゃべる口でゴメンが言えません

小走りで逃げる厩で待つてくれ

かえつたぞ大きな声で呼ぶ独り

いいえなら山程箱に詰めてある

自分しかわからぬ痛み口せず

(永)

亜成

玲子

重忠

康子

耕治

紀子

和夫

森子

敏子

幹子

冬眠をする気が妻が食べ太り

見るからに安産タイプ妻にする

外出の顔になつてく厚化粧

いつもの違つドレスで風邪をひき

主役よりゲストが目立つ祝賀会

いつもとは違つドレスで風邪をひき

外出の顔になつてく厚化粧

言うぐらい只や朝晩アイシテル

こんな夢抱いていたんだ古ノート

ひとふりの塩が大人の味にする

味のある人と言われてみたい僕

プロボース返事ないまま子が二人

風来坊

宣之

圭一郎

堅坊

願

綾子

弘子

和子

いさお

克己

逢う度に好き好き好きとプロポーズ
照れる大人まんざら捨てたもんじゃない
さようなら 躓きながら泣きながら
和香子 氏加子

竹原川柳会(広島)

古田

太虚報

夕暮れる遊び疲れた子が帰る
日が暮れる井戸端会議終らない
子育て介護戦いの日がやっと暮れ
さっぱりと今日を流して日は暮れる
突然の訃報涙に暮れている
栄香 昭紀

日は暮れた妖怪集う港町

節生

紅葉と暮れる露天の湯にひとり

蘭幸

すぐ尖るだけどあいっはお人好し

宣之

尖るまい明日へ生きる風を選ぶ

鬼焼

喜寿近く尖る心も風の海

栄恵

尖った言葉も母は丸くする

弘子

ひとつぶの母の泪が棘を抜き

淑子

とんがった心に響く子守唄

敬子

隣組昭和人情割烹着

比呂子

腕組みをしたまま直ぐに頷かず

汎美

ワンピース残しバズルを組み終える

半徳

ライバルと組んで成長したらしい

寛子

目を閉じて腕組み和製ロダンだな

笑子

盆供養地域総出でやぐら組み

慶子

兄弟が組んで介護に灯が点る

千代美

一歳もこたつも中で丸くなる

輝恵

写経する徳先に宿る仏様

歩美

会う人にみんな礼いう歳になる

厚子

のんびりとあくびが伝染る幸せよ
史子
高知川柳社
小川てるみ報
霜月は枯葉ムードのシャンソンで
初霜のニュースが急かす冬仕度
霜柱などは知らない温暖化
霜焼けがやけい昭和の回顧録
霜を踏み遠い昔を思い出す
霜焼けひび割れ母の生きざま刻んだ手
千鳥
富柳会(大阪)
関よしみ報
平成の嫁に手渡す志の志
青眼に構えて生きた父である
確りとあの日を抱いて一里塚
小さな誇り九十二飯旨い
ヨチヨチと揺らいで吾子の誇らしげ
ふり向けば落ちた涙も乾いてた
新雪に耐えて真つ赤な冬薔薇
確りと暖簾支えて来た家訓
喝采の大臣賞は叔父の菊
兄弟の絆忘れぬ柱疵
真つ直ぐに生きた誇りを持つ背筋
安らぎがほしくて捜す母の森
確りと掴んだ愛が熟れて春
賽銭の分だけ聞いて願ひ事
朝起きて活力もらう水一杯
誰よりも私を知らぬのはわたし
確りと宇宙吸い込む弥陀あくび
海と空青を誇りにするジャパン
哲史
和広
陸宏
久娘
千鳥
静子
田鶴子
慶子
伸雄
澄子
澄子
寿峰
高鷺
朋子
清
仁
信子
未知
武人
一文
惠
奏子
寿之

囁がおぼろ冬のスターダスト
火柱を一本抱いている頑固
柱梁が支える下に喜怒哀楽
大黒柱が自負も五欲も抱けと言う
アキ
欣之
よしみ
森子

川柳塔さかい(大阪)

村上

玄也報

脈あるかうぶな同士のさぐりあい
脈ありと見たかメルアド教えられ
脈のない恋だと他人には判る
金脈のおこぼれで罪がふせられ
脈のない男と知つていた財布
培ったバラより好きは黄水仙
縁切りたい脈々癌のDNA
詰め込んでパスにあふれる帰省客
ついてる番狂わせの金メダル
本年は赤いヨロイで勝負する
防戦に回ると弱くなる主張
脈を取るアナログな医者頼つて
防ぐより攻撃だよと安保法
惚れていたことに気がつく逝つた妻
風呂敷に恋を包んで捨てました
人脈が豊富な彼に負けられぬ
世渡りの下手な貴方に惚れている
あたたい介護に脈がよみがえる
人脈は揃っているが金が無い
キリキリと喪服の妻に惚れ直す
脈絡は無いがうれい母の文
わかり易い人だ脈拍があがる
地下水となつて脈打つ師の教え
素頼馬
澄空
時雄
憲
寂子
ヨシ枝
光
雅明
山舟
進
玄也
五月
健吾
日の出
舞夢
さくら
唯教
月子
富夫
誠一
ゆみ子
好

笑つたら笑つてくれた脈がある
一本のペン脳の老化を防ぎます
惚れるのは好き惚れられるのは嫌い
すっぱんに惚れたからこそ半世紀
脈あると初めのうちは褒められて
蹟いて場当たりの奇策とる
惚れていたいとも涙を溜めていた
事故らない内に免許返還する
炎の匂い消えて虚しい不整脈
蝶々が気付く人差し指の脈

川柳 大阪

山崎

珠生報

休肝日明日は明日はと先送り
恐い物知らずあなたの腕の中
目が覚めた明日が今日になっている
明日の米なくとも妻はケセラセラ
明日の為今日の努力が花咲かす
少子化で寂しくなった雛祭
大好きな人の話は夢中です
明日検査今晚八時まで飲める
飾らない言葉に光る父の檄
縁起良い赤を着飾る申の年
北の国水爆実験したと言う
明日もまた幸せ探しベダル踏む
安倍政治夢中になつて再稼働
正月はマラソンばかり見てました
恋に落ち体重五キロやせました
前向きに明日へ踏み出すコンバクト
押入れの暗闇苦手幼児かな

としお
ひろ子
世紀子
敏 治
憲 彦
八千代
扶美代
シルク
若 芽
天 笑
勝 弘
美 世
克 己
かよこ
五月
芳 香
まつお
弥 生
珠 生
司
万紗子
紀 雄
一 歩
温 子
美 籠
功

有終の美を飾りたい我いのち
惚れてますだから待ちます花時計
べっぴんを見ると夢中にしゃべる癖
未知という明日に向かう好奇心
夢中になったのは私振つたのも私
申年に赤い下着で飾ります
十月十日胎動感じ満つ日待つ

川柳塔おつばこ吟社(香川)川崎ひかり報

夢捨てず余生まだまだ春を待つ
荒波へ夢を積荷の旅に立つ
水割り濃いに祝う子の門出
詰襟襟にさらば男の顔で発つ
度の合わぬメガネで恙無い暮し
針の穴眼鏡なしでも通う糸

長 柳 会(大阪)

辻村

ヒロ報

冒険心老いを忘れてまた走る
縁を切り天下晴れての自由人
身の程を知つて膨らむよるこびが
買い物に行くぞ我が家の軽の駒
近頃は猫も勝手に出歩けぬ
意のままに介護ロボット動き出す
お年玉孫から運用先聞かれ
組をばたばた跳る睨み鯛
種播いて色とりどりの春を買う
喧嘩の種播いたメールのハート文字
病得て言われたくないがんばって
お見舞もとだえ会いたい人はまだ

和
柳 弘
信 醉
朝 子
蕉 子
世志子
福貴子
よしみ
放 任
はつ恵
ひかり
いさむ
ヒロ
洋 二
辰 男
一 男
も こ
たけし
正 博
靖 博
知津子
光 弘
ひろこ
けい子

あと少し自由に咲いて散るもよし
老い燦燦さあゆつたりと八十路坂
被災地を見舞う妃殿下膝を折り
自由だが飛び跳ねすぎる子どもの名
若葉萌え生命輝く春が好き
しがらみを皆脱ぎ捨てて冬木立
母さん心の鎖切りたい日
老いてなお抵抗もする血も騒ぐ
医者よりも病氣解説見舞客
緑児の笑顔未来へ玉手箱
縁談はやさしい嘘でまともめられ

川柳茶ばしら(愛知)

関本かつ子報

歳とれば昔のことをよく話す
捨てられずたまに役立つ虫眼鏡
断捨離の手がまた止まるこの着物
人の倍通つてやつと免許証
安心にこだわりメイドインジャパン
息子等も辛抱強くなつて親

はびきの市民川柳会(大阪)永田

章司報

百人一首孫の速さに手が震え
官僚のコピペ読むだけ知恵要らず
和服着るネックラインに見る色気
幸せを詰め込んでいる美のおせち
洋風に少しチェンジをするお重
正直にいうたら首になりました
知恵がないだからせつせと汗をかく
娘が来る二日にお重詰め直す

孝代
直 樹
幸 子
隆 彦
ふくこ
淳 司
ふ み
和 子
正 美
ともこ
和 代
雅 美
まみ子
百合
週 行
美千代
かつ子
洋 一
ひろ介
美代子
アヤ子
光 男
みつこ
かつ美
登志子

首が飛ぶ覚悟で臨むプロジェクト
重箱の隅で黒豆でかい顔
いつ迄も亡母恋しいせち料理
祝著添えて師走の小買物
新築新開店良い響きです

手作りのお節がやっと亡母の味
首根っ子掴まれ子猫何の罪
首切りは許さないぞと団結し
みかん食べお肌つるつるビタミンC
老いの身が首長くして春を待つ
雁首を揃えて雑魚のする協議
ブランド化目指すみかんの糖度計
みかん山今は新興住宅地
難民と豪華おせちが並ぶ記事
首筋が寒い上司の肩たたき

川柳塔わかやま吟社

川上 大輪報

産声を聞くこともなく宵えびす
席題のトップは夢か初呼名
初夢の中で聞こえた天の声
亡き夫も一緒曾孫にお年玉
産声に愛燦々と降り注ぐ
集まった子の優しさがお年玉
肩とんとん孫らがくれたお年玉
お年玉虚礼廃止にしてほしい
大中小お年玉にもある格差
子等の汗すんなり年玉使えない
サンブルのない人生の交差点
出来過ぎのサンブル疑念掛けられる

雄太 さくら シルク 美喜 敏 喜久子 ヨシ枝 千鶴子 フジ 泰子 高鷲 ちづる いさお ダン吉 章司

長生きのサンブル母は宝もの
サンブルは少し笑えるほどがいい
一族が揃うすてきなサンブルだ
サンブルの鰻年々瘦せていく
六十年今年最後と昆布巻く
寂びついた頭回転させる辞書
引力を信じぐるぐる空に舞う
ババの手が鉄棒になるぐるぐると
かごめかごめ後ろの正面で止まる
わたくしの過去が環状線に乗る
無になろうなうると回る風車

川柳塔まづえ吟社(鳥根)相見

柳歩報

いつもより厚化粧して出る初日
脇腹にふわり溶けだす初氷
初日の出テレビに向かい手を合わす
14歳赤飯炊いて欲しくない
注連縄が並ぶ町並み歩く幸
注連縄はキリリツとしたイケメンね
賀状から注連縄担ぎえとのさる
いちご大福あれは邪道ではないか
いらぬ物混じる大きな福袋
生かされて八十四の福を抱き
福の神素通りさせぬ笑い声
平凡な日々だが俺は福感ず
笑い声につられて入る福の神
福が来て逃げられぬよう縛りつけ
幸福の欠片の雨の音やさし
しなやかにひらひら暮らす年女

よしこ 道夫 克子 日出男 弘子 紀久子 小雪 まさみ 知香 あきこ 大輪 弘充 とも子 堂太 聡美 注湖 孝子 ちえこ 芳山 桂子 幸子 ひふみ あきら 久絵 哲子 知恵子 昌枝

ひらひらと言葉はぐらすハツ手の葉
年甲斐もなくひらひらの蝶が好き
ひらひらと掴みどころもなく生きる
ひらひらと虫が飛んでて寒かろう
ひらひらと道化師になり生きようか
ひらひらと旅好きでした山頭火
ひらひらのドレスまといっているきんぎょ
喜寿の坂ひらひら越えて生きている
ひらひらのおみくじに問う我が願い
ひらひらと木の葉みたいな母の文
花畑ひらひらと拉致される
年男跳ねるだけでは終わらせぬ
かさの上跳ねる雨水楽器だな
飛び跳ねても胸のつかえが下りて来ぬ

ブラザ川柳(大阪)

坂上 淳司報

熟年離婚やれ嬉しやと叫ぶ妻
高校で初めて生きた選挙権
押し問答鶴の一声理屈抜き
追い焦がれ連れなくされる私バカ
初対面いやに詳しい妻のこと
子の自慢やってみたいが普通の子
リタイアでストレス無しの青い空
仕事づけ無罪放免しみる酒
酒でつせ退院したら飲みなはれ
神様におねだりしてる初詣
スッピンで見舞ってくれた無二の友
定年後使える金は妻の許可
お正月から辛いニュースの輪転機

草庵 博子 輝山 涼子 雪代 寛 千里 妙子 ゆき 美智子 柳歩 紗季 左余 淳司 一彌 政夫 正子 芳子 和代 一夫 篤 久美子 清乃 悦夫 克三

頑張れよ病人に肩叩かれる
不自由を知って自由に感謝する

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

高齢者正しいルール守ろうよ
初詣まずは健康祈ります

戦争が正しきばかり押し付ける
極楽へようこそなんてまだ早い

地図見ては正しい道を赤ペンで
ようこそはふる里匂う亡母匂う

健康か病氣どちらでもマスク顔
清く正しく八十年も生きてきた

酒タバコ止めて健康女好き
健康がなにも勝る老いの幸

貧乏は正しいけれど寒いなあ
細く長く柳の様に白寿まで

金の無い人にも聞く自動ドア
ようこそで貰う心のおだやかさ

訃報欄正しい人は早く死ぬ
幻の船霊さんにお神酒注ぐ

健康で葬儀屋泣かす日が続く
ようこそが弁当の数満たさない

死にはせぬ笑い飛ばして日々元氣
老いらくの恋に健康必需品

ようこそと器に盛ってある平和
ようこそと招かれ料金はたっぷり

少しずつ月は正しい丸を描く
里の母だけは心のようにこそだ

正面に座ってもらう招き猫

弘光
五月
茶子報

ほたる川柳同好会(大阪)水野

黒兎報

幸恵
収公
小鹿
綾子
ゆり子
鈴

咲和
和子
照彦
重忠
石花菜
弘子
実満
盛桜
蟹郎
宣子
孔美子
茶子
京満
みさ子
すみれ
妻
子
かおる

素直になればきつといい朝やってくる
超爽快こむら返りに会わぬ朝

すっぱんの妻朝のゴミ出し指図する
着飾った和服が増えた初詣

飾りみな捨ててとけ合う趣味の会
肩書で飾った名刺暇になる

式典を飾るスピーチノーベル賞
新年を稲穂で飾る京舞妓

百均ですます二人の松飾り
日日の暮しほんのりて来る賀状

ほんのりと春を装う京和菓子
ほんのりと障子に映す影遊び

胸の内ほんのり染めたままの恋
ほんのりと屠蘇に酔ったか子供たち

ほんのりと甘みハチミツ少し入れ
初日さし屠蘇にほんのりすれば春

三人の孫がくれたよお年玉

八尾市民川柳会
土田
欣之報

健康なうちは亭主もお宝さ
ようこそようこそ青谷の源左様
健康のきざし柏手よく響く

美ッ千
富久江

恒
美智代
勝

奈津子
柳童
堅坊
美佐子
長一
正子
春代
桂子
郁子
順子
久子
守啓
信男
黒兎

耀一
仁
紀雄
慶子
朋子

鑑より最後は愛だ人科ヒト
過疎の島人という字で支え合う

劈いた直後にやって来た虚脱
和音から和音へ愛のハーモニ

大募集スマホ中毒消す薬
今日は今日愛を劈く一行詩

世界中愛を柱にして平和
狛犬に邪悪な心見透かされ

はつはるの光にはしゃぐ路の臺
大仏が起つたら世界的ニュース

川柳同好会みらい(鳥取)吉田

秋深く物の哀れが身にしみる
医療費のレシート生きている証

天高し肥えていられぬ競走馬
各局の同じニュースで日が終わる

AEDあなたは使用できますか
子に負担かけぬレールを敷いて置く

欠札が師走の風に乘ってくる
ごめんなさいきれいいさっぱり忘れてて

過ぎし日々思い歌でも唄おうか
冬支度早め早めの年となり

強風に風車が羽根を止めている
ほつとした菊がきれいに咲きました

消防に監視されつつ枯葉焚く
ルーツなら芽づる程度知ってます

一年の褒美へ財布開けたまま
ロボットは進化わたしは退化する

聞き役はサービスのお茶入れ替える

常男
清
高鷲
寿之
良文
森子
恵
安男
かこ
欣之
陽子報

章子
美恵子
信兵衛
和之
陽子
澄子
寿々子
恵美代
かずこ
亜矢
みち子
信子
和代
菜美
一眸
華蓮
安子

密談へ天井低くして臨む
あすもまだ生きたる褒美はそれからだ

あかつき川柳会(大阪) 山本 昌代報

諍いは半音高い妻が勝つ
ブレーキの無い車ですジャバンカー
一強に音を上げてたら勝てません
テレビ見て遊び忘れたお老人
安倍政権未来に向けて逆噴射
戦争法廃止する日を祝日に
戦争法反対の旗染めぬいて
まだ遊んでるおふくろの腕の中
個性だと我儘許す子の未来
未来図もひとりで風の中を行く
音がだんだん聞こえぬ夫の小宇宙
水琴窟奏でる和音妙なりて
新春の葩餅にある未来
五郎丸ボーズ見掛ける初詣で
雨の音嬉しく聞いて独居する
水ごくり命の音を聞いている
北のドン震撼させるお年玉
タイムカプセル未来の夢を詰めてある
フロントもファンもアニキの色になる
不本意に遊んでいますニートです
未来では原始に戻るかも地球
人類を守る切符愛だろう
手を繋ぎ歩いて同じ陽の色に
数の子を家族で喰えば皆無口
梅の香はあたり一面春にする

遊子 公弘 義泰 行兵衛 康信 善之 紀雄 美智子 鈍甲 穩夫 ダン吉 惠美子 福貴子 生枝 弘子 廣子 榮子 敏子 秀夫 久美子 篤 見清 たもつ 和雄 忠昭 信子

さつき見た映画を僕は真似ている
銃弾が飛び交う音を聞く茶の間
簡単に染まらぬわたし流守る
壊れたすヒト科温暖化の未来
非正規が軍手で掴み取る未来
この国の未来が九条にかかると
未来などないだろ核を弄ぶ
紙コップ寂しい音で捨てられる
1億が総活躍と言った無理
安倍色に染まり沈んでいくジャバン

川柳塔なら

中原比呂志報

早く来て過ぎ去ってくれ重い朝
正義とや愛とや永遠の課題なり
五十年寡黙な夫のありがとう
うれしいね昔馴染と巡り合い
苦悩耐え傘寿と喜寿の夫婦箸
ひとり居にうれしい友の長電話
車庫入れが一度でできたまだ乗れる
悔しさを枕に抱かせ明日の夢
百を越え明日へ筆がまだ光る
真つ新の明日へ期待と好奇心
真つ新な明日は自分の手で開く
アングルを変えて明日へ飛び立とう
玄関に躓け正しい小さい靴
大間違ひ隠し些細な正誤表
それなりに規則正しい千鳥足
正直な鏡に恋を悟られる
品行方正たぶんしんどいことだろう

茶助 祥昭 紀乃 浩子 留里恵 いさお 克己 紅絵 壽峰 一志 和夫 萌子 紀子 おたか よう子 将文 眞澄 堅坊 弘子 朝子 柳弘 秋泉 優 順啓 富子 理恵

明日がある紡ぎ続ける物語
詫び状の折り目正しい楷書体
正論を吐いてビエロの独りぼち
正直に告白しても後ろ指

川柳塔唐津(佐賀)

仁部 四郎報

満月や配所の月をスマホする
入院の妻から指示を受けに行く
緩和ケアそれでいきますわがいのち
香ばしい焼きオニギリの鉄火味噌
隠し芸アンコール受け再登場

川柳花の輪(大阪)

岡本 薫報

終バスの尾灯ずんずん遠ざかる
バスの席譲られて我が老いを知る
二三日主婦を忘れてバスツアー
義理で来た客でにぎわう書道展
客の子の行儀悪さを叱れない
年末は客の顔した家まわり
バスツアーイレ休憩土産増え
客のいない間にママは新曲稽古する
包み開け爆買い客が道ふさぐ
朝ドラがいとこなのにチャイムなる
長居客今は掃除機逆立て
客足も遠のいて往く過疎の店

城北川柳会(大阪)

近藤 正報

丁寧に磨いて見れば愛だった
拉致されて決め手を持たぬ国日本
堅坊 郁夫 正報 昭好 陽 成子 恭昌 比呂志 四郎報 蜂朗 高実 高明 節子 敬子 一幸 泰子 笑子 やすの 風 あや乃 正太郎 昭好 堅坊

箱根駅伝勝負を決める山登り

(H) 博

決心はついたゆるがず前を向く

美智子

掘り炬燵ここはお尻が石になる

志華子

思い出を辿ると母の海に出る

満洲夫

斗酒浴びてこころ自由な夢の旅

直樹

究極の年玉だらう孫くれる

たもつ

我が家にもそろそろ来そう残り福

義昭

何事もプラス思考と決めた春

麗

ネガティブな私をリセット紅をひく

榮子

さい銭をスマホ片手に放り込む

実志

出る時はほろ酔いまでと決めている

洋志

川柳と平和祈った初詣で

修

年毎に余白が増える日記帳

縣作

春めいてそろそろ動き出す命

賢子

終章を悔いなく虹を抱きながら

朝子

決定権を妻に委ねて恙なし

和夫

年も明けそろそろ私三分咲き

あさ子

正直な鏡そろそろ見たくない

弘委智

原点に戻り心の螺子を巻く

高志

子供等のジャンケンポンはすぐ決まり

英男

夫いて優し午後のコピータイム

杵香

知恵熱が八十歳でやってきた

一步

どうしたの二転三転競技場

照代

結局は総理一人で決めている

千恵子

断捨離をはじめなアカン歳になる

勝弘

戦死者にふたたび命もどらない

正弘

三日過ぎ静かになって寝正月

求芽

はた目にはそろそろわたしは懸命だ

五月

決めるのはワタシ支払うのはアナタ

いさお

新年の抱負はいつも空回り

満作

サークル檸檬(大阪)

松尾美智代報

人生を甘く見過ぎたのが誤算

房子

水たまり軽く飛べると思つてた

昌紀

連れてきた奴は天の句俺地の句

哲夫

乾杯の前に友みな薬飲む

久二雄

正解のない人生は面白い

光久

せめてものいのち光らせ生きて行く

たもつ

誤算でも笑いとはして切り抜ける

加お里

バブル崩壊悠悠自適夢でした

美智代

計算に入れてなかった倦怠期

扶美代

限界が来るまで夫婦ごっこする

千代

大きな誤算信じたわたし馬鹿だった

智恵子

ぬくい言葉何より嬉し冬の耳

希久子

八十路来て過ぎ去りし人みな恋し

みつ子

絶対と信じた種が芽を出さぬ

いわゑ

自分だけ癌にならぬと信じてた

楓楽

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

安心と天国で皆眠りこけ

次男

安全な原発なんてありません

鬼一

マイナンバー安心出来ぬ事が増え

萩江

安いけど安全ですよ自家製で

風露

考えず安気がいいよ長生きに

玲子

名を告げて問えば言葉は畏まる

雄大

簡単が好きで名乗っている雅号

茶子

本名を言うときちょっと照れくさい

完司

名乗りたい駄作ばかりで名乗れない

けいこ

名乗り出る認められたる会員誌

泰輔

生きてきた何度名前を名乗ったか

瑞子

無人駅名乗る人ない夏帽子

美知江

若い一人生活リズムマイペース

智恵子

リズムよい歩きができぬ嗚呼来たか

紀美恵

とんちんかんリズム狂った遠い耳

康子

リズムよく葱きぎむ音朝の汁

由紀子

丁寧語ひとりリズムを狂わせる

美ツ千

かくし芸狂ったリズム囁し立て

茂夫

負うた子にリズム合わせるのは至難

節子

検査後の笑顔の先生神に見え

英子

お正月去年の神は燃えるゴミ

石花菜

運命を神に委ねて余生生き

日出色

氷上に神技見せる結弦くん

醉美蓉

神の子で賑わっている七五三

重忠

神棚は年末ジャンボだけ出番

野蒜

神様の言う事聞かぬオスとメス

妻彦

やーやーと名乗る相手は日本海

照彦

川柳あまがさき(兵庫)

大浦 初音報

初夢は大きな鯛を釣りあげた

奮水

もしもしのあとが続かぬはなし下手

よしひさ

話し好き馴染と出合う立飲屋

柳明

なんじゃこれ意味が不明の略語増え

修平

店のレジ今日一日の話する

健二

しくらめんの赤に炎えたい酒を飲む

晴美

鍋のふた取れば笑顔になる夕餉

初音

看護食しっかり食べて元気です

芳香

手放せぬガソリンを食う自家用車

リオ目指し寒風を突くアスリート

スマホと話す君には心みえますか

寂しい者どおしてお話は続く

吉野家に飽いてすき家に行ってみる

話方上手な人に騙される

大相撲懸賞の数世相みえ

たつぷりとお金はあるがドケチです

お正月やつと終った冷蔵庫

氣い付けや甘い話は裏がある

無駄話で距離が縮まる嫁姑

遠い日の話に変わる掘り炬燵

たつぷりと墨ふくませて筆はじめ

抱きしめていようあなたが眠るまで

七草粥やつと治めた胃の疲れ

番組の半分ほどは食べている

父の話は少し古い味が

三が日忘れてましたダイエット

割り勘でたつぷり自慢聞かされる

たつぷりの願いかかえ初詣で

話し方大袈裟すぎて肩が凝る

故里のみやげ話が止まらない

食べぞめの名前が踊る祝い箸

断捨離はせんでもどうせ捨てられる

真ん中に話し上手の聞き上手

わかあゆ川柳会(鳥根) 松本はるみ報

節目です満一才の誕生日

人生の節目節目は心して

一つづつ節目を跳んで来た氣力

長生きは節目節目で若がえる

深呼吸吸節目ふしめの小休止

心打つ節目多きを乗り越えて

晴れやかな節目祝いの席に着く

我が道を行く人生に節目あり

岩美川柳会(鳥取)

山下

テロ続き臨時ニュースが怖くなる

臨時ニュースキッチンの手がふと止まり

この命神とのリースかも知れぬ

いい匂いだよわたくしの加齢臭

しまったあ臨時検問しておった

幸せにリースも終り新春を酌む

あつとろし詐欺の電話に震えだす

緊張で手が震え出す初仕事

温かい家族の匂いする夕餉

金切れか臨時で孫が来るという

真夜中の臨時放送猫も起き

ありがとうごちそう様にある匂い

灯油高臨時に厚着させられる

口チャックなんてしませんキムチ好き

介護ロボリース会社が出来たかも

かば焼きの匂い私の誕生日

臨時でも仕事があれば有り難い

川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報

収益へ有名人を起用する

移植手術善意の募金満額に

かつ子

好栄

恵美子

ハル子

安子

昌

節子報

主一郎

一瑠

天翔

完司

重忠

美恵子

蟹郎

たぬ

昌子

幸安

敏子

清帆

一粋

茶子

弘子

雅女

節子

賢子

福貴子

原発の後立には国がいる

年金が生命をつなぐスポンサー

スポンサー募集中です古希元氣

よめはんが唯一僕のスポンサー

大仏の化粧直しは頭から

髪の毛が頭の中へ溶けてゆく

私も頭数には入れられる

洗髪で脳が洗いぬもどかしさ

ひと押しの欲しい女の振るかぶり

頭数そろえて意見まとまらず

空気読み馬鹿にもなれるいい頭

聞き役的位置で頭脳磨いてる

CTにうつる隙間の多いこと

びっくりばん頭真つ白一晚で

響くものあって重版もの凄い

実るまで血と汗にじむ修羅場踏む

愛情がいっぱいみかん実ってる

幸せの形に実る寒ぼたん

成人を迎えた孫の自立心

世界平和夢の夢ですそんなこと

法隆寺柿が実っている筈だ

実り匂い南天稲穂餅の花

卒寿から心実らす絵を学ぶ

新米が届いて思う親の歳

福島の住めない村に柿実る

謙虚さを実る稲穂に教えられ

ポケットチーフ笑顔にさせるおまじない

かぎ探しのポケットに入れたかな

ポケットの小石も坊やには宝

一歩

敏晴

たかこ

勝弘

舞蹴

昌紀

保州

満寿恵

朝子

重信

克博

柳弘

いさお

舞夢

ばつは

満作

芳香

日の出

志津子

としお

まつお

妙子

シマ子

(矢)五月

美世子

桃花

美龍

公平

克己

ポケットに詰め込んだ夢あくびする 萌

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

平和主義白黒つけぬカフエオーレ
激流に耐えた小石の丸い顔
蹴鞠して鞠に負けずに息弾む
満貫を聴牌胸が弾み出す
紅白に茶の間で弾む爺と婆
来客にニコツと弾む休肝日
百人一首お手付きさえも弾む声
長生きの秘訣に先ずは運のよき
弾力のなくなりかけた私です
百態の申が弾んでいる賀状
定年後増えた自由を持て余す
責任を忘れた自由闊歩する
飲んで食べ寝て食べ飲んだ三ケ日
自由とや自己責任のかくれんぼ
片想いでも想像は自由だよ
失敗を明るく流す人が好き
相づちにゆっくり溶けてゆく痴り
こうあれと決して言わぬ父でした
ローアングルで見つめています夫の愛
敬って伸ばされている春帽子
敬うひと今では神と仏だけ
巣立ちした息子から敬語の文がくる
大器だな笑って許す君の胸
老いる程敬慕の勝る父よ母よ
敬ってたてておきます旦那さま
叩いたらホコリ出る人出ない人

淑子 千賀子 歳子 正和 武臣 宏造 弘子 千代 千代 一徳 浩司 武彦 文香 盛夫 利子 美津子 ひとみ 遠野 洋次郎 じろう りこ 恭子 てる みよし 茂

世界地図色分けしない平和論
色分けをされるとボクは没になる
巣立つ子に自由な翼ブレゼント
呼名してますか折杭朋月さん
ピアノ連弾光燦々初日の出
日の出抱く大海原に頭垂れ
地球儀を自由に抜けるニュートリノ
見て聞いて喋って若さ引き寄せる
完治して尊敬します執刀医

六甲川柳会(兵庫) 市坪 武臣報

自制心の影に隠れている天狗
着メロで母の元氣を知る朝
ダツシユして初めて知った不整脈
自慢する何もないうの口達者
老いてなお妻のいいなりそれで良い
天狗にはなりたくない早天狗
せせらぎの水が奏でる春の唄
幸せを奏でる音符はずみだす
幼な子が夢を奏でる初舞台
コンビニも無いがレトロな街が好き
皆帰りがやと私のお正月
おはようと仏間に響くおりの音
オルガンが校歌奏でる古稀の会
やすらぎを奏でる音色ハンドベル
魚屋ではちあわせてとは釣天狗
静かな夜秒針だけが奏でてる
天上で母が奏でる子守唄
加齢です天狗のはなも低くなり

紀華 勝弘 順子 秋果 比ろ志 靖夫 野鶴 大子 敏夫 千賀子 盛夫 武彦 弘 忠貞 浩司 茂 弘子 繁義 順子 芳江 武臣 洋一 加寿子 道子 邦子 夏子 じろう

川柳さんだ(兵庫) 田中 章子報

休刊日休肝をして早く寝る
伸びた鼻ドアに挟まれ目が覚める
おはようの笑顔で溶けた蟬り
呼吸合い和音奏でる無二の友
年輪を弾くと洩れ出る人間味
下手な字も賀状だけはと墨を磨る
最後まで従って行きます表向き
母のタクト家族の揃うハーモニ

変化球投げて妻は打ち返す
やわらかくまるくなつて母となる
姉ちゃんに夜になつたら蝶になる
サンタにも鬼にもなれるおじいちゃん
一流の医師も治せぬ恋病
遊びならトップレベルの友がいる
ブランドの服着た犬が畏まる
一流の社名泣かせてする偽装
一流のパートが社員扱き使う
悪いことするアイデアはすぐ浮かぶ
年末は仮病で逃げる大掃除
アイデアに実行力が追いつけぬ
町工場創意工夫で持ちこたえ
宇宙への技術を生んだ町工場
アイデアで被災の街を立て直す
アイデアで猫の駅長儲かった
百均で孫には太っ腹な爺
赤飯が出ていい事あったのだ
まだ奮門出の春が誇らしい

和宏 洋次郎 利子 文香 和郎 美恵子 光久 能子 正和 ひとみ 野薫 好文 美智子 健二 ちあき 堅坊 武彦 隆 祐康 健彦 宣子 光久 俊昭 廣子 花門 博 つな子

うふふふ今年お祝いある予定
 初詣お神酒で破魔矢置き忘れ
 激安と聞けば安全ふと忘れ
 無謀かな十年日記買ったのは
 会えば又忘れた筈の夢を見る
 ばあさんが真知子巻きして初句会
 神様が賽銭わずか無茶言うな
 昭和一桁横書きに馴染めない
 嬉しくて涙こらえる母傘寿
 ほんのりと湿布の香る老いの恋
 海鳴りがほんのり聞こゆ湯治宿
 ほんのりとあなたに染まる甘い酒
 白檀のほんのり匂う裾捌き
 ほんのりと家族を包む屠蘇の酔い
 ほんのりと封書に君の香が残り
 ほんのりと火照った顔にある若さ

京都塔の会

樹本

宏子報

産地直送虫も一緒に御裾分け
 ちらりと見えたばかりに全部見たくなる
 チャンネルを切るきれいな月のせいに
 小津さんと呼ばれて逝った原節子
 マニキュアのちらりと見える奇麗な手
 ソウルからまた日本かとノーベル賞
 記者魂死なず被災地カベ新聞
 土地がらで正月にはおぜんざい
 たかが羽織されど羽織の裏の見栄
 百均に万札ちらり見せておく
 ライバルの視線がちらり突き刺さる

耕治 徹 雅尚 勝正 幸香 キヨミ 富夫 千津子 歳子 修平 順子 ヨシエ 加代子 一子 美籠 哲男

イエローカード妻がときどきちらつかす
 地産地消振り売りで買うキズ野菜
 デパ地下に降りたら主婦の顔になる
 考えのチャンネル変えるマイナナーバー
 世界地図炎が見えるそこここに
 新幹線誘致に地の利政治の利
 キックオフテレビの向こうに五郎丸
 チャンネルを回すとニュース皆同じ
 ガチャガチャと廻した頃が懐かしい
 ご自慢はちらり程度が美しい
 チャンネル権孫に取られるお正月
 上る下る番地だけでは無理京都
 採集の土にノーベル賞潜む
 空爆後地球の修理だれがする

岸和田川柳会(大阪)

佐藤 幸子報

無ではないゼロというからややこしい
 初日の出富士の白雪映え渡る
 たかがゼロされど恐ろしゼロ一つ
 振袖に喜ぶ祖母とハイチーズ
 澤穂希有終の美を飾り去る
 核ゼロを聞く耳持たぬ国がある
 世の中の汚れを隠す今朝の雪
 視界ゼロそれでも走る再稼働
 美人薄命でなかつた原節子
 ゼロ円にしても儲かるケイタイ屋
 戦争の歴史はゼロに戻らない
 美ら海を無残に侵す基地工事
 抱き合つて喜ぶ貴方もういない

洋志 宏子 葉子 元一 福子 求芽 円笑 弥生 欣之 則彦 篤子 牛延 昭 益祥 一子 和美 喜代志 笑司 幸子 信二 愿 世紀子 大輔 隆昭 珠子

一声を朝日にかけるどんと来い
 我が手帳俺だけに判る丸もある
 世界中ゼロにしようよ核兵器
 原点に戻り立ち位置見定める
 寝乱れた姿朝日に覗かれる
 宇宙から見れば地球も美しい
 美しい平和な国の朝日かな
 私の老後が嘆くゼロ金利
 トルコ兵救った美談海難碑
 喜べる時はとことん明日は明日
 真つ先に妻が喜ぶ旬の味
 喜んでいようような顔する苦勞
 逢った日もお別れの日も知る手帳
 秘かなる喜び朝のスクワット

豊中もくせい川柳会(大阪) 藤井 則彦報

予算確保ダツシユをかける年度末
 常識をあべこべにした打開策
 これからをいつからにする最終章
 めんどくさがらずに食べて寝ています
 寂しさの極み口つくわらべ唄
 孫がきてサイフの中が軽くなる
 感極まつて花嫁さんが泣いている(永玲子)
 やつとこさ辿り着いたら登山口
 佗助も嘆いています温暖化
 復興はこれからですと五年過ぎ
 楽観という字は書けず初日出
 開かれた女性の権利重い義務
 これからはアニキ頼みのタイガース

澁 則彦 求芽 と一な ヨシエ 健三 歌留多 きらり 健二 武彦 真理子 徹

番号がついて誇れるユニホーム
心開くと流れ始めたわだかまり
歳をとりに分かったことは子の気持ち
これからは本音も話す猿になる
一年中口が開いてる募金箱
足の裏番号貰う呱呱の声
北極星変えてはならぬ現在地
極限で神仏頼る気の弱り
花芽も待ちきれなくて脱ぎかける
チャームिंगな遺影作りを申年に
もうひと花咲かせてみよう老いの意気
極限で180度の展開
聞く耳はあるがたど今電池切れ
どんじりに引く番号は残り福
これからは三步進めば一休み
くじ番号売り子勝手に決めたはる(雷)玲
言いたいことしつかり言えてよく眠る
シヤネル五番いままや熟女の椅子しめる
ゆらゆらと春が紛れている冬日
凍てる夜はやはりわが家の極楽湯
笑うしかなかつた悲しみの極み
お静かにと注意したいが中国語

川柳藤井寺(大阪)

鴨谷瑠美子報

信仰と遠く福福福を乞う

真っ直ぐに生きたれば福もやってくる

日溜りのベンチで福がにやーとなく

都会では七福神もワンルーム

難民に福を下さいバン一ツ

福寿草辺り一尺雪溶かす

美津子 比ろ志 浩一 美佐子 野薫 雀舎 堅坊 宏子 靖鬼 満作 葉子 巴子 久彦 正彦 玲子 見清 美龍 千鶴子 耕治 扶美代 公子 恩 半蔵門 美子 心平太 一歩 ダン吉

にこにことしてたら福が寄つて来た
福助の足袋にこだわる父だった
18歳自己主張する選挙権
働いて今日一日の福もらう
アルバムの亡母の笑顔が福を呼ぶ
福の神は笑う方へと寄つて行く
行列もいとわずゲット福袋
幸福だ自由平和な国だもの
お多福の面はいらない初笑い
福耳にあけた穴から福もれる
今年こそ息子に有った福白髪
福袋の中に残っていたボエム
恵比須さんへ猿も福笹買いに来た
ときどきは電話をくれる福の神
被災地へ中味つまつた福袋
幸福という暖房のある我が家
福よ来い老いのマクガが掻き立てる
三世代揃い至福の初詣
寄り添えばテレる夫のしあわせ度
貧乏神福の神より強かつた
合掌の手から零れた福の神
孫娘小踊りしする四帖半
川柳の福たつぷりと真正面
押入れの隅で見つけた残り福

翠 洋 会(大阪)

佐々木満作報

その笑顔待つてた乗り越えたらしい

電話でも笑顔伝える話し方

いい事があつたらしいねい笑顔

手鏡に笑う大泣きたい夜

美代子 まつお 紀雄 シマ子 一文 シルク 育代 キーキー アヤ子 絹子 喜代子 扶美代 雅枝 瑠美子 弥生 六點 紅紫朗 絹枝 征志 信二 壽峰 高鷺 みつこ いさお すみ子 公平 昭恵 理恵

母さんの笑顔僕等の原動力
宅配を労る母は笑顔添え
につこりの笑顔で苦勞報われる
世界平和地球も笑顔踊り出す
おかえりと妻の笑顔で出る元氣
迷彩色初心はきつと白かつた
初心の句若若しさにビツクリポン
人間国宝初心忘れたのがない
初心忘れず書初めの墨の濃さ
咲きほこるバラ初心忘れていません
フランス語でも始めようかと思う
夢一杯初心のままに終わりそう
人生の節目に初心忘れない
初心な娘が頬染めていた週刊紙
朱に染まることなく貫いた初心
九十歳初心に戻る絵具皿
まつさらな日記へ夢の天こ盛り
祖母がいて七種粥に小豆粥
霜踏んで命しみじみ万歩計
出来るなら地球洗つて次世代へ
朝の陽に元氣キラキラ寒稽古
せんべいも爆買いされる有馬の湯
トゲのない花を咲かせたかつたバラ
八十路なお思い出してる恋ひとつ
有事には三猿たちも躍り出よ

きやらほく川柳会(鳥取)成田

雨奇報

虫の音が聞こえない一人侘しさに
弾痕に赤い薔薇挿すバリジエヌ
息子等が米寿の祝い涙出る
舞夢 桃花 浩二 善之 照子 蕉子 紀子 楓子 捷也 希久子 義 日の出 集一 恭昌 満作 千歩 富子 正雄 志華子 敬子 弘子 げんえい 眞澄 みつ子 和夫 あやこ 雨奇 かね子

世間ではクリスマスです豆を煮る
 年金で足一本の五輝星
 ハードルを低くして待つ願ひ事
 堪忍袋しつかり締めて口不満
 冬將軍今足踏みをしています
 川柳もぼつとしたりうまくなる
 冬来たり盆栽の葉もこぼれ落ち
 夢と書き希望を持って歳数え
 申の年いへと凡々去年今年
 師走風類に待つたくぶつかりて
 烏合の衆右往左の軽減税
 もらいもの何かそわそわ落ち着かぬ
 迷いつつ恥じらいもあり初投句
 健康に自信あるはず歯がうずき
 未練の夢に五度の手術を越えました
 スッテンコロリン父の言葉が胸に咲く
 松葉ガニ今年は少しダイエツト
 餅ちぎる役がまだある年のくれ
 紅葉のなか彩づかぬひと葉あり

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

紀の治 桐子 恵子 多美子 千代 登実枝 初枝 治代 日枝子 ひろこ ひろし 宏之 美智子 美草 美佐子 瑞枝 美穂 ゆき ゆめ子

一流の仮面はずれてただの人
 エンヤコラの唄に昭和が鳴り響く
 元氣よくボケない音頭唄いましょ
 一流と言われその気になる騒り
 旅立ちへ今日はめでたく日本晴れ
 唄うのにこだわりがある安来節
 赤とんぼ唄うと亡母がこだまする
 命ある限り終わらぬ数え歌
 柿右衛門の赤が醸し出す宇宙

祥弘 昭一

大山滝句座(鳥取)

新家

完司報

一流になつても媚びぬ胡蝶蘭
 縁起良い風に出会った日の寝息
 佳き日だと縁起かついで肩が凝り
 聴衆を抱腹させる話の巧み
 夕焼けを唄う心の里帰り
 悪縁を断ち切りたいと社寺めぐり
 呑み唄い悔しさを消す縄のれん
 縁起などと強気のように気にしてる
 旅の宿心に沁みる子守唄
 初日呑む今年の縁起よからしむ
 失せるなと一、二七の鎮魂歌
 まねき猫目立つ所にでんと置き
 表彰台君が代唄う心意気
 争いの無き年願ひ初майり
 三線に唄えば拍子づく手足
 卒寿越えなお一流に固着する

寿子 仁 一 高鷲 朝子 薫 忠央 修 高志 鈍甲 麗 美智子 弘風 義広 茜 弘委智 則雄 章彦 照彦 くにこ 芳山 楓花 芳光 大鯨 紀の治 石花菜 美ツ千 麦青

米国が弱り弛んだ国境
 家々の一つ一つに顔がある
 少しずつ漏れていたのか甘い脇
 寝たままでラジオ体操聞いている
 ロボットが苦手な料理作る夢
 うらやましい隣の孫の笑い声
 病むことも学ぶことよと切り替える
 荒れ模様食料備蓄へつちやうだ
 苦手でもやり終る頃好きになる
 税務署が苦手な頃が華だった
 憧れは謎の女と呼ばれた
 なごやかな家族団欒こそばゆい

野萩 幹啓 雄大 けいこ 由紀子 道唱 幸子 鈴野 久子 重忠 希楽良 完司

井笠川柳会 第17回 笠岡大会

とき 5月28日(土) 開会 午後1時 締切 午前9時30分
 開会 午後1時 締切 午前11時30分
 笠岡市保健センター(ギヤラクシーホール)
 笠岡市十一番町1-3 TEL0865-6215701
 笠岡駅から④バスで伏越下車 徒歩4分

課題と選者

事前投句「喜劇」(2句)
 大森 昭恵・高畑 俊正・大家 風太
 3選者による共選

天位の中から1名に市長賞として句碑を贈呈
 所定の用紙または連筆に句併記のうえ住所氏名電話所属柳社明記
 投句料1000円と共に4月30日必着で送付のこと
 投句先 〒714-0801 笠岡市笠岡22289
 井笠川柳会宛 TEL0865-6216200(戸田さとし)

当日投句(各題2句)
 「予感」村上 氷筆選 「錯覚」新家 完司選
 「邪魔」小島 蘭幸選 「残念」平山 繁夫選

当日席題(1句) 高木 勇三選
 当日参加料 2000円(弁当・大会誌)
 主催 井笠川柳会

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
西宮北口 川 柳 会	14日(月) 14時締切 家族・泣く・空振り・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 阪急「西宮北口」駅南出口歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川 柳 さ ん だ	15日(火) 13時30分締切 種・スリッパ・追う・ときどき 自由吟	キッピーモール 6階 (JR三田駅前) 「まちづくり協働センター」内のホール 〒669-1546 三田市弥生が丘5-2-4 堀 正和
川 柳 たちばな	16日(水) 14時締切 印象吟・旅(互選)・自由吟	立花公民館 (尼崎市塚口町3-49-7) 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	19日(土) 12時30分開場 原点・晴れる・うきうき・ペース	岸和田市立福祉総合センター 〒596-0067 岸和田市南町9-7-818 藤井康信
川 柳 塔 みちのく	19日(土) 17時締切 編む・どんどん・作戦	弘前市松森町73「レストラン・セーブル」TEL0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 塔 すみよし	20日(日) 14時15分締切 信号・脅す・ほっと	住吉区民センター 〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東2-4-9 古今堂蕉子
川 柳 ねやがわ	20日(日) 13時締切 たまたま・感謝・回転・自由吟	産業会館 3F 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉 内 川柳ねやがわ
川 柳 藤 井 寺	20日(日) 14時締切 直線・ドロオン	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0023 藤井寺さくら町2-2-201 高田美代子
豊 中 もくせい 川 柳 会	21日(月) 13時45分締切 世間・溜まる・たかが・自由吟	豊中市中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩5分 〒561-0801 豊中市曽根西町2-8-4 江見見清
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	26日(土) 12時30分開場 ちらほら・風・さわやか	和歌山商工会議所 4階 第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 市 柳	27日(日) 14時締切 矢・二番・プロポーズ	陵南の森公民館 近鉄「高鷲」駅北東 徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	27日(日) 13時30分開場 下取り・バランス・ずっしり	開発ビル 2F ホール 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
南 大 阪 川 柳 会	28日(月) 18時開場 悔しい・誘う・二枚舌・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京 都 塔 の 会	28日(月) 14時締切 タフ・よろめく・砂	京都ハートピア 地下鉄九太町駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勤修堂田70-16 榎本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

3 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	3 日(木) 14時締切 やっと・奮・運	奈良商工会議所 近鉄奈良駅①番出口東へ徒歩 2 分 〒633-0054 桜井市阿部787 松本方 安土理恵
城 北 川 柳 会	5 日(土) 14時締切 省く・青い・せかせか・自由吟	旭区老人福祉センター 3F 地下鉄谷町線 千林大宮駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
富 柳 会	5 日(土) 14時10分締切 斜・その時・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 川柳とんだばやし富柳会 池 森子
倉 吉 川 柳 会	5 日(土) 14時締切 履く・水掛け・健気	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 ま つ え 社 吟	5 日(土) 13時30分締切 両面・列・朗報・愛	松江市 雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222-1 相見柳歩
ほ たる 川 柳 同 好 会	8 日(火) 13時30分締切 手・投げる・いろいろ	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川 柳 あまがさき	8 日(火) 14時締切 開く・横・やすやす・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 阪急「武庫之荘」駅南へ200 m 〒661-0033 尼崎市南武庫之荘5-20-14 加川靖鬼
あかつき 川 柳 会	11 日(金) 14時締切 消える・涙・偶然・時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル 2F) 地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄
川 柳 塔 さ か い	11 日(金) 13時開場 筋・嫉む・ひのき(折句)	堺市総合福祉会館 〒590-0016 堺市堺区中田出井町3-4-31 村上玄也
川柳大阪	12 日(土) 14時締切 仮面・ぼつぼつ・叩く	地下鉄・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区本通4-11-6 山崎珠生
川 柳 塔 打 吹	12 日(土) 14時締切 家・軽やか・さっぱり	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	13 日(日) 14時締切 馴染・よれよれ・測る・雑詠	八尾市渋川町 安中町集会所 1F JR八尾駅から徒歩 5 分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川 柳 塔 わかやま 吟 社	13 日(日) 14時10分締切 兼 題 = 山葵・無意識・ほんわか 課題吟 = 過去	和歌山ビッグ愛 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 兼 題 〒640-8453 和歌山市木ノ本890-12 宮口克子 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪町東2-208-5 楽原道夫

柳界展望

★平成27年度「大山滝句座年度賞」

とほと歩くこの世の
あみだくじ
青尾くにご

★酒井紀華さん(同人・箕面市)は上方芸能199号

「私の趣味」に「私の趣味は現代川柳です」を執筆。

★木本朱夏さん(副理事長・和歌山市)は平成27

年12月17日、大阪府高齢者大学校エッセー科で川

柳講座を担当。

▽ご芳志御礼△
○故山崎君子さんから金一封拝受致しました。

▼訃報▲
■粗山隆盛さん(同人・大阪府)は、平成27年12

月5日逝去。享年八十七。

▽お詫びして訂正△
▼2月号II P43中段6行

新同人紹介

富永恭子
— 哲男・正和推薦

坂本とも湖
— 洋々・無限・一粋・一瑤推薦

詠

目、肅肅と無縁社会の風が吹く。蕭蕭と。P92下

段13行目、緑音が縁起の重み語る屋根。録音が。P1215段12行目、児玉則雄↓規雄。

▽新誌友紹介△
大阪市 井上 邦子
紹介者 宇都満知子

神戸市 阿重田照子
紹介者 黒田 能子

神戸市 黒田 能子
紹介者 園田 英子

神戸市 園田 英子
紹介者 黒田 能子

下松市 有海 静江
紹介者 新家 完司

府中市 田辺 和子
紹介者 田辺 和子

お知らせ

同人名簿増補版を発行します。

平成25年7月1日以降に住所・氏名・電話番号に変更のある方は文書で事務所までお申し出下さい。

締切り日 5月15日

締切り日 5月15日

第65回 西大寺会陽川柳大会

とき 平成28年3月6日(日)
午前10時開場
午前11時30分 投句締切
ところ 西大寺ふれあいセンター
(JR赤穂線西大寺駅徒歩7分)
会費 1500円(発表誌・記念品呈)
各題2句(席題は1句)欠席投句拝辞

兼題と選者
「裏声」 川上 大輪 選
「野」 石橋 芳山 選
「届く」 嶋村 幸 選
「マーク」 ひとり 静 選
「抱く」 高木 勇三 選
「挑戦」 大家 風太 選
「桃」 江尻 容子 選

席題(当日発表) 野島 全 選
問合せ・連絡先 西大寺川柳社
主幹 野島 全 TEL 086-943-4627
主催 西大寺川柳社

劇団大阪 シニア演劇大学 開校・募集

男も女も今が一番 昼間稽古する本格的アマチュア劇団を募集
募集 30名(男15名 女15名)
内容 俳優・スタッフ・制作・演出・劇作
募集期間 2015年11月～2016年3月31日
場所 劇団大阪(大阪市中央区谷町7-1-39-103 新谷町第二ビル)
地下鉄谷町線谷町6丁目下車③番出口より南へ3分
面接 12月～翌年3月
火・水・木曜日 午後0時30分より1時30分(連絡要)
発会式開始日 2016年4月6日(水) 以降水曜日、週一回、午後2時～5時
(但し、公演時は週2回になることもあり)
内容 6ヶ月は講演、ワークショップ、劇読み(近代古典から旬の劇作まで)、発声、ソング、発表会
あと6ヶ月で本格上演の為の稽古、有料公演
年齢 50歳以上 入会金 20,000円 団費 月6,000円
☆ 3年間期間限定劇団、3年で終了(卒業)

劇団大阪「シニア演劇大学」学長 木津川 計

お問い合わせ・お申し込み先 〒542-0012 大阪市中央区谷町7-1-39-103
TEL/FAX 06-6768-9957
Mail: g-osaka@etude.ocn.ne.jp
http://engekidaigaku.web.fc2.com/index.



第20回 川柳展望全国大会

日時 4月24日(日) 10時30分開場

場所 ホテル アウィーナ大阪

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12

TEL (06) 6772-1441

参加費 1500円

講演 「北海道川柳界現況」 太秦 三猿 氏

落語 「柳多留女の一生」 横山きのこ 氏

題と選者

席題 「 」 野島 全 選

宿題 「火」 田沢 恒坊 選

「迷う」 橋倉久美子 選

「待つ」 足立千恵子 選

「糸」 石井 華蓮 選

「窓」 新家 完司 選

自由吟 門脇かずお 選

自由吟 小島 蘭幸 選

自由吟 井上 一簡 選

自由吟 天根 夢草 選

各題2句 出句締切 12時00分

自由吟は各選者に違う句を出してください

事務局 〒567-0009 茨木市山手台4-6-3-101

TEL(072)649-5226 FAX(072)649-2334

主催 川柳展望社

全日本川柳鳥取大会記念

第16回 春はくろぼこ川柳大会

日時 4月10日(日) 午前10時開場

出句締切 11時

場所 さざんか会館(JR鳥取駅下車南口徒歩5分)

◎事前投句の部 出欠不問 (各題2句)

投句締切 3月20日 消印有効

「飛ぶ」 吉田 陽子 選

「島」 上野 楽生 選

「祭り」 高木 勇三 選

「色」 板野 美子 選

「踏む」 大内 朝子 選

◎当日の部 欠席投句可 (各題2句)

「笛」 矢沢 和女 選

「梓」 天根 夢草 選

「的(まと)」 小島 蘭幸 選

「列」 田中 新一 選

欠席投句 4月5日(月) 消印有効

投句料 当日の欠席投句 1000円

事前投句の部 1000円

当日出席2000円(弁当・お茶含む)

事前投句及び欠席投句/問合せ先

〒689-0343 鳥取市気高町飯里84-4

鈴木 公弘 宛 電話 0857-84-2886

主催 川柳同友会みらい

番傘わかくさ川柳会 創立70周年記念全国川柳大会 油谷克己句集『大和川』発刊

日時 5月1日(日) 午前11時開場

場所 ホテル大阪ベイタワー TEL06-6577-1111

(JR環状線「弁天町」駅下車すぐ)

事前投句 「広 い」 田中 新一 謝選

締切 3月22日(火) 必着

宿題 「きらきら」 赤松ますみ 選

「響く」 大西 泰世 選

「親子」 小島 蘭幸 選

「了見」 尾藤 一泉 選

「ハブニング」 森中恵美子 選

(アイウエオ順)

出句締切 12時(席題なし)

事前投句・宿題とも各題1句(欠席投句拝辞)

事前投句は所定の用紙、または葉書でお願い

します。

投句先 〒570-0011 守口市金田町3-48-4-202

藤井満洲夫 宛

会費 3000円(句集・記念品・昼食・発表誌呈)

懇親宴 7000円(17時~18時30分予定)

主催 番傘わかくさ川柳会

誌上競詠川柳「咲くやこの花賞」

28年度 題と選者 ハガキに2句

第1回 噴 森中恵美子 選 2月20日 済み

第2回 ばれる 井上 一簡 選 3月20日 締切

第3回 底 赤松ますみ 選 4月20日 締切

第4回 味 嶋澤喜八郎 選 5月20日 締切

第5回 にぎやか 前年度優勝 選 6月20日 締切

第6回 神秘 板野 美子 選 7月20日 締切

第7回 さすが 徳永 政二 選 8月20日 締切

第8回 実る 新家 完司 選 9月20日 締切

第9回 錯覚 雫石 隆子 選 10月20日 締切

第10回 凄 い 大野 風柳 選 11月20日 締切

第11回 邪魔 天根 夢草 選 12月20日 締切

第12回 溢れる 小島 蘭幸 選 1月20日 締切

投句料(掲載誌料含む) 1年 2000円とする

送金先 〒547-0006 大阪市平野区加美正覚寺

3-5-5-304 立蔵 信子 宛

投句先 〒572-0844 寝屋川市太秦緑が丘11-8

川柳瓦版の会

編集後記

★椿咲く浅き夢見じ白椿

薫風

★二〇一一年三月一日、午後二時四十六分。あの恐ろしい日から五年目を迎えようとしている。壊れた器は元に戻らない。以前の暮らしは取り戻せないけれど、涙の谷から立ち上がりつつある人、まだまだ復興にはほど遠く、被災者の一人一人に口には出来ぬ壮絶な時間が流れただろう。

★「検索は応援になる」というインターネットのサイトを見つけた。3.11というキーワードで検索された方おひとりにつき、10円をVAHOO 検索から、被災地の復興に携わる団体に寄付するプロジェクトらしい。識者のコメントを読みながら、コツコツと弛まず被災者に寄り添う多くの人がいることを知った。私には何が出来よう。改めて考えさせられる春。

★「あけましておめでとうございます。8月にすい臓がんで余命3ヶ月と言われてしまいました。が、今のところ抗がん剤が効いているようで平和な日々を過ごしています。句碑を静岡市葵区秘在寺に建立しました。句集『かつぶし』を新葉館出版から発刊しました。まだまだがんばります。今年も川柳塔まつり目標にガンバリます。加藤 馨」

★静岡市の川柳たかね代表の加藤馨さんの年賀状です。この賀状を出して3週間後に彼は突然旅立った。彼のブログには賑やかに楽しく新年会を開いた様子が掲載されている。少し痩せてはいるが、病状が急変するなど思いもしない元気が溢れていた。享年五一。余

ひとこと

おっぱこ吟社から

「おっぱこ吟社」は昭和六〇年五月に一五名の会員で発足しました。二四名の賑やかな時代もありましたが、現在六名の会員が月に一度勉強会を開いています。

従来の句会運営ではマンネリ化が強く相談の結果、全員が投句している新聞社の文芸欄の題で作句。勉強会で全員で推敲する方法を昨年から実行しています。

結果は一喜一憂ですが、以前より一生懸命に川柳に取り組んでいます。

(川崎ひかり)

命を宣告されてから、彼人は全国の川柳大会を飛び回っている。これからの川柳界をリードする川柳人だった。さぞかし無念だったろう。やすらかなご冥福をお祈りします。

(朱夏)

○昨年イングリッドで開催されたラグビーW杯で、日本は優勝候補の南アフリカに逆転勝利を挙げ、その実力を証明した。特に五郎丸のキックに入る

前のポーズが、ラグビー人気に拍車をかけ、川柳にも度々登場している。

○スポーツで世界的に活躍する選手は多い。フィギュアの羽生結弦は世界一である。今後彼の持つ記録を破るのは羽生自身であろうと言われている。

テニスでは、エアー主で、お馴染みの錦織圭、世界ランク7位（1月19日現在）である。ボクシングでは、世界チャンピオン

るのは確かです。この流れが川柳塔誌へ繋がるよう願っています。

小さな吟社ですが平成五年八月、栗先生、薫風先生の立派な句碑が建立され、大勢の川柳人をお迎えして開かれた大会を、今も懐かしく誇らしく思い出します。

薫風先生の句碑のある公園にはおっぱこの会員九名の句碑も仲間入りしています。川柳塔の灯を消すことなく、次の世代にバトンタッチできるように努力したいと思っています。

(まつお)

作品募集

5月号発表 (3月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭幸 選
水煙抄 (8句) 川上大輪 選
愛染帖 (3句) 新家司 選
檸檬抄 (2句) 三浦強一 共選
インスピレーションナヒ (2句) 長浜美籠 選
一路集 (2句) 大西泰世 選
「配る」 黒岩靖博 選
「自信」 玉置当選
初歩教室 「飽きる」 (3句) 山口光久担当

6月号

檸檬抄 「浴びる」
一路集 「振る」「まぶしい」
初歩教室 「主役」

本社3月句会

とき 3月7日(月) 13時開場・13時40分締切
—開場時間、締切時間を変更しています。ご注意ください。
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
天王寺区石ヶ辻町19-12 電06-6772-1441
おはなし「薫風先生の句」
兼題「キョトン」
「激しい」
「あきれ」
「素足」
「新鮮」
会費 1000円
投句料 500円(切手可)
水野黒兔氏 選
村上玄也 選
山野寿之 選
太田扶美代 選
中原比呂志 選
久保田千代 選
小島蘭幸 選
(各題2句以内)

本社4月句会

7日(木) 午後1時から

兼題「果物」「ひどい」「埋める」
「メルヘン」「景気」

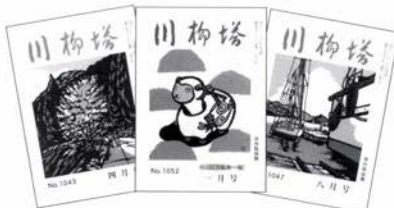
第34年度 夜市川柳募集

第10回「外れる」 岩田明子 選
ハガキに3句 3月20日締切
投句先 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3
河内天笑方 川柳塔さかい

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4

TEL (06) 6372-1178

FAX (06) 6372-1196

E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

定価 八百円(送料86円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)
二〇一六年(平成二十八年)三月一日発行
発行人 小島和幸
編集人 木本朱夏
印刷所 美研アート
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話 (06) 6779-1349 番
振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番

川柳塔のホームページアドレス

<http://www.senryutou.com/>

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。
料理をより美味しくする
ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。
それが「プレミアムロースト」。
素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。

株式会社 オニザキコーポレーションセールズ
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>